

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081101) 大学入門ゼミ L(1) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ Introduction to academic literacy	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期月1	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局:大教センター DPコード:acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 谷口 弓恵, 小西 憲一, 松下 幸司	関連授業科目 教職概論 (イ)		
	履修推奨科目		
学習時間 講義・演習90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 このゼミナールでは、大学生として受講に際して必要な技法(「情報整理の方法」「レポートの書き方」「日本語技法」「プレゼンテーションの方法」)を学びます。また、附属学校園の参観を通して、保育・授業や幼児児童生徒の活動を観察し、教員としての活動の一端に触れ、グループワークや発表を通して、技法の定着を図ります。			
授業の目的 この授業では、大学における学習に必要とされる参加型・能動的な学習形態を学び、大学生・社会人として必要な知的技法の基盤形成、および、責任感・協調性のある態度の涵養を目指します。			
到達目標			
1) 日本語の言語表現を適切に理解し、集団の中で自らの見解を文章や口頭でわかりやすく伝えることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応。) 2) 附属学校園を参観することによって、学校教育の現状と課題に関心を持ち、自らが志向する教員のイメージを把握しつつ、課題探求型の演習に主体的に参加することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応。) 3) プレゼンテーションの際に研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「市民としての責任感と倫理観」に対応。)			
成績評価の方法と基準 中間ミニレポート、ワークシート、最終レポート、グループによるプレゼンテーション等により評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
1 オリエンテーション、学生憲章と大学生としての自覚 2 【共通コンテンツ①】レポートの書き方 3 【共通コンテンツ②】情報整理の方法 4 【共通コンテンツ③】日本語技法 5 【共通コンテンツ④】プレゼンテーションの方法 6 小豆島一日研修事前指導、大学生としてのマナーある行動 7 小豆島一日研修 8 学校園訪問事前指導(視点と心構え、マナー・モラル) 9 学校園訪問 10 学校園訪問の成果交流 11 【共通コンテンツ活用演習①】学校園を「探究」しよう！(1)課題設定 12 【共通コンテンツ活用演習②】学校園を「探究」しよう！(2)個人探究活動 13 【共通コンテンツ活用演習③】学校園を「探究」しよう！(3)グループ交流・探究活動 14 【共通コンテンツ活用演習④】学校園を「探究」しよう！(4)プレゼンテーション作成 15 【共通コンテンツ活用演習⑤】学校園を「探究」しよう！(5)発表・まとめ			
※授業内容や授業方法に関する詳細計画については、第1回授業時に周知します。 ※新型コロナウイルス感染症への対応により、授業計画や実施方法を変更する場合があります。			
【自学自習に関するアドバイス】 第2回 課題として課されるレポートを書く中で「レポートの書き方」のポイントを確認する。 第3～5回 他授業において、調べたり、まとめたり、発表する活動や、授業担当教員宛にメールを書く際に実践し、ポイントを確認する。 第6・8回 自分たちが訪問する小豆島の研修場所や附属学校園についてHP等で事前に調査する。 第7・9・10回 『学びの記録』や『参観の記録』に学びの成果を記録するとともに、書き込んだメモを整理して、振り返り・成果交流活動に活かせるよう準備する。 第11～15回 共通コンテンツで身につけた学修スキルを活かして、学校園に関して課題設定～探究活動～交流活動～プレゼンテーション作成～発表活動を行うために、必要な調査活動や準備活動を個別に・グループで協力して進める。 (詳細は、授業時に指示する予定です。)			

教科書・参考書等

その都度必要な資料を配布する。

オフィスアワー 第1回授業時にクラス担任・副担任の教員より周知します。併せて、moodleに電子メールアドレスを記載します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回出席をとります。演習には積極的に参加してスキルを自分のものにしてください。

「教師をめざす学生」として自覚を持ち、小豆島一日研修や附属学校園訪問に臨んでください。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081102) 大学入門ゼミ L(2) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ Introduction to academic literacy	科目区分 大学入門ゼミ 水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ 授業形態 講義 グループワーク	時間割 2022年度 前期月1 提供部局:大教センター DPコード:acd 単位数 2	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 古橋 紀宏, 小西 憲一, 松下 幸司	関連授業科目 教職概論 (イ) 履修推奨科目		
学習時間 講義・演習90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 このゼミナールでは、大学生として受講に際して必要な技法(「情報整理の方法」「レポートの書き方」「日本語技法」「プレゼンテーションの方法」)を学びます。また、附属学校園の参観を通して、保育・授業や幼児児童生徒の活動を観察し、教員としての活動の一端に触れ、グループワークや発表を通して、技法の定着を図ります。			
授業の目的 この授業では、大学における学習に必要とされる参加型・能動的な学習形態を学び、大学生・社会人として必要な知的技法の基盤形成、および、責任感・協調性のある態度の涵養を目指します。			
到達目標			
1) 日本語の言語表現を適切に理解し、集団の中で自らの見解を文章や口頭でわかりやすく伝えることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応。) 2) 附属学校園を参観することによって、学校教育の現状と課題に関心を持ち、自らが志向する教員のイメージを把握しつつ、課題探求型の演習に主体的に参加することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応。) 3) プレゼンテーションの際に研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「市民としての責任感と倫理観」に対応。)			
成績評価の方法と基準 中間ミニレポート、ワークシート、最終レポート、グループによるプレゼンテーション等により評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
1 オリエンテーション、学生憲章と大学生としての自覚 2 【共通コンテンツ①】レポートの書き方 3 【共通コンテンツ②】情報整理の方法 4 【共通コンテンツ③】日本語技法 5 【共通コンテンツ④】プレゼンテーションの方法 6 小豆島一日研修事前指導、大学生としてのマナーある行動 7 小豆島一日研修 8 学校園訪問事前指導(視点と心構え、マナー・モラル) 9 学校園訪問 10 学校園訪問の成果交流 11 【共通コンテンツ活用演習①】学校園を「探究」しよう!(1)課題設定 12 【共通コンテンツ活用演習②】学校園を「探究」しよう!(2)個人探究活動 13 【共通コンテンツ活用演習③】学校園を「探究」しよう!(3)グループ交流・探究活動 14 【共通コンテンツ活用演習④】学校園を「探究」しよう!(4)プレゼンテーション作成 15 【共通コンテンツ活用演習⑤】学校園を「探究」しよう!(5)発表・まとめ			
※授業内容や授業方法に関する詳細計画については、第1回授業時に周知します。 ※新型コロナウイルス感染症への対応により、授業計画や実施方法を変更する場合があります。			
【自学自習に関するアドバイス】 第2回 課題として課されるレポートを書く中で「レポートの書き方」のポイントを確認する。 第3~5回 他授業において、調べたり、まとめたり、発表する活動や、授業担当教員宛にメールを書く際に実践し、ポイントを確認する。 第6・8回 自分たちが訪問する小豆島の研修場所や附属学校園についてHP等で事前に調査する。 第7・9・10回 『学びの記録』や『参観の記録』に学びの成果を記録するとともに、書き込んだメモを整理して、振り返り・成果交流活動に活かせるよう準備する。 第11~15回 共通コンテンツで身につけた学修スキルを活かして、学校園に関して課題設定~探究活動~交流活動~プレゼンテーション作成~発表活動を行うために、必要な調査活動や準備活動を個別に・グループで協力して進める。 (詳細は、授業時に指示する予定です。)			

教科書・参考書等

その都度必要な資料を配布する。

オフィスアワー 第1回授業時にクラス担任・副担任の教員より周知します。併せて、moodleに電子メールアドレスを記載します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回出席をとります。演習には積極的に参加してスキルを自分のものにしてください。

「教師をめざす学生」として自覚を持ち、小豆島一日研修や附属学校園訪問に臨んでください。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081103) 大学入門ゼミ L(3) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ Introduction to academic literacy	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期月1	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局:大教センター DPコード:acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 一色 玲子, 四ッ谷 直仁, 松下 幸司	関連授業科目 教職概論 (イ)	履修推奨科目	
学習時間 講義・演習90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 このゼミナールでは、大学生として受講に際して必要な技法(「情報整理の方法」「レポートの書き方」「日本語技法」「プレゼンテーションの方法」)を学びます。また、附属学校園の参観を通して、保育・授業や幼児児童生徒の活動を観察し、教員としての活動の一端に触れ、グループワークや発表を通して、技法の定着を図ります。			
授業の目的 この授業では、大学における学習に必要とされる参加型・能動的な学習形態を学び、大学生・社会人として必要な知的技法の基盤形成、および、責任感・協調性のある態度の涵養を目指します。			
到達目標			
1) 日本語の言語表現を適切に理解し、集団の中で自らの見解を文章や口頭でわかりやすく伝えることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応。) 2) 附属学校園を参観することによって、学校教育の現状と課題に関心を持ち、自らが志向する教員のイメージを把握しつつ、課題探求型の演習に主体的に参加することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応。) 3) プレゼンテーションの際に研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「市民としての責任感と倫理観」に対応。)			
成績評価の方法と基準 中間ミニレポート、ワークシート、最終レポート、グループによるプレゼンテーション等により評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
1 オリエンテーション、学生憲章と大学生としての自覚 2 【共通コンテンツ①】レポートの書き方 3 【共通コンテンツ②】情報整理の方法 4 【共通コンテンツ③】日本語技法 5 【共通コンテンツ④】プレゼンテーションの方法 6 小豆島一日研修事前指導、大学生としてのマナーある行動 7 小豆島一日研修 8 学校園訪問事前指導(視点と心構え、マナー・モラル) 9 学校園訪問 10 学校園訪問の成果交流 11 【共通コンテンツ活用演習①】学校園を「探究」しよう！(1)課題設定 12 【共通コンテンツ活用演習②】学校園を「探究」しよう！(2)個人探究活動 13 【共通コンテンツ活用演習③】学校園を「探究」しよう！(3)グループ交流・探究活動 14 【共通コンテンツ活用演習④】学校園を「探究」しよう！(4)プレゼンテーション作成 15 【共通コンテンツ活用演習⑤】学校園を「探究」しよう！(5)発表・まとめ			
※授業内容や授業方法に関する詳細計画については、第1回授業時に周知します。 ※新型コロナウイルス感染症への対応により、授業計画や実施方法を変更する場合があります。			
【自学自習に関するアドバイス】			
第2回 課題として課されるレポートを書く中で「レポートの書き方」のポイントを確認する。 第3～5回 他授業において、調べたり、まとめたり、発表する活動や、授業担当教員宛にメールを書く際に実践し、ポイントを確認する。 第6・8回 自分たちが訪問する小豆島の研修場所や附属学校園についてHP等で事前に調査する。 第7・9・10回 『学びの記録』や『参観の記録』に学びの成果を記録するとともに、書き込んだメモを整理して、振り返り・成果交流活動に活かせるよう準備する。 第11～15回 共通コンテンツで身につけた学修スキルを活かして、学校園に関して課題設定～探究活動～交流活動～プレゼンテーション作成～発表活動を行うために、必要な調査活動や準備活動を個別に・グループで協力して進める。 (詳細は、授業時に指示する予定です。)			

教科書・参考書等

その都度必要な資料を配布する。

オフィスアワー 第1回授業時にクラス担任・副担任の教員より周知します。併せて、moodleに電子メールアドレスを記載します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回出席をとります。演習には積極的に参加してスキルを自分のものにしてください。

「教師をめざす学生」として自覚を持ち、小豆島一日研修や附属学校園訪問に臨んでください。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081104) 大学入門ゼミ L(4) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ Introduction to academic literacy	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期月1	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局:大教センター DPコード:acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 松島 充, 四ッ谷 直仁, 松下 幸司	関連授業科目 教職概論 (イ)	履修推奨科目	
学習時間 講義・演習90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 このゼミナールでは、大学生として受講に際して必要な技法(「情報整理の方法」「レポートの書き方」「日本語技法」「プレゼンテーションの方法」)を学びます。また、附属学校園の参観を通して、保育・授業や幼児児童生徒の活動を観察し、教員としての活動の一端に触れ、グループワークや発表を通して、技法の定着を図ります。			
授業の目的 この授業では、大学における学習に必要なとされる参加型・能動的な学習形態を学び、大学生・社会人として必要な知的技法の基盤形成、および、責任感・協調性のある態度の涵養を目指します。			
到達目標			
1) 日本語の言語表現を適切に理解し、集団の中で自らの見解を文章や口頭でわかりやすく伝えることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応。) 2) 附属学校園を参観することによって、学校教育の現状と課題に関心を持ち、自らが志向する教員のイメージを把握しつつ、課題探求型の演習に主体的に参加することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応。) 3) プレゼンテーションの際に研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「市民としての責任感と倫理観」に対応。)			
成績評価の方法と基準 中間ミニレポート、ワークシート、最終レポート、グループによるプレゼンテーション等により評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
1 オリエンテーション、学生憲章と大学生としての自覚 2 【共通コンテンツ①】レポートの書き方 3 【共通コンテンツ②】情報整理の方法 4 【共通コンテンツ③】日本語技法 5 【共通コンテンツ④】プレゼンテーションの方法 6 小豆島一日研修事前指導、大学生としてのマナーある行動 7 小豆島一日研修 8 学校園訪問事前指導(視点と心構え、マナー・モラル) 9 学校園訪問 10 学校園訪問の成果交流 11 【共通コンテンツ活用演習①】学校園を「探究」しよう！(1)課題設定 12 【共通コンテンツ活用演習②】学校園を「探究」しよう！(2)個人探究活動 13 【共通コンテンツ活用演習③】学校園を「探究」しよう！(3)グループ交流・探究活動 14 【共通コンテンツ活用演習④】学校園を「探究」しよう！(4)プレゼンテーション作成 15 【共通コンテンツ活用演習⑤】学校園を「探究」しよう！(5)発表・まとめ			
※授業内容や授業方法に関する詳細計画については、第1回授業時に周知します。 ※新型コロナウイルス感染症への対応により、授業計画や実施方法を変更する場合があります。			
【自学自習に関するアドバイス】			
第2回 課題として課されるレポートを書く中で「レポートの書き方」のポイントを確認する。 第3～5回 他授業において、調べたり、まとめたり、発表する活動や、授業担当教員宛にメールを書く際に実践し、ポイントを確認する。 第6・8回 自分たちが訪問する小豆島の研修場所や附属学校園についてHP等で事前に調査する。 第7・9・10回 『学びの記録』や『参観の記録』に学びの成果を記録するとともに、書き込んだメモを整理して、振り返り・成果交流活動に活かせるよう準備する。 第11～15回 共通コンテンツで身につけた学修スキルを活かして、学校園に関して課題設定～探究活動～交流活動～プレゼンテーション作成～発表活動を行うために、必要な調査活動や準備活動を個別に・グループで協力して進める。 (詳細は、授業時に指示する予定です。)			

教科書・参考書等

その都度必要な資料を配布する。

オフィスアワー 第1回授業時にクラス担任・副担任の教員より周知します。併せて、moodleに電子メールアドレスを記載します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回出席をとります。演習には積極的に参加してスキルを自分のものにしてください。

「教師をめざす学生」として自覚を持ち、小豆島一日研修や附属学校園訪問に臨んでください。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081105) 大学入門ゼミ L(5) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ Introduction to academic literacy	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期月1	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局:大教センター DPコード:acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 小方 朋子, 植田 和也, 松下 幸司	関連授業科目 教職概論 (イ)	履修推奨科目	
学習時間 講義・演習90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 このゼミナールでは、大学生として受講に際して必要な技法(「情報整理の方法」「レポートの書き方」「日本語技法」「プレゼンテーションの方法」)を学びます。また、附属学校園の参観を通して、保育・授業や幼児児童生徒の活動を観察し、教員としての活動の一端に触れ、グループワークや発表を通して、技法の定着を図ります。			
授業の目的 この授業では、大学における学習に必要とされる参加型・能動的な学習形態を学び、大学生・社会人として必要な知的技法の基盤形成、および、責任感・協調性のある態度の涵養を目指します。			
到達目標			
1) 日本語の言語表現を適切に理解し、集団の中で自らの見解を文章や口頭でわかりやすく伝えることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応。) 2) 附属学校園を参観することによって、学校教育の現状と課題に関心を持ち、自らが志向する教員のイメージを把握しつつ、課題探求型の演習に主体的に参加することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応。) 3) プレゼンテーションの際に研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「市民としての責任感と倫理観」に対応。)			
成績評価の方法と基準 中間ミニレポート、ワークシート、最終レポート、グループによるプレゼンテーション等により評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
1 オリエンテーション、学生憲章と大学生としての自覚 2 【共通コンテンツ①】レポートの書き方 3 【共通コンテンツ②】情報整理の方法 4 【共通コンテンツ③】日本語技法 5 【共通コンテンツ④】プレゼンテーションの方法 6 小豆島一日研修事前指導、大学生としてのマナーある行動 7 小豆島一日研修 8 学校園訪問事前指導(視点と心構え、マナー・モラル) 9 学校園訪問 10 学校園訪問の成果交流 11 【共通コンテンツ活用演習①】学校園を「探究」しよう！(1)課題設定 12 【共通コンテンツ活用演習②】学校園を「探究」しよう！(2)個人探究活動 13 【共通コンテンツ活用演習③】学校園を「探究」しよう！(3)グループ交流・探究活動 14 【共通コンテンツ活用演習④】学校園を「探究」しよう！(4)プレゼンテーション作成 15 【共通コンテンツ活用演習⑤】学校園を「探究」しよう！(5)発表・まとめ			
※授業内容や授業方法に関する詳細計画については、第1回授業時に周知します。 ※新型コロナウイルス感染症への対応により、授業計画や実施方法を変更する場合があります。			
【自学自習に関するアドバイス】			
第2回 課題として課されるレポートを書く中で「レポートの書き方」のポイントを確認する。 第3～5回 他授業において、調べたり、まとめたり、発表する活動や、授業担当教員宛にメールを書く際に実践し、ポイントを確認する。 第6・8回 自分たちが訪問する小豆島の研修場所や附属学校園についてHP等で事前に調査する。 第7・9・10回 『学びの記録』や『参観の記録』に学びの成果を記録するとともに、書き込んだメモを整理して、振り返り・成果交流活動に活かせるよう準備する。 第11～15回 共通コンテンツで身につけた学修スキルを活かして、学校園に関して課題設定～探究活動～交流活動～プレゼンテーション作成～発表活動を行うために、必要な調査活動や準備活動を個別に・グループで協力して進める。 (詳細は、授業時に指示する予定です。)			

教科書・参考書等

その都度必要な資料を配布する。

オフィスアワー 第1回授業時にクラス担任・副担任の教員より周知します。併せて、moodleに電子メールアドレスを記載します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回出席をとります。演習には積極的に参加してスキルを自分のものにしてください。

「教師をめざす学生」として自覚を持ち、小豆島一日研修や附属学校園訪問に臨んでください。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081106) 大学入門ゼミ L(6) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ Introduction to academic literacy	科目区分 大学入門ゼミ 水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ 授業形態 講義 グループワーク	時間割 2022年度 前期月1 提供部局:大教センター DPコード:acd 単位数 2	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 清水 顕人, 植田 和也, 松下 幸司	関連授業科目 教職概論 (イ) 履修推奨科目		
学習時間 講義・演習90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 このゼミナールでは、大学生として受講に際して必要な技法(「情報整理の方法」「レポートの書き方」「日本語技法」「プレゼンテーションの方法」)を学びます。また、附属学校園の参観を通して、保育・授業や幼児児童生徒の活動を観察し、教員としての活動の一端に触れ、グループワークや発表を通して、技法の定着を図ります。			
授業の目的 この授業では、大学における学習に必要なとされる参加型・能動的な学習形態を学び、大学生・社会人として必要な知的技法の基盤形成、および、責任感・協調性のある態度の涵養を目指します。			
到達目標			
1) 日本語の言語表現を適切に理解し、集団の中で自らの見解を文章や口頭でわかりやすく伝えることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応。) 2) 附属学校園を参観することによって、学校教育の現状と課題に関心を持ち、自らが志向する教員のイメージを把握しつつ、課題探求型の演習に主体的に参加することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応。) 3) プレゼンテーションの際に研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「市民としての責任感と倫理観」に対応。)			
成績評価の方法と基準 中間ミニレポート、ワークシート、最終レポート、グループによるプレゼンテーション等により評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
1 オリエンテーション、学生憲章と大学生としての自覚 2 【共通コンテンツ①】レポートの書き方 3 【共通コンテンツ②】情報整理の方法 4 【共通コンテンツ③】日本語技法 5 【共通コンテンツ④】プレゼンテーションの方法 6 小豆島一日研修事前指導、大学生としてのマナーある行動 7 小豆島一日研修 8 学校園訪問事前指導(視点と心構え、マナー・モラル) 9 学校園訪問 10 学校園訪問の成果交流 11 【共通コンテンツ活用演習①】学校園を「探究」しよう！(1)課題設定 12 【共通コンテンツ活用演習②】学校園を「探究」しよう！(2)個人探究活動 13 【共通コンテンツ活用演習③】学校園を「探究」しよう！(3)グループ交流・探究活動 14 【共通コンテンツ活用演習④】学校園を「探究」しよう！(4)プレゼンテーション作成 15 【共通コンテンツ活用演習⑤】学校園を「探究」しよう！(5)発表・まとめ ※授業内容や授業方法に関する詳細計画については、第1回授業時に周知します。 ※新型コロナウイルス感染症への対応により、授業計画や実施方法を変更する場合があります。			
【自学自習に関するアドバイス】 第2回 課題として課されるレポートを書く中で「レポートの書き方」のポイントを確認する。 第3～5回 他授業において、調べたり、まとめたり、発表する活動や、授業担当教員宛にメールを書く際に実践し、ポイントを確認する。 第6・8回 自分たちが訪問する小豆島の研修場所や附属学校園についてHP等で事前に調査する。 第7・9・10回 『学びの記録』や『参観の記録』に学びの成果を記録するとともに、書き込んだメモを整理して、振り返り・成果交流活動に活かせるよう準備する。 第11～15回 共通コンテンツで身につけた学修スキルを活かして、学校園に関して課題設定～探究活動～交流活動～プレゼンテーション作成～発表活動を行うために、必要な調査活動や準備活動を個別に・グループで協力して進める。 (詳細は、授業時に指示する予定です。)			

教科書・参考書等

その都度必要な資料を配布する。

オフィスアワー 第1回授業時にクラス担任・副担任の教員より周知します。併せて、moodleに電子メールアドレスを記載します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回出席をとります。演習には積極的に参加してスキルを自分のものにしてください。

「教師をめざす学生」として自覚を持ち、小豆島一日研修や附属学校園訪問に臨んでください。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081201) 大学入門ゼミ J(1) Startup Seminar on Academic Literacy 大学生活と(刑)法 Introduction to (Criminal)Law	科目区分 大学入門ゼミ 水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ 授業形態 講義 グループワーク	時間割 2022年度 前期火4 提供部局:大教センター DPコード:acx 単位数 2	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 天田 悠	関連授業科目 刑事法入門、民法入門、憲法入門 履修推奨科目 同上		
学習時間 授業90分×15回+自習時間(事前学習30時間+事後学習30時間) ※下記【教科書】の該当頁を事前に読んでおくことが履修の前提です			
授業の概要 法学部に入学したばかりの皆さんにおいては、「(刑)法とは何か」、「(刑)法を学ぶ意味は何か」について、具体的なイメージを持ち合わせていない方がほとんどだと思います。しかし、大学生活の中には、(刑)法と密接に関わりあう問題が数多く潜んでいます。この科目は、大学生活をつうじて「(刑)法」を考えることで、今後皆さんが学習する法律関連科目をより深く理解できるようになるための橋渡しをすることを狙いとするものです。			
授業の目的 この授業は、大学生活をつうじて(刑)法について考え、議論する力を養成することを目的とします。具体的には、第1回~7回では、判例の調べ方、文献の読み方、報告の方法、レジュメの作成方法といった演習科目における種々のマナーの習得を、第8回~15回では、「(刑)法」というツールを使って大学生活の諸問題を自分なりに考察できるようになることを目標とします。			
到達目標			
以上の目的を達成するために、この授業では、以下の(1)~(3)を到達目標とします。 (1)判例の検索方法や文献の引用方法など、法律学を学ぶ上で最低限必要な作法を身につけることができる(第1回~第7回:共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 (2)(刑)法学に関する基礎知識を習得することができる(第8回~第15回:共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 (3)以上を前提に、「大学生活と(刑)法」をめぐる諸問題につき、自分なりの回答を示すことができる。			
成績評価の方法と基準 各受講生が分担して行う報告の内容(50%:到達目標(1)(2)に対応)、議論への積極的参加(50%:到達目標(2)(3)に対応)を総合的に評価します。 なお、この授業はゼミですので毎回出席をとります。欠席の場合は、理由を添えて必ず事前にメールでその旨連絡して下さい。無断欠席・遅刻に対しては厳正に対処します。また、授業に2/3以上出席しなければ、単位を認定しません。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション 第2回 図書館・資料室ガイダンス 第3回 法学部講演会 第4回 リーガル・リサーチ(1):判例調査の意義と方法 第5回 リーガル・リサーチ(2):法律文献の読み方・調べ方 第6回 文献報告の方法とレジュメの作成(1):情報整理の方法 第7回 文献報告の方法とレジュメの作成(2):推敲の技法 第8回 プレゼンテーション準備(1):文献報告の分担決め 第9回 プレゼンテーション準備(2):(グループ)ディスカッション 第10回 プレゼンテーション(1):後掲教科書・第I部ACT1の報告とそれに基づく議論 第11回 プレゼンテーション(2):後掲教科書・第I部ACT2の報告とそれに基づく議論 第12回 プレゼンテーション(3):後掲教科書・第I部ACT3の報告とそれに基づく議論 第13回 プレゼンテーション(4):後掲教科書・第I部ACT4の報告とそれに基づく議論 第14回 プレゼンテーション(5):後掲教科書・第I部ACT5の報告とそれに基づく議論 第15回 春学期の総括 *受講生の人数や関心次第では、上記日程および報告テーマは一部変更する可能性があります。そのため、第1回のオリエンテーションの際に、予習・復習の案内などを記載した、より詳細な予定表を配布します。			
【自学自習に関するアドバイス】 指定教科書に事前に目を通してから授業に臨んでください。また、発表担当者ではなくても、最低限、教科書の該当頁を事前に読んでおくことが履修の前提となります。			

【履修上の注意】

この授業は対面での実施を基本とします。ただし、状況により、教員の判断で授業の全部または一部を遠隔に変更する可能性があります。

教科書・参考書等**【教科書】**

江藤祥平ほか『大学生活と法学』（2022年1月刊行予定・有斐閣）、1,800円（税抜）

田高寛貴＝原田昌和＝秋山靖浩『リーガル・リサーチ&レポート〔第2版〕』（2019年・有斐閣）、1,700円（税抜）

【参考書】

特にありません。必要に応じて教場で指示します。ただし、最新の六法は毎回必ず持参してください。

オフィスアワー 火曜日3限・幸町南キャンパス6号館3階（できるかぎり事前にアポをとってください）

なお、Zoom等を用いたオンラインでの面談も対応可能です。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

ゼミは法的思考力とその表現方法を学ぶ場です。したがって、積極的に発言・質問することが求められます。ただ出席してその場にいるだけの学生に対しては、成績評価もおのずと厳しくなりますので、そのつもりで参加してください。とはいえ、法律学（特に刑法）に少しでも興味がある人が気負うことなく楽しく学べる授業にしたいと思っています。

ナンバリングコード B1ACL-acbG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081202) 大学入門ゼミ J(2) Startup Seminar on Academic Literacy アカデミックスキルの実践	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期火4	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局:大教センター DPコード:acb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 春日川 路子	関連授業科目 民法、刑法、憲法		
	履修推奨科目 民法、刑法、憲法		
学習時間 講義90分×15回+自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
大学では専門的な学問領域について、自分で学習することが要求されます。具体的には、レポートを作成したり、テーマに関する報告・発表を行うこともあります。さらに、グループに分かれて複数の人と協力して学ぶ機会もあります。この授業では、法律をテーマとする文献の輪読やその内容の発表を通して、大学で学ぶ上で参考となる技術や方法を実践します。			
授業の目的			
法律に関する文章を題材として、大学での学習の参考となる技術や方法を知り、それらを与えられた課題において適用できるようになる。			
到達目標			
1. 大学での学習の参考となる、文章執筆や発表に関する技術や方法を列挙できる。 2. 学習した技術や方法を、近時の法律に関する文章を中心とする課題に適用できる (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. クラス全体およびグループごとの活動や討論に寄与できる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
提出物の提出状況、課題への取り組み状況、授業中の態度 (発言、クラス全体またはグループワークへの寄与)から総合的に評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
新型コロナウイルス感染症の感染状況や授業の進捗状況等により、予定を変更することがある。 この授業は全回対面授業を行う予定である。			
第1回 ガイダンス 第2回 図書館・資料室ツアー(予定) 第3回 情報整理の方法、日本語技法、レポート執筆の基礎 第4回 レポートの書き方① 第5回 法学部講演会 (予定) 第6回 レポートの書き方② 第7回 プレゼンテーションの方法① 第8回 プレゼンテーションの方法② 第9回 発表の実践① 第10回 発表の実践② 第11回 期末報告①-1 第12回 期末報告①-2 第13回 期末報告②-1 第14回 期末報告②-2 第15回 授業の振り返り			
自学自習のアドバイス 授業内で配布予定の資料を予習して授業に出席すること。 事前学習として資料を読んで疑問点を明らかにする、意見を考える、発表の準備をする、事後学習として資料を再度読む、自身および他のグループの発表の内容および発表態度を振り返る等の学習を行ってほしい。 授業のなかで紹介された具体的な技術や方法を、ほかの授業のなかでも実践するとよい。			
教科書・参考書等			
授業内で適宜資料を配付する。			
オフィスアワー 木曜13時から14時 (前期後期共通) 幸町南6号館4階 春日川研究室			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ			
演習形式の授業なので、授業に出席し、他の受講者と意見を交換するなど積極的に発言してほしい。			

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081203) 大学入門ゼミ J(3) Startup Seminar on Academic Literacy 自由と法について考える Startup seminar -Liberty and Law	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期火3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局:大教センター DPコード:acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 岸野 薫	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 演習90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 授業計画の前半では、大学生・社会人として必要な知的技法を身につけることを目指します。 授業計画の後半では、前半に学んだ基本的スキルを生かして、自由と法にかかわる問題を素材にグループで報告・議論を行い、その問題をいかにして解決するかを考えていきます。			
授業の目的 本ゼミは、①大学生として必要な知的技法を学ぶと同時に、②基本的な法的思考方法を身につけることを目的とします。			
到達目標			
①必要な形式を守り、課題に沿った内容のレポートを書くことができる。 [→共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応] ②法的課題を見つけ出し、解決の道筋を考えることができる。 ③積極的に議論に参加し、他者を説得する意見を述べることができる。 [→②及び③は共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応]			
成績評価の方法と基準 各テーマ毎のミニレポート(複数回)40%、1500字のレポート(1回)30%、報告及び発言30%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業形態】 演習形式で全回対面授業を行います。なお、状況により全部または一部の授業回を遠隔授業へ変更する場合があります。			
【授業計画】 第1回 ガイダンス(授業の概要の説明、班分けなど) 第2回 報告レジュメやレポートの作成に必要な資料収集の方法を学ぶ(@大学図書館・法学資料室) 第3回 情報整理の方法・日本語技法を学ぶ 第4回 レポート作成時の作法(研究倫理)を学ぶ 第5回 プレゼンテーションの方法を学ぶ 第6回 講演会 第7回 実践:未成年者の自由と法(1) 第8回 実践:未成年者の自由と法(2) 第9回 実践:表現の自由と法(1) 第10回 実践:表現の自由と法(2) 第11回 実践:学校生活と信教の自由(1) 第12回 実践:学校生活と信教の自由(2) 第13回 実践:自由と平等(1) 第14回 実践:自由と平等(2) 第15回 まとめ *第2回から第6回は全学の「共通コンテンツ」となります。大学図書館・資料室の見学、講演会の日程については現在未定のため、第2回から第6回の間で順番が入れ替わることがあります。			
【準備学習・事後学習】 第2回から第5回については、授業資料の見直しなど事後学習が中心となります。 第6回の講演会後は、事後学習としてミニレポートを作成します。 第7回以降は、班に分かれて実践的な議論を行います。そのため、a)準備学習として、報告班はレジュメの作成等の報告準備を行います。報告班以外は各回に予定されているテーマを教科書で予習し、議論に備えます。b)事後学習として、ミニレポートを作成します。報告班は1500字のレポートを作成します。			
教科書・参考書等 穴戸常寿編『18歳から考える人権〔第2版〕』(法律文化社、2020年)2,300円+税			
オフィスアワー 前期:火曜日10:30-11:30 南キャンパス6号館5階			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 無断欠席は厳禁です。			

<p>ナンバリングコード B1ACL-acbG-10-Ef2 授業科目名 (時間割コード:081204)</p> <p>大学入門ゼミ J(4) Startup Seminar on Academic Literacy</p> <p>大学入門ゼミ 法の運用現場を学ぶ(Introduction to how to practice law)</p>	<p>科目区分 大学入門ゼミ</p> <p>水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ</p> <p>授業形態 演習 フィールドワーク</p>	<p>時間割 2022年度 前期火3</p> <p>提供部局: 大教センター DPコード: acb</p> <p>単位数 2</p>	<p>対象年次 1~</p> <p>対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし</p>
<p>担当教員名 平野 美紀</p>	<p>関連授業科目 刑事法入門、刑法総論、刑法各論、刑事訴訟法、少年法 履修推奨科目 刑事法入門</p>		
<p>学習時間 講義90分×6回+グループ学習90分×5回+施設見学等4回+自学自習</p>			
<p>授業の概要</p> <p>新入生が大学での勉学を開始するにあたり、必要な事項(たとえばレポートの書き方など)を大学共通事項として学び、さらにそれを実践的します(自分でレポートを書いて教員が添削する等)。また法学部生として必要な資料収集方法を学び、それを実践して収集したうえで、グループによって報告にまとめます。その際には、プレゼンの仕方、また報告を聞く側はそのマナーも学びます。また、裁判所や刑務所見学を行い、法律が実際にどのように運用されているのかの実際も学びます。</p>			
<p>授業の目的</p> <p>①: 大学生として必要なレポートの書き方やプレゼンテーションの方法、法学部生として必要な文献収集方法を学ぶ。 ②: 施設等を見学したり、実務家の話を聞き、実際の法の運用について学ぶ。 ③: ①や②について、一定のルールに従って、ほかの人に理解してもらえるような、レポート、プレゼンテーションを行う。</p>			
<p>到達目標</p>			
<p>①必要な文献・判例を収集し、読み込むことができる。 ②資料をもとに、聞いている人にわかりやすいプレゼンができる。 ③資料や自分の考えをレポートとして文章にまとめることができる。 ④他の人のプレゼンや意見を聞き、お互いに学びあうことができる。 ⑤成文法と法の運用現場について、自分の考えを述べることができる。 (共通教育スタンダードの以下に対応 ・言語運用能力/課題解決のための汎用的スキル ・知識・理解/広範な人文・社会・自然に関する知識 ・問題解決・課題探求能力/21世紀社会の諸課題に対する探求能力)</p>			
<p>成績評価の方法と基準</p>			
<p>レポート45%、プレゼンほかグループワーク(見学含む)への積極的な参加55%</p>			
<p>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</p>			
<p>*コロナの感染拡大防止等の事情、および見学予定先の事情等により施設見学の予定が変更になると日程や予定は大幅に変更となる可能性があります。詳細は初回授業のガイダンス時に説明しますが、その後はMoodle上で各自予定を確認の上、参加してください。 *この科目は基本的に対面授業を行います。</p>			
<p>(1) ガイダンス<対面> (2) 情報整理法・日本語技法・<対面> (3) プレゼン方法・レポートの書き方・施設見学の注意事項<対面> (4) 情報収集と資料収集の方法・プレゼン①準備 <対面> (5) プレゼン①準備(グループワーク)<対面> (6) プレゼン①実践(グループワーク)<対面> (7) フィールドワーク【課題レポート①】<対面> (8) 課題レポート①の講評(グループワーク)<対面> (9) 法学部・講演会【課題レポート②】 (10) プレゼン②準備(グループワーク) <対面> (11) 課題レポート②の講評(グループワーク)<対面> (12) プレゼン②実践(グループワーク)<対面> (13) フィールドワーク【課題レポート③】<対面> (14) 課題レポート③講評(グループワーク)<対面> (15) まとめ <対面></p>			
<p>【自学自習について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 講義の際、教員にメールで書類を添付したり、Moodleに書類を提出してみる。 設定されたテーマについて、グループごとに資料を収集し、報告内容をまとめて、プレゼンする。 施設見学をし、その内容と感想をレポートにまとめる。 			

- ・レポートは教員が添削するほか、（執筆者の氏名を削除した）レポートをお互いが講評することで、議論の仕方を学ぶ。
- ・他の人の書いたレポートから学び、自分のレポートについても客観的視点を得る。

教科書・参考書等

資料等を配布して説明し、またテーマごとに自分たちで資料収集を行ってもらいます。
刑事法入門で使用する教科書（『基礎から学ぶ刑事法（第6版）』）の使用を推奨します。

オフィスアワー 水曜 12時～13時 可能な限り下記メールアドレス宛に事前にご連絡ください
(3階 平野研究室)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

・フィールドワーク（施設見学）は先方の事情やコロナ感染防止対策等により、上記予定も変更の可能性があります。また、水曜3時限目に行く可能性があります。詳細は授業第1回目のガイダンスにてお知らせし、以後の変更等はMoodle上にて周知いたします。

ナンバリングコード B1ACL-acbG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081205) 大学入門ゼミ J(5) Startup Seminar on Academic Literacy 民主主義とは何だろうか What is democracy ?	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期火3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局:大教センター DPコード:acb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 藤井 篤	関連授業科目 平和学、国際関係論、政治思想、政治過程論		
	履修推奨科目 平和学、国際関係論		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要			
民主主義とは何かは自明の問題ではない。これまで民主主義とは何だと考えられてきたのか、私たちの生活にとって民主主義にはどのような意味があるのか、今後民主主義はどのようなものになりそうかについて、最新の政治学のテキストを読みながら、みんなで考える。また代表、討議、権力、決定、自由といった政治にかかわる概念について理解を深める。テキストを読みながら、批判的読解力を身につけ、発表や討論の作法を学ぶ。そして政治に関する問いの正解はひとつではなく、いろいろあるのだということを理解する。			
授業の目的			
民主主義をめぐる諸問題について、政治学的に考え、説明ができるようになる。テキストを素材として、論理的な文章を読解できるようになる。さらに自分の考えを論理的に表現できるようになる。公共社会において責任のある市民として活躍できるようになる。			
到達目標			
1. 現代の民主主義が抱えている諸問題について、政治学の概念を正しく使いながら説明ができるようになる(共通教育スタンダードの「知識・理解/広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. テキストを正しく読解しながら、批判的に考える能力と習慣を身につける(共通教育スタンダードの「問題解決・課題探求能力/21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 論理的に自分の考えを表現できる文章力を身につける(共通教育スタンダードの「言語運用能力/課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
毎週のゼミへの出席と取り組み方の熱意(40%)、書評レポートの出来(50%)、法学部講演会参加感想文(10%)を総合して成績評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
第1回 オリエンテーション:政治学的に考えるととはどういうことか 第2回 情報検索の技術 図書館を使う 第3回 情報整理の方法/日本語技法① 第4回 日本語技法②/プレゼンテーションの方法 第5回 レポートの書き方 第6回 法学部講演会 第7回 宇野重規『〈私〉時代のデモクラシー』岩波新書、第1章 第8回 同上、第2章 第9回 同上、第3章 第10回 同上、第4章 第11回 杉田敦『政治的思考』岩波新書、第1、2章 第12回 同上、第3、4章 第13回 同上、第5、6章 第14回 同上、第7、8章 第15回 総括 2冊の本を読み比べて論じる。			
なお、現在のところ5月25日に法学部講演会が開催予定であり、上記の授業計画ではその週の第6回の大学入門ゼミの授業に代替させる。学生には講演会に参加した感想文の提出を求める。			
【授業及び学習の方法】			
テキストの輪読形式でゼミを進める。履修者全体を4つの班に分けて、各班ごとに報告発表をしてもらう。また第2回では図書館で情報検索の技術を学び、単行本、雑誌論文、新聞記事の探し方を身につける。第3回以降の報告発表では、テキストの単なる要約ではなく、新たに自分たちで調べた知見やニュースを盛り込みながら、テキストの内容を裏付けたり、反論したりする「批判的読解」を求める。取り上げたテキストのうちいずれか1冊について書評レポートを書いてもらう。			
この科目は原則として全回対面授業を行います。なお、状況により全部または一部の授業回を遠隔授業へ変更する場合があります。			

【自学自習のためのアドバイス】

全員毎回テキストの指定された箇所を必ず読んだ上で授業に臨むこと。事前に2回繰り返して読むこと。テキストに赤線を引いたり、書き込みをしながら、自分の考えを可視化すること。それは2回目に読むときに助けになるし、理解を深めることができる。ゼミが成功するかどうかは、報告担当班の発表如何にかかっている。報告発表の準備には2週間かけること。他の文献や資料を読み、ゼミで議論すべき論点を提案し、レジュメをまとめる。報告担当班の班長は、これら様々な作業を班員に割り振り、学期全体でおおよそ負担が公平になるように配慮すること。

教科書・参考書等

宇野重規『<私>時代のデモクラシー』岩波新書

杉田敦『政治的思考』岩波新書

テキストを変える場合がある。

オフィスアワー 毎週月曜日の13時30分から14時30分とするが、これ以外の時間帯でもアポイントメントをとれば、いつでも面談する。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回テキストの指定された箇所をきちんと読んでくること。毎回出席をとる。正当な理由なく3回欠席すると単位は与えない。欠席の際には必ずメールで教員に連絡すること。ゼミに関する連絡はすべてメールで行うので、毎日メール・チェックする習慣をつけること。

ナンバリングコード B1ACL-cbdG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081206) 大学入門ゼミ J(6) Startup Seminar on Academic Literacy 転換期における雇用社会の実態と将来の展望 (The current situation and future of the world of work on the turning point)	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期火4	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 細谷 越史	関連授業科目 労働法、社会保障法 履修推奨科目 憲法、民法		
学習時間 講義90分×15回+自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 近年におけるワーキングプアと呼ばれる労働者層の増加や派遣切りの増加などに見るように、雇用社会の実態は厳しさを増している。また、労使関係をめぐる法制度は、国際競争の激化、日本的労使関係の変容や労働組合の組織率低下などの状況変化にさらされ、その進むべき方向性を見失っているように思われる。このような激変期の下で、雇用社会の実態を認識し、また、労働基準法や労働契約法を中心とする個別的労働関係法分野ならびに、労働組合法を中心とする集団的労働関係法分野における各法制度に検討をくわえ、さらに、今後の雇用社会に関わる法のあり方を展望する。 【他の授業科目との関連】 なお、本ゼミを受講すると同時に、憲法や民法の基礎的知識を習得されることが望ましい。さらに、労働法や社会保障法の受講も推奨する。			
授業の目的 主として労使関係をめぐり社会に生じる諸現象を的確に捉えたうえで、こうした現象を素材にして、整理・分析・議論等の手法を身につけることを目的とする。			
到達目標			
1. 文献・資料を正確に要約し、的確に分析・検討し、またそれについて発表することができる。 2. 雇用社会に生じている諸問題を的確に捉えて評価・検討することができる。 3. 今後の雇用社会のあるべき姿を考え、展望することができる。 4. こうした学習を通じて、学生個々人が目的意識をもって学生生活を送ることができる。			
成績評価の方法と基準 本ゼミで取り上げる文献・資料についての分析や検討、発表・報告への取り組み、質問等に対する受け答えや議論への参加状況などを基本的な評価要素とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
設定された課題について受講生に報告を行ってもらい、それを受けて質疑・応答・議論を行い、そのテーマに関する理解を深める。 設定された課題 (文献・資料) については、報告者のみならず全員が予習を行い、質問や論点を探し出したり、私見を考えておく必要がある。 第1回 情報整理の方法を学ぶ。 第2回 図書館や資料室を見学し、文献収集の技法などを学ぶ。 第3回 プレゼンテーションの方法などを学ぶ。 第4回 レポートの書き方、日本語技法などを学ぶ。 第5回 講演会に参加し、プレゼンテーションの実践を学び、レポートをまとめる。 第6回 本ゼミの検討テーマに関する概括的な説明および意見交換を行う。こうしたテーマをめぐり受講生の興味・関心などを聞いたうえで、本ゼミの方向性ないし、検討素材、報告課題等を確定する。 第7回～第15回 前回は決定された検討素材や報告課題に関する受講生による報告と、質疑・応答を行う。 この科目は、教員が基礎疾患を有するため、全回遠隔で実施する予定です。なお、感染症の状況によっては授業形態の予定が変更される可能性があります。			
教科書・参考書等 特定の教科書は指定しない方向で考えている。 参考書としては、西谷敏『労働法〔第2版〕』(日本評論社)4700円+税 菅野和夫『労働法〔第11版〕』(弘文堂)5300円+税 『労働判例百選〔第9版〕』(有斐閣)2476円+税 などをあげることができる。 なお、ゼミを受講するに際してさしあたり何かを購入しておく必要はない。			
オフィスアワー 原則として火曜5限とする。			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 毎回の予習と質疑・応答への積極的な参加、十分な準備に基づく報告などを通じて、法学学習・研究に不可欠な基礎力を養っていただきたい。			

ナンバリングコード B1ACL-cabG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081207) 大学入門ゼミ J(7) Startup Seminar on Academic Literacy 時事問題について考える Study of Current Topics	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期火4	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局:大教センター DPコード: cab	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 前原 信夫	関連授業科目 履修推奨科目 法学部の入門科目		
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 この授業では、情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法など、大学で勉学するために必要な基本的スキルを習得する機会を提供する。そしてそれを踏まえて、広く経済・社会一般で話題になっている時事問題を題材とし、その問題の内容や背景等について理解を深めるために、協同学習(グループワーク)により調査・検討・報告を実施する。			
授業の目的 決して一問一答型の答えや正解探しでない時事問題の内容を理解するとともに、そうした問題が経済・社会に与える影響や課題の考察を通して、大学生の資質として求められる「調べる・考える・伝える」力を身に付けることを目的とする。			
到達目標			
(1) 学習に必要な資料や情報を収集・整理することができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 (2) 各テーマの時事問題に関する資料や情報の内容を正確に捉え、説明することができる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 (3) 調査・検討した成果や自分の意見をまとめ、わかりやすく伝えることができる(共通教育スタンダードの21世紀社会の諸課題に対する探求能力)に対応。			
成績評価の方法と基準 (1) 報告(報告用のレポート作成や口頭発表等) (60点) (2) 質疑応答を通じた授業への貢献度 (40点)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 ガイダンス・授業の進め方について/自己紹介 第2回 図書館・資料室ガイダンス 第3回 情報整理の方法 第4回 日本語技法① 第5回 日本語技法② 第6回 法学部講演会 第7回 プレゼンテーションの方法・レポートの書き方 第8回 準備作業のための協同学習(グループワーク) 第9回 グループワークによる報告(テーマ①) 第10回 グループワークによる報告(テーマ①) 第11回 グループワークによる報告(テーマ②) 第12回 グループワークによる報告(テーマ②) 第13回 グループワークによる報告(テーマ③) 第14回 グループワークによる報告(テーマ③) 第15回 全体のまとめ			
ただし、上記の授業計画は受講生の数または授業の進捗状況その他の事情により変更することがある。			
【授業および学習の方法】 第2回から第7回までは、大学で勉学するために必要な基本的スキルを学ぶ。第8回以降は、各テーマにおいてグループで準備作業を行い、調査・検討・報告を行うことになる。 この科目は全回対面授業を行う。			
【自学自習に関するアドバイス】 第9回から第14回のグループワークによる報告では、上記の授業計画において「第8回 準備作業のための協同学習(グループワーク)」を設けているが、授業時間外でもグループ単位で継続して準備作業や報告の打合せ等を行う必要がある。			
教科書・参考書等 特に指定しない。必要な資料は配布するが、グループワークでは受講生各自で資料収集を行う必要がある。			
オフィスアワー 水曜日17時-18時/法学部棟(幸町南6号館)5階研究室。これ以外の時間帯を希望する場			

合は、下記メールアドレス宛てに事前に連絡すること。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

無断で欠席した受講生には単位を認定しない。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081208) 大学入門ゼミ J(8) Startup Seminar on Academic Literacy グローバルな諸問題を考える Studies on Global Issues	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期火3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局:大教センター DPコード:acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 鶴園 裕基	関連授業科目 国際関係論		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 グローバル化は長期的な変動のプロセスであると同時に、今日の国際関係の諸問題とも密接に結びついている、現在進行形の現象である。本授業では入門的なテキストの読解を通じて、グローバルな諸問題への複眼的な視座を養う。また輪読のグループワークを通じて、大学における発表や討論の方法を学ぶ。			
授業の目的 大学での学びに必要な基本的スキルを習得すること。グローバルな諸問題のうち、少なくとも一つについて、自ら調べて理解を深められる能力を身に付けること。他者との協力を通じて調査・研究を進められるような態度・姿勢を養うこと。			
到達目標			
1. テキストの内容を適切に要約し、論理的に説明できるようになる(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. テキストに関連する情報を自ら探索し、それを批判的に評価できるようになる(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 3. グローバルな諸問題について自分自身の見解を伝え、討議できるようになる(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業・グループワークへの参加度(30%)、小課題(20%)、期末レポート(50%)によって評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 オリエンテーション/自己紹介 第2回 日本語技法(学術的文章の読み方・書き方) 第3回 プレゼンテーションの方法(レジュメの作成・報告方法) 第4回 情報整理の方法(図書館の利用と情報検索の仕方) 第5回 グループワーク1 第6回 法学部・講演会 第7回 グループワーク2 第8回 グループワーク3 第9回 グループワーク4 第10回 レポートの書き方 第11回 グループワーク5 第12回 グループワーク6 第13回 グループワーク7 第14回 グループワーク8 第15回 レポート草稿への相互評価			
【授業及び学習の方法】 グループによるテキスト輪読の形式でゼミを進める。各班で報告担当者を決め、四回の輪読で一冊のテキストを読み終える。テキストごとに新しいグループを編成する。第2回-第4回、及び第10回では基礎的なアカデミックスキルについて講義形式の授業を行う。教科書に指定した二冊は初回授業前に購入しておくこと。この科目は全回対面授業を行う。			
【自学自習のためのアドバイス】 《予習》テキストの輪読箇所を全員毎回事前に読んでおくこと。重要な記述だと考えた箇所、読んで面白いと感じた箇所、分からないと思った箇所に線を引く(赤-緑-青など、それぞれ異なる色を使うとよい)。必要であれば欄外にコメントを書き込み、付箋を貼りながら読み進める。《復習》輪読を通じてひっかりを覚えた単語、概念などが出てきた箇所を再度読み直す。その上で、世界史の教科書や他の参考書・事典類で関連項目を調べる。			
教科書・参考書等 《教科書》 川北稔『世界システム論講義--ヨーロッパと近代世界』(筑摩書房、2016) 佐橋亮『米中対立--アメリカの戦略転換と分断される世界』(中央公論新社、2021)			

《参考書》

M. J. アドラー、C. V. ドーレン（外山滋比古、槇未知子訳）『本を読む本』（講談社、1997）

戸田山和久『思考の教室』（NHK出版、2020）

オフィスアワー 毎週火曜日11:00-12:00とするが、これ以外の時間帯でもアポイントをとれば面談可。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

教員およびグループの他の受講生に無断での欠席は厳禁する。3回以上繰り返した場合には成績評価の対象外となる。事情があって欠席する可能性がある場合には、事前に教員およびグループの他の受講生に相談すること。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081301) 大学入門ゼミ E(1) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期火3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局:大教センター DPコード:acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 天谷 研一	関連授業科目 情報リテラシーA・B 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 I. キャンパスライフの基本を学ぶ。 II. 大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル (情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等) をトレーニングする。 III. 講義や少人数グループワークなどを通して、市民としての責任感を養う。 以上から、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探究できるようになるための基礎力の向上をはかる。			
授業の目的 市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて学んだり研究したりする心構えを、実践により理解する。そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済・社会現象について考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。			
到達目標			
1. アカデミック・スキル (日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPT を使ったプレゼンテーション・研究倫理) を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探究することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業への貢献度、レポートの提出 (1回以上)、パワーポイントを使った発表 (1回以上) などにより総合的に判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1 (eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修 (フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 連続したキャリア教育講演会 第12回 各クラスの課題1 第13回 各クラスの課題2 第14回 パワーポイントを使った発表 第15回 パワーポイントを使った発表・まとめ *授業計画は、各クラス担当教員の判断や進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。フィールドワークを含む場合がある。 *第1回～第3回は、通常の講義とは異なる時間帯で実施する。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。 *講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。			
【授業の方法】 講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。			
【自学自習に関するアドバイス】 このゼミナールは教室の外で行われることもあるが、漫然と聞かず、ノートなどにメモをとりながら参加する。また、分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼ			

ミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。
その他、講義中に指示する。

教科書・参考書等

資料は授業内で配布する。参考書は、授業の進行に応じ、適宜指示する。

オフィスアワー 月曜4校時

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

無断欠席・遅刻厳禁。やむを得ず欠席、遅刻する場合は必ず連絡すること。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081302) 大学入門ゼミ E(2) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期火3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局:大教センター DPコード:acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 井上 善弘	関連授業科目 情報リテラシーA・B		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回+自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
<p>I. キャンパスライフの基本を学ぶ。</p> <p>II. 大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル (情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等) をトレーニングする。</p> <p>III. 講義や少人数グループワークなどを通して、市民としての責任感を養う。</p> <p>以上から、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探索できるようになるための基礎力の向上をはかる。</p>			
授業の目的			
<p>市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて学んだり研究したりする心構えを、実践により理解する。そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。</p> <p>ダイナミックに変化する経済・社会現象について考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。</p>			
到達目標			
<p>1. アカデミック・スキル (日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPTを使ったプレゼンテーション・研究倫理) を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)</p> <p>2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」、「市民としての責任感と倫理観」に対応)</p> <p>3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探求することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)</p>			
成績評価の方法と基準			
授業への貢献度、レポートの提出 (1回以上)、PPTを使ったプレゼンテーション (1回以上) などにより総合的に判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
<p>第1回 経済学部で学ぶこと</p> <p>第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え</p> <p>第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について</p> <p>第4回 日本語技法その1 (eメールの書き方・実践)</p> <p>第5回 図書館の使い方</p> <p>第6回 情報整理の方法</p> <p>第7回 外出研修 (フィールドワーク)</p> <p>第8回 レポートの書き方</p> <p>第9回 日本語技法その2</p> <p>第10回 プレゼンテーションの方法</p> <p>第11回 連続したキャリア教育講演会</p> <p>第12回 各クラスの課題1</p> <p>第13回 各クラスの課題2</p> <p>第14回 パワーポイントを使った発表</p> <p>第15回 パワーポイントを使った発表・まとめ</p>			
<p>*授業計画は、各クラス担当教員の判断や進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。フィールドワークを含む場合がある。</p> <p>*第1回～第3回は通常の講義とは異なる時間帯で実施する。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。</p> <p>*講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。</p>			
【授業の方法】			
講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。			
【自学自習に関するアドバイス】			
このゼミナールは教室の外で行われることもあるが、漫然と聞かず、ノートなどにメモをとりながら参加する。分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。その他、講義中に指示する。			

教科書・参考書等

使用しない。適宜プリントを配布する。

オフィスアワー 授業後随時受け付ける。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

やむを得ず欠席する場合は、事前もしくは事後に必ず連絡すること。無断欠席については厳正に対処する。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081303) 大学入門ゼミ E(3) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期火3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局:大教センター DPコード:acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 沖 公祐	関連授業科目 情報リテラシーA・B 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回+自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 I. キャンパスライフの基本を学ぶ。 II. 大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル (情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等) をトレーニングする。 III. 講義や少人数グループワークなどを通して、市民としての責任感を養う。 以上から、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探求できるようになるための基礎力の向上をはかる。			
授業の目的 市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて学んだり研究したりする心構えを、実践により理解する。そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済・社会現象について考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。			
到達目標			
1. アカデミック・スキル (日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPTを使ったプレゼンテーション・研究倫理) を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探求することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業への貢献度、レポートの提出(1回以上)、PPTを使ったプレゼンテーション(1回以上)などにより総合的に判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1 (eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修 (フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 連続したキャリア教育講演会 第12回 各クラスの課題1 第13回 各クラスの課題2 第14回 パワーポイントを使った発表 第15回 パワーポイントを使った発表・まとめ			
*授業計画は、各クラス担当教員の判断や進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。フィールドワークを含む場合がある。 *第1回～第3回は通常の講義とは異なる時間帯で実施する。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。 *講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。			
【授業の方法】 講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。			
【自学自習に関するアドバイス】 このゼミナールは教室の外で行われることもあるが、漫然と聞かず、ノートなどにメモをとりながら参加する。分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。その他、講義中に指示する。			
教科書・参考書等 初回時に指定する。			

オフィスアワー 初回時に指定する。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

大学入門ゼミではすべての授業に出席することが前提となる。その上で、グループワークなどに積極的に取り組む必要がある。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081304)	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期火3	対象年次 1～
大学入門ゼミ E(4) Startup Seminar on Academic Literacy	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局: 大教センター DPコード: acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
大学入門ゼミ	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 朴 鏡杓	関連授業科目 情報リテラシーA・B		
履修推奨科目			
学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 I. キャンパスライフの基本を学ぶ。 II. 大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル(情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等)をトレーニングする。 III. 講義や少人数グループワークなどを通して、市民としての責任感を養う。 以上から、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探求できるようになるための基礎力の向上をはかる。			
授業の目的 市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて学んだり研究したりする心構えを、実践により理解する。そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済・社会現象について考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。			
到達目標			
1. アカデミック・スキル(日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPTを使ったプレゼンテーション・研究倫理)を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探求することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
授業への貢献度、レポートの提出(1回以上)、PPTを使ったプレゼンテーション(1回以上)などにより総合的に判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1(eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修(フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 連続したキャリア教育講演会 第12回 各クラスの課題1 第13回 各クラスの課題2 第14回 パワーポイントを使った発表 第15回 パワーポイントを使った発表・まとめ			
*授業計画は、各クラス担当教員の判断や進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。フィールドワークを含む場合がある。 *第1回～第3回は通常の講義とは異なる時間帯で実施する。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。 *講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。			
【授業の方法】			
講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。			
【自学自習に関するアドバイス】			
このゼミナールは教室の外で行われることもあるが、漫然と聞かず、ノートなどにメモをとりながら参加する。分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。その他、講義中に指示する。			

教科書・参考書等

資料については都度、配布する。

オフィスアワー 火曜日 4 時限・経済学部 2 号館 2 階朴研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

遅刻、無断欠席は厳禁

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081305) 大学入門ゼミ E(5) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期火3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局:大教センター DPコード:acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 早木 祥夏	関連授業科目 情報リテラシーA・B 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 I. キャンパスライフの基本を学ぶ。 II. 大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル(情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等)をトレーニングする。 III. 講義や少人数グループワークなどを通して、市民としての責任感を養う。 以上から、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探索できるようになるための基礎力の向上をはかる。			
授業の目的 市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて学んだり研究したりする心構えを、実践により理解する。そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済・社会現象について考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。			
到達目標			
1. アカデミック・スキル(日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPTを使ったプレゼンテーション・研究倫理)を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探求することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業への貢献度、レポートの提出(1回以上)、PPTを使ったプレゼンテーション(1回以上)などにより総合的に判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1(eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修(フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 連続したキャリア教育講演会 第12回 各クラスの課題1 第13回 各クラスの課題2 第14回 パワーポイントを使った発表 第15回 パワーポイントを使った発表・まとめ *授業計画は、各クラス担当教員の判断や進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。フィールドワークを含む場合がある。 *第1回～第3回は通常の講義とは異なる時間帯で実施する。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。 *講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。			
【授業の方法】 講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。			
【自学自習に関するアドバイス】 このゼミナールは教室の外で行われることもあるが、漫然と聞かず、ノートなどにメモをとりながら参加する。分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。その他、講義中に指示する。			

教科書・参考書等

必要な資料等をその都度配布します。

オフィスアワー 火曜日4限

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

レポートの書き方やプレゼンテーションの方法など、自分の伝えたいことを正確かつ分かりやすく伝える技術は、大学生活ではもちろん、卒業してからも非常に役に立ちます。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081306) 大学入門ゼミ E(6) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ 水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ 授業形態 演習 グループワーク	時間割 2022年度 前期火3 提供部局:大教センター DPコード:acd 単位数 2	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 水野 敦洋	関連授業科目 情報リテラシーA・B 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 I. キャンパスライフの基本を学ぶ。 II. 大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル(情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等)をトレーニングする。 III. 講義や少人数グループワークなどを通して、市民としての責任感を養う。 以上から、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探求できるようになるための基礎力の向上をはかる。			
授業の目的 市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて学んだり研究したりする心構えを、実践により理解する。そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済・社会現象について考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。			
到達目標			
1. アカデミック・スキル(日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPTを使ったプレゼンテーション・研究倫理)を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探求することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
授業への貢献度、レポートの提出(1回以上)、PPTを使ったプレゼンテーション(1回以上)などにより総合的に判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1 (eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修(フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 連続したキャリア教育講演会 第12回 各クラスの課題1 第13回 各クラスの課題2 第14回 パワーポイントを使った発表 第15回 パワーポイントを使った発表・まとめ *授業計画は、各クラス担当教員の判断や進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。フィールドワークを含む場合がある。 *第1回~第3回は通常の講義とは異なる時間帯で実施する。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。 *講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。			
【授業の方法】 講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。			
【自学自習に関するアドバイス】 このゼミナールは教室の外で行われることもあるが、漫然と聞かず、ノートなどにメモをとりながら参加する。分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。その他、講義中に指示する。			

教科書・参考書等

その都度、必要な資料を配布する。

オフィスアワー 原則、授業終了後に対応する。アポイントメントがあれば適宜対応する。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

欠席・遅刻の場合には、事前に必ず連絡すること。無断欠席は厳禁とする。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081307) 大学入門ゼミ E(7) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期火3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局:大教センター DPコード:acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 宮脇 秀貴	関連授業科目 情報リテラシーA・B		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 I. キャンパスライフの基本を学ぶ。 II. 大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル(情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等)をトレーニングする。 III. 講義や少人数グループワークなどを通して、市民としての責任感を養う。 以上から、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探求できるようになるための基礎力の向上をはかる。			
授業の目的 市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて学んだり研究したりする心構えを、実践により理解する。そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済・社会現象について考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。			
到達目標			
1. アカデミック・スキル(日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPTを使ったプレゼンテーション・研究倫理)を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探求することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業への貢献度、レポートの提出(1回以上)、PPTを使ったプレゼンテーション(1回以上)などにより総合的に判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1(eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修(フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 連続したキャリア教育講演会 第12回 各クラスの課題1 第13回 各クラスの課題2 第14回 パワーポイントを使った発表 第15回 パワーポイントを使った発表・まとめ *授業計画は、各クラス担当教員の判断や進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。フィールドワークを含む場合がある。 *第1回～第3回は通常の講義とは異なる時間帯で実施する。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。 *講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。			
【授業の方法】 講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。			
【自学自習に関するアドバイス】 このゼミナールは教室の外で行われることもあるが、漫然と聞かず、ノートなどにメモをとりながら参加する。分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。その他、講義中に指示する。			

教科書・参考書等

※随時配布する、もしくは、ダウンロードしてもらいます。

オフィスアワー ※毎週水曜日「15:30～17:00」（ただし、会議などでいない場合もある）
（南7号館3階）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

※まじめに授業や課題に取り組み、仲間と協働作業を行うことができること。

※遅刻、無断欠席は厳禁。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081308) 大学入門ゼミ E(8) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期火3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局:大教センター DPコード:acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 森貞 誠	関連授業科目 情報リテラシーA・B 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 I. キャンパスライフの基本を学ぶ。 II. 大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル(情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等)をトレーニングする。 III. 講義や少人数グループワークなどを通して、市民としての責任感を養う。 以上から、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探索できるようになるための基礎力の向上をはかる。			
授業の目的 市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて学んだり研究したりする心構えを、実践により理解する。そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済・社会現象について考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。			
到達目標			
1. アカデミック・スキル(日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPTを使ったプレゼンテーション・研究倫理)を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探求することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業への貢献度、レポートの提出(1回以上)、PPTを使ったプレゼンテーション(1回以上)などにより総合的に判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1(eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修(フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 連続したキャリア教育講演会 第12回 各クラスの課題1 第13回 各クラスの課題2 第14回 パワーポイントを使った発表 第15回 パワーポイントを使った発表・まとめ *授業計画は、各クラス担当教員の判断や進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。フィールドワークを含む場合がある。 *第1回～第3回は通常の講義とは異なる時間帯で実施する。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。 *講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。			
【授業の方法】 講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。			
【自学自習に関するアドバイス】 このゼミナールは教室の外で行われることもあるが、漫然と聞かず、ノートなどにメモをとりながら参加する。分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。その他、講義中に指示する。			

教科書・参考書等

【教科書】

特に指定しません。講義資料に基づいて講義を進めていきます。

【参考書】

講義時に指示します。

オフィスアワー 初回講義時に指示します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

講義中の私語は厳禁です。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081309) 大学入門ゼミ E(9) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期火3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局:大教センター DPコード:acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 安井 敏晃	関連授業科目 情報リテラシーA・B		
	履修推奨科目		
学習時間	授業90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)		
授業の概要 I. キャンパスライフの基本を学ぶ。 II. 大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル(情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等)をトレーニングする。 III. 講義や少人数グループワークなどを通して、市民としての責任感を養う。 以上から、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探索できるようになるための基礎力の向上をはかる。			
授業の目的 市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて学んだり研究したりする心構えを、実践により理解する。そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済・社会現象について考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。			
到達目標			
1. アカデミック・スキル(日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPTを使ったプレゼンテーション・研究倫理)を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探求することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業への貢献度、レポートの提出(1回以上)、PPTを使ったプレゼンテーション(1回以上)などにより総合的に判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1(eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修(フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 連続したキャリア教育講演会 第12回 各クラスの課題1 第13回 各クラスの課題2 第14回 パワーポイントを使った発表 第15回 パワーポイントを使った発表・まとめ *授業計画は、各クラス担当教員の判断や進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。フィールドワークを含む場合がある。 *第1回～第3回は通常の講義とは異なる時間帯で実施する。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。 *講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。			
【授業の方法】 講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。			
【自学自習に関するアドバイス】 このゼミナールは教室の外で行われることもあるが、漫然と聞かず、ノートなどにメモをとりながら参加する。分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。その他、講義中に指示する。			

教科書・参考書等

教科書は指定しませんが，図書を推薦することが多々あります。

オフィスアワー 火曜日4時限目
南キャンパス7号館3階安井研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

欠席しないこと。万一欠席する場合には事前に連絡すること（連絡すれば出席扱いになるわけではない）。
演習では必ず発言すること。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081310) 大学入門ゼミ E(10) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期火3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局:大教センター DPコード:acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 山口 尚美	関連授業科目 情報リテラシーA・B 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 I. キャンパスライフの基本を学ぶ。 II. 大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル(情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等)をトレーニングする。 III. 講義や少人数グループワークなどを通して、市民としての責任感を養う。 以上から、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探求できるようになるための基礎力の向上をはかる。			
授業の目的 市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて学んだり研究したりする心構えを、実践により理解する。そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済・社会現象について考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。			
到達目標			
1. アカデミック・スキル(日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPTを使ったプレゼンテーション・研究倫理)を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探求することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
授業への貢献度、レポートの提出(1回以上)、PPTを使ったプレゼンテーション(1回以上)などにより総合的に判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1 (eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修(フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 連続したキャリア教育講演会 第12回 各クラスの課題1 第13回 各クラスの課題2 第14回 パワーポイントを使った発表 第15回 パワーポイントを使った発表・まとめ			
*授業計画は、各クラス担当教員の判断や進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。フィールドワークを含む場合がある。 *第1回～第3回は通常の講義とは異なる時間帯で実施する。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。 *講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。			
【授業の方法】 講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。			
【自学自習に関するアドバイス】 このゼミナールは教室の外で行われることもあるが、漫然と聞かず、ノートなどにメモをとりながら参加する。分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。その他、講義中に指示する。			

教科書・参考書等

なし

オフィスアワー 水曜日10:30-11:30

必ず事前にメールか口頭でアポイントを取ってください。

場所はアポイント時にお知らせします。

なお、質問は授業後に教室でも受け付けます。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

わからないことや困ったことがあったら、気兼ねなく質問や相談をしてください。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081311) 大学入門ゼミ E(11) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期火3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局:大教センター DPコード:acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 山崎 隆之	関連授業科目 情報リテラシーA・B		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回+自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
<p>I. キャンパスライフの基本を学ぶ。</p> <p>II. 大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル (情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等) をトレーニングする。</p> <p>III. 講義や少人数グループワークなどを通して、市民としての責任感を養う。</p> <p>以上から、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探求できるようになるための基礎力の向上をはかる。</p>			
授業の目的			
<p>市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて学んだり研究したりする心構えを、実践により理解する。そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。</p> <p>ダイナミックに変化する経済・社会現象について考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。</p>			
到達目標			
<p>1. アカデミック・スキル (日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPTを使ったプレゼンテーション・研究倫理) を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)</p> <p>2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」、「市民としての責任感と倫理観」に対応)</p> <p>3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探求することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)</p>			
成績評価の方法と基準			
<p>授業への貢献度、レポートの提出 (1回以上)、PPTを使ったプレゼンテーション (1回以上) などにより総合的に判断する。</p>			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
<p>第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1 (eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修 (フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 連続したキャリア教育講演会 第12回 各クラスの課題1 第13回 各クラスの課題2 第14回 パワーポイントを使った発表 第15回 パワーポイントを使った発表・まとめ</p> <p>*授業計画は、各クラス担当教員の判断や進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。フィールドワークを含む場合がある。 *第1回～第3回は通常の講義とは異なる時間帯で実施する。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。 *講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。</p> <p>【授業の方法】 講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。</p> <p>【自学自習に関するアドバイス】 このゼミナールは教室の外で行われることもあるが、漫然と聞かず、ノートなどにメモをとりながら参加する。分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。その他、講義中に指示する。</p>			

教科書・参考書等

【レポートやパワーポイント作成の課題図書】

東浩紀著『弱いつながり～検索ワードを探す旅～』（幻冬舎文庫）2016年

その他については、必要に応じて紹介・配布する。

オフィスアワー 火曜日 4時限目

山崎研究室（南3号館3階）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

「大学入門ゼミ」はこれから4年間の大学での学びの基礎となる科目です。
意識的・意欲的に受講し、多くのことを経験・修得してください。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081312)	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期火3	対象年次 1～
大学入門ゼミ E(12) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局:大教センター DPコード:acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 山ノ内 健太	関連授業科目 情報リテラシーA・B	単位数 2	
履修推奨科目	学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)		
授業の概要 I. キャンパスライフの基本を学ぶ。 II. 大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル(情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等)をトレーニングする。 III. 講義や少人数グループワークなどを通して、市民としての責任感を養う。 以上から、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探究できるようになるための基礎力の向上をはかる。			
授業の目的 市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて学んだり研究したりする心構えを、実践により理解する。そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。 ダイナミックに変化する経済・社会現象について考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。			
到達目標			
1. アカデミック・スキル(日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPTを使ったプレゼンテーション・研究倫理)を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」、「市民としての責任感と倫理観」に対応) 3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探究することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探究能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
授業への貢献度、レポートの提出(1回以上)、PPTを使ったプレゼンテーション(1回以上)などにより総合的に判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1(eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修(フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 連続したキャリア教育講演会 第12回 各クラスの課題1 第13回 各クラスの課題2 第14回 パワーポイントを使った発表 第15回 パワーポイントを使った発表・まとめ			
*授業計画は、各クラス担当教員の判断や進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。フィールドワークを含む場合がある。 *第1回～第3回は通常の講義とは異なる時間帯で実施する。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。 *講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。			
【授業の方法】			
講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。			
【自学自習に関するアドバイス】			
このゼミナールは教室の外で行われることもあるが、漫然と聞かず、ノートなどにメモをとりながら参加する。分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。その他、講義中に指示する。			

教科書・参考書等

資料等は必要に応じて配布する。

オフィスアワー 質問等は金曜5校時に南キャンパス3号館3階の山ノ内研究室で受け付ける。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

科目の性質上、出席が重視される。

ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081313) 大学入門ゼミ E(13) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期火3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局:大教センター DPコード:acd	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 横山 佳充	関連授業科目 情報リテラシーA・B		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×15回+自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
<p>I. キャンパスライフの基本を学ぶ。</p> <p>II. 大学で学習を行う上で必要となる基本的なスキル (情報整理の方法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーションの方法・研究倫理等) をトレーニングする。</p> <p>III. 講義や少人数グループワークなどを通して、市民としての責任感を養う。</p> <p>以上から、経済や社会の諸課題に目を向け、自ら課題を探求できるようになるための基礎力の向上をはかる。</p>			
授業の目的			
<p>市民としての責任を果たし、研究倫理を遵守しながら、自らの知的好奇心に基づいて学んだり研究したりする心構えを、実践により理解する。そのために必要なさまざまな技法を使用できるようになる。</p> <p>ダイナミックに変化する経済・社会現象について考えることを通して、お互いの意見を交換しながら、協力して作業が進められるようになる。</p>			
到達目標			
<p>1. アカデミック・スキル (日本語の言語表現、文章・レポート執筆能力、PPTを使ったプレゼンテーション・研究倫理) を身につけることができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)</p> <p>2. グループワークをとおして、自ら積極的に行動し、責任感と協調性のある態度で学習に取り組める。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」、「市民としての責任感と倫理観」に対応)</p> <p>3. 21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探求することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)</p>			
成績評価の方法と基準			
授業への貢献度、レポートの提出 (1回以上)、PPTを使ったプレゼンテーション (1回以上) などにより総合的に判断する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
<p>第1回 経済学部で学ぶこと 第2回 キャンパスライフの心得①教員・コースについて、加害者にも被害者にもならないための心構え 第3回 キャンパスライフの心得②主体性のある活動について 第4回 日本語技法その1 (eメールの書き方・実践) 第5回 図書館の使い方 第6回 情報整理の方法 第7回 外出研修 (フィールドワーク) 第8回 レポートの書き方 第9回 日本語技法その2 第10回 プレゼンテーションの方法 第11回 連続したキャリア教育講演会 第12回 各クラスの課題1 第13回 各クラスの課題2 第14回 パワーポイントを使った発表 第15回 パワーポイントを使った発表・まとめ</p> <p>*授業計画は、各クラス担当教員の判断や進捗状況により、内容および順序を変更する場合がある。フィールドワークを含む場合がある。 *第1回～第3回は通常の講義とは異なる時間帯で実施する。詳細は、ガイダンスの際にアナウンスする。 *講演会やカリキュラムに関する説明会を実施するので、すべてに必ず出席すること。</p> <p>【授業の方法】 講義形式および、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワークなどのアクティブラーニング形式を併用して実施する。</p> <p>【自学自習に関するアドバイス】 このゼミナールは教室の外で行われることもあるが、漫然と聞かず、ノートなどにメモをとりながら参加する。分からないことは授業中に質問するなどして、必ず確認する。レポートやプレゼンテーションなどの課題は、早めに準備する。ここで学習する技法や知識は社会や大学生活で直ちに役立つものなので、ゼミナール後の生活や他の授業科目の学習においても実践する。その他、講義中に指示する。</p>			

教科書・参考書等
オフィスアワー
履修上の注意・担当教員からのメッセージ
第1回目に詳細を説明します。

ナンバリングコード B1ACL-acbG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081401) 大学入門ゼミ M(1) Startup Seminar on Academic Literacy 医療のなかの核酸 Applications of nucleic acid in medicine	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期水1	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局:大教センター DPコード:acb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 栗原 亮介	関連授業科目 特になし		
	履修推奨科目 特になし		
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 レポートの書き方やプレゼンテーションの技法など、これからの学生生活で必要となる基本的なスキルの習得を目的としています。また生物にとって重要な物質である核酸について取り上げ、医療のなかで核酸がどのように利用されているのか考えていきます。さらに、自分で考える力、自分の意見を述べる力およびディスカッションする力などが身につくように、グループワークやプレゼンテーションを実施する予定です。			
授業の目的 大学生活で必要となる基本的な学習スキルを身につける。また、核酸を機能性材料として扱い、その利用方法について学び境界領域に触れることで、広い視野で物事を捉える力を養う。			
到達目標			
1. 核酸の基礎および境界領域について理解し、説明することができる(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 2. グループワークにおいて、自分で考え、自分の意見を述べ、ディスカッションすることができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 3. 協力しながらプレゼンテーション資料を作成し、自ら発表することができる。その際に、研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
学習態度30%、グループワークへの参加度30%、プレゼンテーション40%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
授業の方法 パワーポイントと配布資料を用いて講義を行います。またグループワークとプレゼンテーションを行います。第1回～11回は講義とグループワークを行い、第12回～15回はグループワークとプレゼンテーションを行います。			
授業計画 第1回 オリエンテーション 第2回 レポートの書き方(1) 第3回 レポートの書き方(2) 第4回 情報整理の方法 第5回 日本語の技法(1) 第6回 日本語の技法(2) 第7回 プレゼンテーションの方法とグループ分け 第8回 核酸の基礎と応用(1) 第9回 核酸の基礎と応用(2) 第10回 核酸の基礎と応用(3) 第11回 核酸の基礎と応用(4) 第12回 プレゼンテーション:課題決定と発表資料作成 第13回 プレゼンテーション:発表資料作成 第14回 プレゼンテーション:発表(1) 第15回 プレゼンテーション:発表(2)			
自学自習のためのアドバイスと注意事項 第1回～11回は講義とグループワークを行いますので各回予習復習をすること。特にグループワークを円滑におこなうため、第4回で学ぶ「情報整理の方法」はしっかりと復習しておくこと。第12回～15回はグループワークとプレゼンテーションを行いますので、発表資料の作成に必要なPCを持参すること。PCの持参が難しい場合は事前に栗原までご連絡ください(学内サイト(Dream Campus)にメールアドレス記載)。			
教科書・参考書等			
資料を配布します。			
オフィスアワー 水曜日、医学部講義棟2階206号室			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 毎回出席をとります。			

ナンバリングコード B1ACL-acbG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081402) 大学入門ゼミ M(2) Startup Seminar on Academic Literacy 生体における塩と水の機能 Salt and water metabolism for life	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期水1	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 北田 研人, RAHMAN MD ASADUR	関連授業科目 薬理学 履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 講義やグループワークを通じて、大学生に必要な「自分で考える力」、「ディスカッションする力」、「文章を書くための基本的な技法」、「プレゼンテーションの基本的な技法」などのスキルを学んでもらいます。また、ヒトも含むあらゆる生物の生命維持の根幹である「塩と水の機能と役割」に関する知識や意義を共有してもらい、未来の医療への応用などについても取り上げていきます。			
授業の目的 塩と水というテーマを通して、大学生の学びに必要なスキルを習得しつつ「自分で考えた意見を述べる」、「述べた意見を通してグループで議論する」などの力を習得する。			
到達目標			
1. 生命における塩と水の機能を理解し、説明することができる。 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」、「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 2. グループワークの中で、自分の考えを説明し、メンバーとディスカッションすることができる。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 3. グループのメンバーと協力して資料を作成し、自ら発表することができる。その際に、研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)			
成績評価の方法と基準 学習態度50% 小レポートの提出20% プレゼンテーションの内容30% で評価します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
<授業の方法> 講義(パワーポイントによるプレゼン+配布資料)とグループワーク+プレゼンテーションが中心のゼミとなります。 第1～6回は講義、第7～12回は講義とグループワークを中心に、第12～14回はグループワークとプレゼンテーションを実施します。第15回は総まとめ+予備日となります。			
<授業計画> 第1回 自己紹介とオリエンテーション:creativityとは何か? 第2回 情報整理の方法とノートの取り方 第3回 日本語技法 第4回 プレゼンテーションの基本その1 第5回 プレゼンテーションの基本その2(英語) 第6回 アイスブレイキングとグループ分け 第7回 生命にとっての塩と水 第8回 進化から考える塩と水:肺魚からヒトまで 第9回 癌に関する基礎知識(英語) 第10回 塩と水と癌(英語) 第11回 希少糖と癌(英語) 第12回 プレゼンテーションの課題決定と発表資料の作成 第13回 発表資料の作成 第14回 プレゼンテーション 第15回 総まとめ+予備日			
この科目は基本的に対面授業を行いますが、状況によっては授業形態を一部、あるいは全て遠隔に変更する可能性があります。			
<自学自習のためのアドバイス> 第1～6回は各回1時間程度の事後学習を行うこと。			

第7～11回はグループワークや小レポートの課題が、第12～13回は発表資料作成があるので、必要な情報収集を事前・事後に行っておくこと。

第14回は、事前にプレゼンテーションの準備・練習を行っておくこと。

第15回は、各グループの発表の良かった点・悪かった点などを事前に考察しておくこと。

教科書・参考書等

必要に応じて資料を配布します。

オフィスアワー 水曜日14～17時まで。

医学部薬理学 北田研人・RAHMAN MD ASADUR

医学部基礎臨床研究棟7F 714

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

一部の講義は英語で行いますが、随時通訳も入れますので英語が苦手でも安心して参加ください。

小レポートやプレゼンテーションは日本語でも英語でもどちらでも構いません。

授業は毎回出席をとり、15分以上の遅刻は欠席として扱います。

ナンバリングコード B1ACL-acbG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081403) 大学入門ゼミ M(3) Startup Seminar on Academic Literacy 医学研究における動物実験と動物倫理 Animal experiment and animal welfare in medical research	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期水1	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 :大教センター DPコード :acb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 伊藤 日加瑠	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 本授業は、医学研究における動物実験の方法や動物福祉について学びながら、日本語技法やレポートの書き方、プレゼンテーションの方法などの習得を目指します。また、グループワークを行い、動物実験に関するテーマで、ディスカッションやプレゼンテーションを実施してもらいます。			
授業の目的 本授業は、大学における学習に必要な基本スキルを養うことを目的としています。また、広い視点で生命科学や動物実験に対する基礎的な理解を深めるとともに、自ら能動的に取り組み、課題を発見できる能力を養います。グループワークにおいては、課題を考察し、自らの意見を分かりやすく他者に伝える能力の養成を目指します。			
到達目標			
(1)動物実験に関する基礎的な知見を概括し、医学研究における動物実験を多面的な観点から説明できる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 (2)自らプレゼンテーションを行うことができる。その際に、研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用スキル」に対応)。			
成績評価の方法と基準 小テスト・レポートの提出40%(到達目標(1)に対応)、発表の内容10%(特に到達目標(3)に対応)、出席状況50%で評価します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
[授業計画] 第1回:ゼミナールのオリエンテーション 第2回:実験動物学概論 第3回:レポートの書き方 第4回:情報整理の方法 第5回:日本語技法 第6回:プレゼンテーションの方法1 第7回:プレゼンテーションの方法2 第8回:基礎生物学 第9回:発生学・発生工学 第10回:医学研究における動物実験と動物倫理 第11回:グループによるプレゼンテーション①作成 第12回:グループによるプレゼンテーション①発表 第13回:グループによるプレゼンテーション②作成 第14回:グループによるプレゼンテーション②発表 第15回:プレゼンテーションのまとめ・予備日			
[授業の形態・方法] この科目は全回対面授業を行います。パワーポイント・配布資料を中心とした講義・参加型学習および演習が中心となります。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
[自学自習に関するアドバイス] 第1～10回:前回の授業に関する事柄を復習する。 第11～14回:グループ別の発表の準備を行う。自身のグループの発表を振り返り、良かった点や改善点を考える。他のグループの発表を比較して、考察する。 第15回:全般についての総復習を行う			
教科書・参考書等 各回で必要な資料を配布します。必要に応じて、参考図書・文献・web上の情報等を示します。			
オフィスアワー オフィス:医学キャンパス動物実験施設1階 オフィスアワー:水曜日 第2講目(10:30-12:00)			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 毎回出席を取ります。欠席した際には、資料等を受取にきてください。			

ナンバリングコード B1ACL-acbG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081404) 大学入門ゼミ M(4) Startup Seminar on Academic Literacy 生物学におけるアカデミックリテラシー Academic Literacy in Biology	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期水1	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局:大教センター DPコード:acb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 高橋 弘雄	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 本授業は、大学における学習に必要な基本スキルを養うことを目的としています。①情報整理の方法、②レポートの書き方、③日本語技法、④プレゼンテーションの方法などの、アカデミックリテラシーの習得を目指します。また、生命科学全般から、医学・生命科学研究に関わりをもつ内容を取り上げて、基本的な観点から概観します。グループワークを行い、生命に関わるテーマに関するプレゼンテーションを実施してもらいます。			
授業の目的 本授業は、アカデミックリテラシーの習得を目的とします。また、広い視点で生命科学に対する基礎的な理解を深めるとともに、自ら能動的に取り組み、課題を発見できる能力を養います。グループワークにおいては、課題を考察し、自らの意見を分かりやすく他者に伝える能力の養成を目指します。			
到達目標			
(1) 生命科学および生命の多様性にかんする基礎的な知見を概括し、人間と生命の関係性を、多面的な観点から説明できる (共通教育スタンダードの「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 (2) 自らプレゼンテーションを行うことができる。その際に、研究倫理に関する機変に則った方法をとることができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用スキル」に対応)。			
成績評価の方法と基準 レポートや課題の提出30% (到達目標(1)に対応)、発表の内容30% (特に到達目標(3)に対応)、出席状況40%で評価します。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
[授業計画] 第1回:ゼミナールのオリエンテーション 第2回:情報整理の方法 第3回:レポートの書き方 第4回:日本語技法1 第5回:日本語技法2 第6回:プレゼンテーションの方法 第7回:生物の基礎・生物多様性 第8回:グループによるプレゼンテーション作成① 第9回:グループによるプレゼンテーション作成② 第10回:グループによるプレゼンテーション発表① 第11回:グループによるプレゼンテーション発表② 第12回:生物の基礎・生物多様性 第13回:個人によるプレゼンテーション発表① 第14回:個人によるプレゼンテーション発表② 第15回:まとめ・予備日			
[授業の形態・方法] この科目は全回対面授業を行います。パワーポイント・配布資料を中心とした講義・参加型学習および演習が中心となります。			
[自学自習に関するアドバイス] 第1～7回:前回の授業に関する事柄を復習する。 第8～14回:グループ別の発表の準備を行う。自身のグループの発表を振り返り、良かった点や改善点を考える。他のグループの発表を比較して、考察する。 第15回:全般についての総復習を行う			
教科書・参考書等 各回に必要な資料を配布します。必要に応じて、参考図書・文献・web上の情報等を示します。			
オフィスアワー オフィス:医学キャンパス講義棟2階 分子神経生物学ゼミナール室 オフィスアワー:月～水 午後			
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 毎回出席を取ります。欠席した際には、資料等を受取に来てください。			

ナンバリングコード B1ACL-acbG-10-Lx2 授業科目名 (時間割コード:081405) 大学入門ゼミ M(5) Startup Seminar on Academic Literacy 日本語の技法と情報倫理 Presentation techniques and Information literacy	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期水1	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 2	
担当教員名 藤井 豊, 石上 悦子, 辻 京子	関連授業科目 情報リテラシーA 履修推奨科目 看護学入門		
学習時間 講義90分 x 9回と演習90分 x 6回+ 自主学習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 ①大学生・社会人としての責任感や協調性のある態度を教えます。 ②大学の授業を受けるために必要な技術や常識を教えます。 ③以上の内容を統合して、高校までの受動的学習から、大学での参加型・能動型学習への転換と導入について教えます。 具体的には情報の取り方、日本語やプレゼンテーションの技法、ネット接続の倫理・常識等で、これらの内容を学び、4年間の学習に活用できます。			
授業の目的 他の全学共通科目と協働して、新入生が大学での参加型・能動的学習へのスムーズな移行を支援すると共に、学生の課題探求能力を高めることを目標としている。(これらは共通スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) (a、b)、将来の医療者として必要な患者との接し方や患者を取り巻く医療や保険制度の基本的な仕組みに関する基本的知識を身につける(共通スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) (c)。			
到達目標			
パワーポイントを用いて学習内容を発表できる。 インターネットに安全に接続できる。 医療人としての常識を身につける。			
成績評価の方法と基準 講義毎に出席レポートを提出し、それにより評価します。期末テストは行いません。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 オリエンテーション(講義) 第2回 医療現場における会話技術(講義) 第3回 プレゼンテーション(講義) 第4回 日本語の技法1(講義) 第5回 日本語の技法2(講義) 第6回 難病の公的支援と社会保障制度1(講義) 第7回 難病の公的支援と社会保障制度2(講義) 第8回 情報整理の方法(講義) 第9回 インターネット使用の常識(演習) 第10回 ディスカッション課題の基礎知識(講義) 第11回 ディスカッション課題の準備(演習) 第12回 ディスカッション1(演習) 第13回 ディスカッション2(演習) 第14回 学習成果の発表1(演習) 第15回 学習成果の発表2(演習)			
この科目は、基本的に対面授業を行いますが、一部の授業回ではWebを利用した授業を行います。なお新型コロナウイルス感染症の流行状況によっては、オンデマンド講義に変更しますが、その場合には医学部授業収録システムを用います。			
医学部の学生のみが履修する科目なので、連絡はドリームキャンパスではなく、WebClassを使います。事前学習課題が出る場合があるので、その内容やレポートの締め切りを、必ずWebClassで確認してください。 講義により、レポート提出の方法が異なります。			
教科書・参考書等 特にありません。			
オフィスアワー 新型コロナウイルス感染症の流行により、キャンパス内への立ち入りが禁止になる場合があります。 質問は、WebClassに指定したメールアドレスに送る形で受け付けます。 対面での回答が必要な場合は、メールでアポイントを取ってください。			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

医学部学生のみを対象としているので、連絡はドリームキャンパスではなく、WebClassを使います。
新型コロナウイルスの流行状況によっては、演習の内容が変わる場合があります。

<p>ナンバリングコード B1ACL-acdG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081406) 大学入門ゼミ M(6) Startup Seminar on Academic Literacy 双方向学習のスキルアップ Trying to mutually improve the learning skills</p>	<p>科目区分 大学入門ゼミ</p> <p>水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ</p> <p>授業形態 講義 グループワーク</p>	<p>時間割 2022年度 前期水1</p> <p>提供部局: 大教センター DPコード: acd</p> <p>単位数 2</p>	<p>対象年次 1~</p> <p>対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし</p>
<p>担当教員名 市原 多香子, 渡邊 久美, 松本 啓子</p>	<p>関連授業科目 学習の基本に関する授業科目 履修推奨科目 人間理解に関連する授業科目</p>		
<p>学習時間 講義90分×15回+自学自習(受講時に提示する課題へのレポート提出、事前学習30時間+事後学習30時間)</p>			
<p>授業の概要 大学で学ぶために必要な基本的な学習態度と方法、すなわち話し言葉と記述言語の使い方、ノートのとり方、レポートの書き方、コミュニケーション、プレゼンテーション技法などについて、講義と演習および自学自習を通して学び、自尊自立した大学生の基礎を涵養する。</p>			
<p>授業の目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学生の倫理的態度と履修上のマナーを習得する。 2. 学習者に必要な基本的学習スキルを習得する。 3. より良い人間関係を築く対話的コミュニケーションを体験する。 			
<p>到達目標</p>			
<p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業に出席する学生のマナーを理解し、医療者に必要な倫理的態度を習得できる。(共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理」に対応) 2. 学習者に必要な基本的学習スキルを操作できる。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 3. より良い人間関係を築く対話的コミュニケーションを実施できる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 			
<p>成績評価の方法と基準</p>			
<p>評価資料</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習態度(出席を含む) 20% 2. 参加度 30% 3. 成果物(試験と同等に扱う) 50% 			
<p>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</p>			
<p>授業は、「講義」と「演習」で構成されています。 少人数でのグループワークも取り入れます。演習での成果物は、評価資料となります。 実施形態(対面/遠隔)は状況に応じてweb class を通じて事前に連絡しますが、遠隔の場合はZoomを使ったリアルタイムでのグループワークも取り入れます。オンラインでのグループワークの進め方も慣れていってください。</p>			
<p>第1週 ガイダンス、アイスブレイキング(渡邊) (Zoomミーティング担当:蔵本) 第2週 情報の整理①ノートの取り方について 第3週 情報の整理②ループブック・ポートフォリオについて 第4週 レポートの書き方①21世紀社会のストレス問題の課題探求(1) 第5週 レポートの書き方②21世紀社会のストレス問題の課題探求(2) 第6週 日本語技法①日本語の話し言葉・書き言葉、電子メールの新リテラシー 第7週 日本語技法②日本語の敬語、連絡・相談・報告の日本語 第8週 日本語技法③エビデンスと推敲の技法 第9週 日本語技法④アサーティブなディベート手法 第10週 日本語技法⑤ディベートの体験と評価 第11週 プレゼンテーション技法①討議法 第12週 プレゼンテーション技法②セルフチェック 第13週 プレゼンテーション技法③プレゼンテーションスキル 第14週 プレゼンテーション技法④グループで課題に取り組む 第15回 プレゼンテーション技法⑤課題報告、プレゼンテーションの体験と評価</p>			
<p>【自学自習に関するアドバイス】 第1週 遅刻しないで授業に参加し、今後の授業の参加態度を確認する。状況に応じた香川大学の自己紹介を検討する。 第2週 情報とは何かを考える。大学での学習課題を、いくつかの要素に分けて考える。医療系学生として望ましい生活態度について検討し、セルフアセスメントを行う。</p>			

- 第3週 いくつかの現代的課題に関する提示テーマから選択して、素材を集める。理想的な学習姿勢、態度を段階評価してみる。
- 第4週 意見交換を踏まえ、自分の生活体験と関連付けた意見をレポートにまとめる。課題に応じた文献の検索と引用を正しく行う。
- 第5週 相互評価により、レポート評価のルーブリックを作成してみる。各自が作成した視点を統合して、グループ毎にまとめたものについて、全体発表を行う。
- 第6週 日本語の話し言葉、書き言葉、メールリテラシーを演習を通して理解する。
- 第7週 日本語と文化的背景、国際社会の中における日本人の言葉リテラシーを考える。
- 第8週 意見交換を踏まえ、自分の体験と関連付けた意見をレポートにまとめる。
- 第9週 ディベートの体験に向けて、アサーティブな会話について意見をレポートにまとめる。
- 第10週 グループで相互に意見交換を通して、全体評価を行う。
- 第11週 いろんな話し合いの技法を演習を通して理解する。
- 第12週 自分のプレゼンテーションを撮影し振り返る。
- 第13週 プレゼンテーションスキルを理解する。
- 第14週 グループにて課題に取り組むため欠席しないこと。
- 第15週 グループごとにプレゼンテーションを実施したのちピア評価を行う。

教科書・参考書等

各講義で必要な資料は配付する。

オフィスアワー 授業日、授業終了後、18:30まで。

1－5回担当 医学部精神看護学 渡邊 久美（教授）医学部看護学教育研究棟

616室 電話 087-891-2245

6－10回担当 医学部在宅看護学 松本 啓子（教授）医学部看護学教育研究棟

619室 電話 087-891-2346

11－15回担当 急性期成人看護学 市原多香子（教授）医学部看護学教育研究棟

319室 電話 087-891-2237

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

入門ゼミは、8:50から始業です。三木町キャンパスは駐車場が朝から混雑します。対面授業の場合は、時間に余裕をもって、遅刻しないようご留意ください。遠隔授業の場合も、基本的にはリアルタイムで行う予定ですので、事前にネット環境の準備をお願いします。

ナンバリングコード B1ACL-acbG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081407) 大学入門ゼミ M(7) Startup Seminar on Academic Literacy 医療における心理学 Psychology in the medical	科目区分 大学入門ゼミ 水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ 授業形態 講義 グループワーク	時間割 2022年度 前期水1 提供部局:大教センター DPコード:acb 単位数 2	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 野口 修司, 岡崎 聡	関連授業科目 履修推奨科目 心理学		
学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 この授業では、大学生活で必要不可欠な基礎的学習スキルの獲得を目指します。また、心理学の基礎的概念を理解しつつ、医療分野における心理学の意義についてみなさんとともに考えていきます。			
授業の目的 大学生活を円滑に始められるようにするため、レポート課題や発表を通して、情報収集スキルやプレゼンテーションスキルなどの基礎的学習スキルを身に付けます。また、心理学に基づいたコミュニケーション理論を理解するとともに、それを日常生活に活用するための技術を磨きます。			
到達目標			
1. 学術文献等を収集し、その要点をまとめて発表資料を作ることができる(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 2. プレゼンテーションソフト等を用いて研究倫理を踏まえた発表をすることができる(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 3. 心理学の基礎的概念について説明することができる(共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 4. 他の聴講生や教員と積極的にコミュニケーションをとることができる(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
成績評価の方法と基準 受講態度 20%(特に到達目標4に対応)、レポート 40%(特に到達目標1, 3に対応)、発表 40%(特に到達目標1, 2に対応)			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション:自己紹介等 第2回 日本語表現および手紙・電子メールの書き方 第3回 情報収集の方法とまとめ方(図書館の使い方・インターネットでの情報収集) 第4回 レポートの書き方:レポートの形式と特徴の理解 第5回 レポート「心理学とは」1:レポートの作成 第6回 レポート「心理学とは」2:レポートの校正 第7回 社会で役立つコミュニケーション・スキル 第8回 医学部生が知っておくべき「守秘義務」と「研究倫理」 第9回 プレゼンテーションの技法およびソフトの使い方 第10回 プレゼンテーション「医療における心理学」1:プレゼンテーションの課題説明およびグループ分け 第11回 プレゼンテーション「医療における心理学」2:プレゼンテーションの構成の検討 第12回 プレゼンテーション「医療における心理学」3:プレゼンテーション資料の作成 第13回 プレゼンテーション「医療における心理学」4:プレゼンテーション資料の校正 第14回 プレゼンテーション「医療における心理学」5:発表 第15回 まとめ			
【授業及び学習の方法】 授業は講義および演習形式です。前半8回は講義を中心に進めますが、適宜グループワークを取り入れます。後半7回ではグループによるプレゼンテーション課題が主となり、発表に向けて段階的に準備を進めていきます。			
この科目は基本的に対面授業を行います。なお、状況によっては授業形態を全て遠隔へ変更する場合があります。			
【自学自習のためのアドバイス】 第5, 6回 心理学の領域や歴史などを各自が調べて、レポートにまとめてください。なお、必要な資料の収集等については事前に準備してください。(20時間) 第11-14回 プレゼンテーションの準備をグループ内で円滑に進めるため、必要な資料の収集等については事前に準備してください。(40時間)			

教科書・参考書等

各回で必要な資料を配布します。

オフィスアワー 野口：三木キャンパス講義棟3階 水曜3時限目

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

授業は毎回出欠をとります。15分以上遅刻は欠席とみなします。なお、病気等のやむを得ない欠席の際、欠席届や診断書等の提出があれば、公欠扱いとします。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081501) 大学入門ゼミ T(1) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ (Startup Seminar on Academic Literacy)	科目区分 大学入門ゼミ 水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ 授業形態 講義 グループワーク	時間割 2022年度 前期水3 提供部局:大教センター DPコード:acx 単位数 2	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 北村 尊義, 吉村 英徳	関連授業科目 情報リテラシー 履修推奨科目 情報リテラシー		
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、効果的なプレゼンテーションを実施するための知識を講義形式で講義する。また、情報リテラシーと連携して、情報倫理について踏み込んだ内容を講義する。学内外の講師が講義を担当し、講義形態は内容に応じて、講義形式だけでなくグループワークの形式も取り入れる。また、時間外のe-Learningを活用する場合もある。			
授業の目的 大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識として、ノートテキング手法、学術文書の基本的な記述方法、研究倫理や情報倫理に則った情報発信方法などを学習する。さらに、実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し、学習した知識を実践的に深める。			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。 2. 課題について検討するための情報を収集し、整理することができる。 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って、レポートを作成することができる。 4. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。 5. 学習成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法を取ることができる。 6. 高度情報化社会に生きる人間としての情報倫理を身につけることができる。 7. 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか説明できる。 <p>※到達目標 1.~6.は共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」、「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応。 (1) 到達目標 3., 4.にて直接手的に学習, その他で課す課題にて実践することで、「日本語の言語表現を適切に理解し、自らの見解を文章や口頭で分かりやすく伝えることができる。」 (2) 到達目標 6., 7.に該当する第9週~第14週に課す課題の題材により、「21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探求することができる。」</p>			
成績評価の方法と基準 毎回の課題20点(満点)×15回の合計の1/3で評価し、60点以上を合格とする。期末テストは実施しない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 前半は全学共通コンテンツ(コース別に授業)および創造工学部共通コンテンツ(全コースで授業)を中心に授業を行う。後半は、適宜グループに分かれて、課題探求授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う。			
【授業計画】 第1週 ガイダンスー授業の目的・計画ー(コース) 第2週 被害者や加害者にならないための心構え(全体) 第3週 キャンパスライフの心得(全体) 第4週 図書館を上手に利用する(全体) 第5週 情報を整理する ~ノートテキングの勘所~(コース) 第6週 情報を発信する ~レポート・プレゼンテーションの勘所~(コース) 第7週 履修方法を深く理解する(コース) 第8週 情報倫理を考える(コース) 第9週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか(1)(コース) 第10週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか(2)(コース) 第11週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか(3)(コース) 第12週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか(4)(コース) 第13週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか(5)(コース) 第14週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか(6)(コース) 第15週 大学入門ゼミのまとめ(コース)			

※この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。
※授業進行の状況などにより、授業の順番が入れ替わる場合や内容を調整する場合もある。その場合は事前に連絡するので、授業内およびLMS（香川大学Moodle）におけるアナウンスに注意すること。
※造形・メディアデザインコースで何を学ぶかは各回でコース教員が2名ずつ、アートとデザインなど様々な観点で造形・メディアデザインコースでの「学び」を講義する。
※大学入門ゼミの授業の一部を新入生合宿と連携して実施する場合もある。

【自学自習に関するアドバイス】

他の科目と異なり、様々な形態で授業が進行するので、事前に次回の授業概要を必ず確認すること。また、授業に関する情報はLMS（香川大学Moodle）の掲示版機能などを用いアナウンスするので定期的に確認すること。

各回において準備学習2時間、事後学習2時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りやハンドアウトなどの資料を見て不明な点などの事前調査などです。事後学習は授業から余り時間をおかずにその回の復習をしたりすることが挙げられます。また、夏休みなどの長期休暇での全体的な復習として事後学習に時間配分しても結構です。

教科書・参考書等

教科書は指定しない。テーマごとに必要な資料をLMS上で電子配布する。

オフィスアワー 日時：金曜日1～2時限目

場所：幸町北キャンパス教員居室

不在時は電子メールで対応：

kitamura.takayoshi@kagawa-u.ac.jp（北村）

yoshimura.hidenori@kagawa-u.ac.jp（吉村）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

「情報リテラシー」の履修を前提として授業を実施するので「情報リテラシー」もしっかり履修してください。また、ノートPCを利用する回もあるので注意ください。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081502) 大学入門ゼミ T(2) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ (Startup Seminar on Academic Literacy)	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期水3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局:大教センター DPコード:acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 吉村 英徳, 北村 尊義	関連授業科目 情報リテラシー		
	履修推奨科目 情報リテラシー		
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、効果的なプレゼンテーションを実施するための知識を講義形式で講義する。また、情報リテラシーと連携して、情報倫理について踏み込んだ内容を講義する。学内外の講師が講義を担当し、講義形態は内容に応じて、講義形式だけでなくグループワークの形式も取り入れる。また、時間外のe-Learningを活用する場合もある。			
授業の目的 大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識として、ノートテキング手法、学術文書の基本的な記述方法、研究倫理や情報倫理に則った情報発信方法などを学習する。さらに、実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し、学習した知識を実践的に深める。			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。 2. 課題について検討するための情報を収集し、整理することができる。 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って、レポートを作成することができる。 4. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。 5. 学習成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法を取ることができる。 6. 高度情報化社会に生きる人間としての情報倫理を身につけることができる。 7. 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか説明できる。 <p>※到達目標 1.～6. は共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」、「21 世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応。 (1) 到達目標 3., 4. にて直接手的に学習, その他で課す課題にて実践することで、「日本語の言語表現を適切に理解し、自らの見解を文章や口頭で分かりやすく伝えることができる。」 (2) 到達目標 6., 7. に該当する第 9 週～第 14 週に課す課題の題材により、「21 世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探求することができる。」</p>			
成績評価の方法と基準 毎回の課題20点(満点)×15回の合計の1/3で評価し、60点以上を合格とする。期末テストは実施しない。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 前半は全学共通コンテンツ(コース別に授業)および創造工学部共通コンテンツ(全コースで授業)を中心に授業を行う。後半は、適宜グループに分かれて、課題探求授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う。			
【授業計画】 第1週 ガイダンスー授業の目的・計画ー(コース) 第2週 被害者や加害者にならないための心構え(全体) 第3週 キャンパスライフの心得(全体) 第4週 図書館を上手に利用する(全体) 第5週 情報を整理する ～ノートテキングの勘所～(コース) 第6週 情報を発信する ～レポート・プレゼンテーションの勘所～(コース) 第7週 履修方法を深く理解する(コース) 第8週 情報倫理を考える(コース) 第9週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか(1)(コース) 第10週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか(2)(コース) 第11週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか(3)(コース) 第12週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか(4)(コース) 第13週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか(5)(コース) 第14週 造形・メディアデザインコースで何を学ぶか(6)(コース) 第15週 大学入門ゼミのまとめ(コース)			

※この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。
※授業進行の状況などにより、授業の順番が入れ替わる場合や内容を調整する場合もある。その場合は事前に連絡するので、授業内およびLMS（香川大学Moodle）におけるアナウンスに注意すること。
※造形・メディアデザインコースで何を学ぶかは各回でコース教員が2名ずつ、アートとデザインなど様々な観点で造形・メディアデザインコースでの「学び」を講義する。
※大学入門ゼミの授業の一部を新入生合宿と連携して実施する場合もある。

【自学自習に関するアドバイス】

他の科目と異なり、様々な形態で授業が進行するので、事前に次回の授業概要を必ず確認すること。また、授業に関する情報はLMS（香川大学Moodle）の掲示版機能などを用いアナウンスするので定期的に確認すること。

各回において準備学習2時間、事後学習2時間程度の自学自習を推奨します。準備学習は前回の振り返りやハンドアウトなどの資料を見て不明な点などの事前調査などです。事後学習は授業から余り時間をおかずにその回の復習をしたりすることが挙げられます。また、夏休みなどの長期休暇での全体的な復習として事後学習に時間配分しても結構です。

教科書・参考書等

教科書は指定しない。テーマごとに必要な資料をLMS上で電子配布する。

オフィスアワー 日時：金曜日1～2時限目

場所：幸町北キャンパス教員居室

不在時は電子メールで対応：

kitamura.takayoshi@kagawa-u.ac.jp（北村）

yoshimura.hidenori@kagawa-u.ac.jp（吉村）

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

「情報リテラシー」の履修を前提として授業を実施するので「情報リテラシー」もしっかり履修してください。また、ノートPCを利用する回もあるので注意ください。

ナンバリングコード BIACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081503) 大学入門ゼミ T(3) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ (Startup Seminar on Academic Literacy)	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期水2	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 山中 稔, 中島 美登子, 角道 弘文	関連授業科目 情報リテラシーA 履修推奨科目 対人コミュニケーション (建築)		
学習時間 講義90分×15回+自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 <p>はじめに、キャンパスライフの基本について学ぶとともに、大学での勉学を進めていくうえで最低限のスキル、すなわち、情報整理の方法、日本語技法、レポートや電子メールの書き方、プレゼンテーション方法等について習得します。また、大学生である皆さんに求められることは、社会が抱える課題を皆さんが解決しようとする姿勢です。とくに、現状を正しく認識し共有すること、解決すべき課題を主体的に見出すこと、多様な考えや価値観を認め合うこと、さらには、関係者間で意見を共有し合意形成に向けて努力することが重要です。本授業の後半では、少人数グループでの討論を通じて、これらの素養を身につけるためのトレーニングを行います。</p>			
授業の目的 <p>「情報整理」、「日本語技法」、「ノートのとり方」、「レポートの書き方」、「プレゼンテーションの方法」といった学習を通じて、大学高学年次に受講する専門科目の履修を円滑に進めるための基礎を習得します。また、レポート作成やプレゼンテーションを実際に行う機会を通じて、学習した知識を体得します。さらに、グループワークでの討論や発表を通じて、他者の考えや価値観を理解し合うこと、意見を共有して合意形成に向けて努力することの大切さを習得します。</p>			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. 正確な情報を収集し、整理・活用することができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使ってレポートを作成することができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 4. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 5. 他者の考えや価値観を尊重し、情報を共有しながら合意形成に向けて努力できるようになる。(共通スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 			
成績評価の方法と基準 <p>授業終了時に提出を求めるミニレポートのウェイトを30点、自学自習の取り組みとしてのレポート(複数回)のウェイトを70点とし、満点を100点として成績を評価します。60点以上が合格となります。期末試験は行われません。 レポートとしては、取り組むべき課題が予め提示されるものもあれば、ある特定のテーマのもとに課題そのものを自らが設定したうえで取り組むものもあります。</p>			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 <p>授業の前半(第9週まで)は、キャンパスライフの基本を中心とした創造工学部の共通コンテンツを、また、日本語技法、レポートの書き方、プレゼンテーション技術等の基本スキルを講義形式で行います。授業の後半(第10週以降)は、20名程度で構成されるグループごとにクラスを分け、クラス内でさらに少人数グループを編制して意見交換・討議・発表を中心とした演習形式で行います。</p>			
【授業計画】 第1週 ガイダンス (授業の目的・計画) 第2週 被害者や加害者にならないための心構え (学部共通) 第3週 キャンパスライフの心得 (学部共通) 第4週 図書館を上手に利用する (学部共通) 第5週 本コースで学ぶこと (コース: 新入生研修) 第6週 主体性と協調性を養う (コース: 新入生研修) 第7週 日本語技法、ノートのとり方、電子メールの書き方 (コース) 第8週 レポートの書き方、プレゼンテーション技術 (コース) 第9週 伝えたいことが相手に伝わっているか (コース) 第10週 グループワーク1 (クラス別) 第11週 グループワーク2 (クラス別)			

- 第12週 グループワーク 3 (クラス別)
第13週 グループワーク 4 (クラス別)
第14週 グループワーク成果発表、意見交換 (クラス別)
第15週 まとめ (コース)

※授業の順番が入れ替わる可能性があります。その場合には事前に周知します。また、新型コロナウイルスの感染状況によっては、新入生研修(建築・都市環境コース)が予定どおり行えない場合があります。授業の態様の変更についても、決定され次第周知します。

【自学自習に関するアドバイス】

- 第2～4週 授業内容に関連し各自が深めたい内容について探究する。
第5～9週 授業時に提示されたレポートを作成する。
第10～13週 課題に関する資料を収集し、論点・主張を要約する。
第14週 発表に関する自己評価、他者評価を文章としてまとめる。
第15週 本授業の今後の学習への活かし方について整理する。

教科書・参考書等

教科書は使用しません。各回の授業で扱う内容に沿った資料等を配布し、配布物にもとづき授業を進めます。

参考書は授業中に随時紹介しますが、差し当たっては以下の良書をあげておきます。

- ・漫画 君たちはどう生きるか、吉野源三郎・羽賀翔一、マガジンハウス (2017)
- ・大人のための社会科、井手英策ほか、有斐閣 (2017)
- ・新・大学で何を学ぶか、上田紀行、岩波書店 (2020)
- ・ファシリテーションとは何かーコミュニケーション幻想を超えて、中野民夫ら、ナカニシヤ出版 (2021)
- ・日本社会のしくみ、小熊英二、講談社 (2019)
- ・もじれる社会:戦後日本型循環モデルを超えて、本田由紀、筑摩書房 (2014)
- ・やってみよう! 実証研究入門、古谷嘉一郎編、ナカニシヤ出版 (2022)

オフィスアワー 質問者には希望する日時に来てもらえるよう配慮したいと思います。したがって、まずは電子メールで質問内容(大まかでよい)と希望日時(いくつかの候補)を知らせて下さい。折り返し対応できる日時を連絡します。担当教員3名の研究室の所在と電子メールアドレスは以下のとおりです。

- 角道 弘文 : 創造工学部2号棟5階(南)、kakudo.hirofumi@kagawa-u.ac.jp
山中 稔 : 創造工学部2号棟3階(南)、yamanaka.minoru@kagawa-u.ac.jp
中島美登子 : 創造工学部2号棟4階(南)、nakashima.mitoko@kagawa-u.ac.jp

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回授業終了時に提出されたミニレポートにより出席を確認します。また、グループワークでの活動を通じて、問題意識をもちながら積極的に自主的に行動できるよう習慣づけてください。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081504) 大学入門ゼミ T(4) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ (Startup Seminar on Academic Literacy)	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期水2	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 中島 美登子, 角道 弘文, 山中 稔	関連授業科目 情報リテラシーA 履修推奨科目 対人コミュニケーション (建築)		
学習時間 講義90分×15回+自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 <p>はじめに、キャンパスライフの基本について学ぶとともに、大学での勉学を進めていくうえで最低限のスキル、すなわち、情報整理の方法、日本語技法、レポートや電子メールの書き方、プレゼンテーション方法等について習得します。また、大学生である皆さんに求められることは、社会が抱える課題を皆さんが解決しようとする姿勢です。とくに、現状を正しく認識し共有すること、解決すべき課題を主体的に見出すこと、多様な考えや価値観を認め合うこと、さらには、関係者間で意見を共有し合意形成に向けて努力することが重要です。本授業の後半では、少人数グループでの討論を通じて、これらの素養を身につけるためのトレーニングを行います。</p>			
授業の目的 <p>「情報整理」、「日本語技法」、「ノートのとり方」、「レポートの書き方」、「プレゼンテーションの方法」といった学習を通じて、大学高学年次に受講する専門科目の履修を円滑に進めるための基礎を習得します。また、レポート作成やプレゼンテーションを実際に行う機会を通じて、学習した知識を体得します。さらに、グループワークでの討論や発表を通じて、他者の考えや価値観を理解し合うこと、意見を共有して合意形成に向けて努力することの大切さを習得します。</p>			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. 正確な情報を収集し、整理・活用することができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使ってレポートを作成することができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 4. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 5. 他者の考えや価値観を尊重し、情報を共有しながら合意形成に向けて努力できるようになる。(共通スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 			
成績評価の方法と基準 <p>授業終了時に提出を求めるミニレポートのウェイトを30点、自学自習の取り組みとしてのレポート(複数回)のウェイトを70点とし、満点を100点として成績を評価します。60点以上が合格となります。期末試験は行われません。 レポートとしては、取り組むべき課題が予め提示されるものもあれば、ある特定のテーマのもとに課題そのものを自らが設定したうえで取り組むものもあります。</p>			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 <p>授業の前半(第9週まで)は、キャンパスライフの基本を中心とした創造工学部の共通コンテンツを、また、日本語技法、レポートの書き方、プレゼンテーション技術等の基本スキルを講義形式で行います。授業の後半(第10週以降)は、20名程度で構成されるグループごとにクラスを分け、クラス内でさらに少人数グループを編制して意見交換・討議・発表を中心とした演習形式で行います。</p>			
【授業計画】 第1週 ガイダンス (授業の目的・計画) 第2週 被害者や加害者にならないための心構え (学部共通) 第3週 キャンパスライフの心得 (学部共通) 第4週 図書館を上手に利用する (学部共通) 第5週 本コースで学ぶこと (コース: 新入生研修) 第6週 主体性と協調性を養う (コース: 新入生研修) 第7週 日本語技法、ノートのとり方、電子メールの書き方 (コース) 第8週 レポートの書き方、プレゼンテーション技術 (コース) 第9週 伝えたいことが相手に伝わっているか (コース) 第10週 グループワーク1 (クラス別) 第11週 グループワーク2 (クラス別) 第12週 グループワーク3 (クラス別)			

第13週 グループワーク 4 (クラス別)

第14週 グループワーク成果発表、意見交換 (クラス別)

第15週 まとめ (コース)

※授業の順番が入れ替わる可能性があります。その場合には事前に周知します。また、新型コロナウイルスの感染状況によっては、新入生研修 (建築・都市環境コース) が予定どおり行えない場合があります。授業の態様の変更についても、決定され次第周知します。

【自学自習に関するアドバイス】

第2～4週 授業内容に関連し各自が深めたい内容について探究する。

第5～9週 授業時に提示されたレポートを作成する。

第10～13週 課題に関する資料を収集し、論点・主張を要約する。

第14週 発表に関する自己評価、他者評価を文章としてまとめる。

第15週 本授業の今後の学習への活かし方について整理する。

教科書・参考書等

教科書は使用しません。各回の授業で扱う内容に沿った資料等を配布し、配布物にもとづき授業を進めます。

参考書は授業中に随時紹介しますが、差し当たっては以下の良書をあげておきます。

- ・漫画 君たちはどう生きるか、吉野源三郎・羽賀翔一、マガジンハウス (2017)
- ・大人のための社会科、井手英策ほか、有斐閣 (2017)
- ・新・大学で何を学ぶか、上田紀行、岩波書店 (2020)
- ・ファシリテーションとは何かーコミュニケーション幻想を超えて、中野民夫ら、ナカニシヤ出版 (2021)
- ・日本社会のしくみ、小熊英二、講談社 (2019)
- ・もじれる社会:戦後日本型循環モデルを超えて、本田由紀、筑摩書房 (2014)
- ・やってみよう! 実証研究入門、古谷嘉一郎編、ナカニシヤ出版 (2022)

オフィスアワー 質問者には希望する日時に来てもらえるよう配慮したいと思います。したがって、まずは電子メールで質問内容 (大まかでよい) と希望日時 (いくつかの候補) を知らせて下さい。折り返し対応できる日時を連絡します。担当教員3名の研究室の所在と電子メールアドレスは以下のとおりです。

角道 弘文 : 創造工学部2号棟5階 (南)、kakudo.hirofumi@kagawa-u.ac.jp

山中 稔 : 創造工学部2号棟3階 (南)、yamanaka.minoru@kagawa-u.ac.jp

中島美登子 : 創造工学部2号棟4階 (南)、nakashima.mitoko@kagawa-u.ac.jp

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回授業終了時に提出されたミニレポートにより出席を確認します。また、グループワークでの活動を通じて、問題意識をもちながら積極的に自主的に行動できるよう習慣づけてください。

<p>ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081505)</p> <p>大学入門ゼミ T(5) Startup Seminar on Academic Literacy</p> <p>大学入門ゼミ (Startup Seminar on Academic Literacy)</p>	<p>科目区分 大学入門ゼミ</p> <p>水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ</p> <p>授業形態 講義 グループワーク</p>	<p>時間割 2022年度 前期水2</p> <p>提供部局: 大教センター DPコード: acx</p> <p>単位数 2</p>	<p>対象年次 1~</p> <p>対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし</p>
<p>担当教員名 角道 弘文, 中島 美登子, 山中 稔</p>	<p>関連授業科目 情報リテラシーA 履修推奨科目 対人コミュニケーション (建築)</p>		
<p>学習時間 講義90分×15回+自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)</p>			
<p>授業の概要</p> <p>はじめに、キャンパスライフの基本について学ぶとともに、大学での勉学を進めていくうえで最低限のスキル、すなわち、情報整理の方法、日本語技法、レポートや電子メールの書き方、プレゼンテーション方法等について習得します。また、大学生である皆さんに求められることは、社会が抱える課題を皆さんが解決しようとする姿勢です。とくに、現状を正しく認識し共有すること、解決すべき課題を主体的に見出すこと、多様な考えや価値観を認め合うこと、さらには、関係者間で意見を共有し合意形成に向けて努力することが重要です。本授業の後半では、少人数グループでの討論を通じて、これらの素養を身につけるためのトレーニングを行います。</p>			
<p>授業の目的</p> <p>「情報整理」、「日本語技法」、「ノートのとり方」、「レポートの書き方」、「プレゼンテーションの方法」といった学習を通じて、大学高学年次に受講する専門科目の履修を円滑に進めるための基礎を習得します。また、レポート作成やプレゼンテーションを実際に行う機会を通じて、学習した知識を体得します。さらに、グループワークでの討論や発表を通じて、他者の考えや価値観を理解し合うこと、意見を共有して合意形成に向けて努力することの大切さを習得します。</p>			
<p style="text-align: center;">到達目標</p>			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. 正確な情報を収集し、整理・活用することができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使ってレポートを作成することができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 4. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。(共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 5. 他者の考えや価値観を尊重し、情報を共有しながら合意形成に向けて努力できるようになる。(共通スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 			
<p>成績評価の方法と基準</p>			
<p>授業終了時に提出を求めるミニレポートのウェイトを30点、自学自習の取り組みとしてのレポート(複数回)のウェイトを70点とし、満点を100点として成績を評価します。60点以上が合格となります。期末試験は行われません。</p> <p>レポートとしては、取り組むべき課題が予め提示されるものもあれば、ある特定のテーマのもとに課題そのものを自らが設定したうえで取り組むものもあります。</p>			
<p style="text-align: center;">授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</p>			
<p>【授業の方法】</p> <p>授業の前半(第9週まで)は、キャンパスライフの基本を中心とした創造工学部の共通コンテンツを、また、日本語技法、レポートの書き方、プレゼンテーション技術等の基本スキルを講義形式で行います。授業の後半(第10週以降)は、20名程度で構成されるグループごとにクラスを分け、クラス内でさらに少人数グループを編制して意見交換・討議・発表を中心とした演習形式で行います。</p> <p>【授業計画】</p> <p>第1週 ガイダンス (授業の目的・計画) 第2週 被害者や加害者にならないための心構え (学部共通) 第3週 キャンパスライフの心得 (学部共通) 第4週 図書館を上手に利用する (学部共通) 第5週 本コースで学ぶこと (コース: 新入生研修) 第6週 主体性と協調性を養う (コース: 新入生研修) 第7週 日本語技法、ノートのとり方、電子メールの書き方 (コース) 第8週 レポートの書き方、プレゼンテーション技術 (コース) 第9週 伝えたいことが相手に伝わっているか (コース) 第10週 グループワーク1 (クラス別) 第11週 グループワーク2 (クラス別) 第12週 グループワーク3 (クラス別)</p>			

第13週 グループワーク 4 (クラス別)

第14週 グループワーク成果発表、意見交換 (クラス別)

第15週 まとめ (コース)

※授業の順番が入れ替わる可能性があります。その場合には事前に周知します。また、新型コロナウイルスの感染状況によっては、新入生研修 (建築・都市環境コース) が予定どおり行えない場合があります。授業の態様の変更についても、決定され次第周知します。

【自学自習に関するアドバイス】

第2～4週 授業内容に関連し各自が深めたい内容について探究する。

第5～9週 授業時に提示されたレポートを作成する。

第10～13週 課題に関する資料を収集し、論点・主張を要約する。

第14週 発表に関する自己評価、他者評価を文章としてまとめる。

第15週 本授業の今後の学習への活かし方について整理する。

教科書・参考書等

教科書は使用しません。各回の授業で扱う内容に沿った資料等を配布し、配布物にもとづき授業を進めます。

参考書は授業中に随時紹介しますが、差し当たっては以下の良書をあげておきます。

- ・漫画 君たちはどう生きるか、吉野源三郎・羽賀翔一、マガジンハウス (2017)
- ・大人のための社会科、井手英策ほか、有斐閣 (2017)
- ・新・大学で何を学ぶか、上田紀行、岩波書店 (2020)
- ・ファシリテーションとは何かーコミュニケーション幻想を超えて、中野民夫ら、ナカニシヤ出版 (2021)
- ・日本社会のしくみ、小熊英二、講談社 (2019)
- ・もじれる社会:戦後日本型循環モデルを超えて、本田由紀、筑摩書房 (2014)
- ・やってみよう! 実証研究入門、古谷嘉一郎編、ナカニシヤ出版 (2022)

オフィスアワー 質問者には希望する日時に来てもらえるよう配慮したいと思います。したがって、まずは電子メールで質問内容 (大まかでよい) と希望日時 (いくつかの候補) を知らせて下さい。折り返し対応できる日時を連絡します。担当教員3名の研究室の所在と電子メールアドレスは以下のとおりです。

角道 弘文 : 創造工学部2号棟5階 (南)、kakudo.hirofumi@kagawa-u.ac.jp

山中 稔 : 創造工学部2号棟3階 (南)、yamanaka.minoru@kagawa-u.ac.jp

中島美登子 : 創造工学部2号棟4階 (南)、nakashima.mitoko@kagawa-u.ac.jp

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回授業終了時に提出されたミニレポートにより出席を確認します。また、グループワークでの活動を通じて、問題意識をもちながら積極的に自主的に行動できるよう習慣づけてください。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081506) 大学入門ゼミ T(6) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ (防災・危機管理コース) Startup Seminar on Academic Literacy	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期水2	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 :大教センター DPコード :acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 地元 孝輔	関連授業科目 情報リテラシー		
	履修推奨科目 情報リテラシー		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、効果的なプレゼンテーションを実施するための知識など、大学において必要とされる基本的な知識や技術を学習する。講義形態は内容に応じて、講義形式や少人数グループワークの形式とする。			
授業の目的 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、自らの考えを相手に的確に伝えるためのプレゼンテーションの手法、研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法など、大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎的な知識や技術を学習する。実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し、学習した知識を実践的に深める。			
到達目標			
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。 2. 課題について検討するための情報を収集し、整理することができる。 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って、レポートを作成することができる。 4. 課題について役割分担を決め、協同して調査、取りまとめを行うことができる。 5. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。 6. 成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法を取ることができる。 7. 現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探求することができる。 1～6の到達目標は、共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」、7は「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応する。			
成績評価の方法と基準 毎回提出するミニレポート30%、レポート40%、プレゼンテーション20%、最終レポート(概要版)10%で評価を行う。これらの総合評価により60%以上を合格とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 前半は、全学共通コンテンツ(コース別に授業)および創造工学部共通コンテンツ(学部全体で授業)を中心に授業を行う。後半は、課題探求授業としてプレゼンテーションやレポート作成の練習を行う。この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。			
【授業計画】 第01週 ガイダンスー授業の目的・計画ー(コース) 第02週 図書館を上手に利用する(全体) 第03週 理系の基礎知識を用いた交通捜査(全体) 第04週 被害者や加害者にならないための心構え(全体) 第05週 キャンパスライフの心得(全体) 第06週 アイスブレイキングと自己紹介、コースで学ぶこと(コース) 第07週 情報整理の方法(コース) 第08週 日本語技法その1(コース) 第09週 日本語技法その2(コース) 第10週 レポートの書き方(コース) 第11週 プレゼンテーションの方法(コース) 第12週 グループワーク(グループ) 第13週 グループワーク(グループ) 第14週 プレゼンテーション実践(グループ) 第15週 まとめ(コース) ※授業の順番が入れ替わることもある。その都度、学内掲示等するので注意すること。			
【自学自習に関するアドバイス】 第01週 講義を受けるために必要なツールやテクニックについて調べる。(3時間) 第02～05週 講義内容に関するレポートを作成する。(12時間)			

第06～11週 講義時に出された課題に関するレポートを作成する。(18時間)

第12～13週 課題に関する資料を作成する。(14時間)

第14週 発表に関する自己評価を文章にまとめる。(5時間)

第15週 今後の勉学の仕方や目標について計画を立てる。(5時間)

教科書・参考書等

テーマごとに授業資料を提供する。

オフィスアワー 前期・水曜日 12:20-12:50、林町キャンパス8号館2階 個人研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回授業終了時に提出されたミニレポートで出席を確認します。積極的に自主的に行動するように習慣づけてください。相談事項があれば、適宜Eメールなどで受け付けます。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081507) 大学入門ゼミ T(7) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ T(7) Startup Seminar on Academic Literacy	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期水2	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 香川 考司, 亀井 仁志	関連授業科目 履修推奨科目 情報リテラシー		
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方, 学術的文章を書くための基本的な技法, 効果的なプレゼンテーションを実施するための知識を講義形式で講義する。学内外の講師が講義を担当し, 講義形態は内容に応じて, 講義形式や少人数グループワークの形式とする。			
授業の目的 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方, 学術的文章を書くための基本的な技法, 自らの考えを相手に的確に伝えるためのプレゼンテーションの手法, 研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法など, 大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識を学習する。さらに, 実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し, 学習した知識を実践的に深める。			
到達目標			
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。 2. 課題について検討するための情報を収集し, 整理することができる。 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って, レポートを作成することができる。 4. 課題について役割分担を決め, 協同して調査, 取りまとめを行うことができる。 5. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。 6. 学習成果を発表する際に, 研究倫理に関する規範に則った方法を取ることができる。 1～6の到達目標は共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」「21世紀社会の諸課題に対応する探求能力」に対応する。			
成績評価の方法と基準 毎回提出するミニレポート30%、レポート40%、プレゼンテーション20%、最終レポート(概要版)10%で評価を行う。これらの総合評価により60%以上を合格とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 前半は、創造工学部共通コンテンツ(7コース全体で授業)および全学共通コンテンツ(コース別に授業)を中心に授業を行う。なお、初回を除くコース別の授業は、情報通信コースと合同で行う。後半は、20名程度のCAグループに分かれて、課題探求授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う。			
【授業計画】 第01週 ガイダンスー授業の目的・計画ー(コース) 第02週 被害者や加害者にならないための心構え(全体) 第03週 キャンパスライフの心得(全体) 第04週 図書館を上手に利用する(全体) 第05週 アイスブレイキングと自己紹介、学科で学ぶこと(コース) 第06週 情報整理の方法(コース) 第07週 日本語技法その1(コース) 第08週 日本語技法その2(コース) 第09週 レポートの書き方(コース) 第10週 eメールの書き方・実践(コース) 第11週 プレゼンテーションの方法(コース) 第12週 グループワーク(グループ) 第13週 グループワーク(グループ) 第14週 プレゼンテーション実践(グループ) 第15週 まとめ(コース) ※授業の順番が入れ替わる可能性もある。その都度、学内掲示等するので注意すること。			
【自学自習に関するアドバイス】 第01週 講義を受けるために必要なツールやテクニックについて調べる。 第02～04週 講義内容に関するレポートを作成する。 第05～11週 講義時に出された課題に関するレポートを作成する。 第12～13週 課題に関する資料を作成する。 第14週 発表に関する自己評価を文章にまとめる。			

第15週 今後の勉学の仕方や目標について計画を立てる。

【その他】

なお状況によっては授業形態を変更する可能性があります。

教科書・参考書等

テーマごとにプリントを配布する。

オフィスアワー 水曜日 12:20～12:50、林町キャンパス1号館10階 研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・情報システム・セキュリティコースの学生は、担当CAに応じて、大学入門ゼミ T(7)かT(8)を履修すること
- ・毎回授業終了時に提出されたミニレポートで出席を確認する。積極的に自主的に行動するように習慣づけること。相談はeメールでも受け付ける。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081508) 大学入門ゼミ T(8) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ T(8) Startup Seminar on Academic Literacy	科目区分 大学入門ゼミ 水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ 授業形態 講義 グループワーク	時間割 2022年度 前期水2 提供部局:大教センター DPコード:acx 単位数 2	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 亀井 仁志, 香川 考司	関連授業科目 履修推奨科目 情報リテラシー		
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方, 学術的文章を書くための基本的な技法, 効果的なプレゼンテーションを実施するための知識を講義形式で講義する。学内外の講師が講義を担当し, 講義形態は内容に応じて, 講義形式や少人数グループワークの形式とする。			
授業の目的 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方, 学術的文章を書くための基本的な技法, 自らの考えを相手に的確に伝えるためのプレゼンテーションの手法, 研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法など, 大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識を学習する。さらに, 実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し, 学習した知識を実践的に深める。			
到達目標			
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。 2. 課題について検討するための情報を収集し, 整理することができる。 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って, レポートを作成することができる。 4. 課題について役割分担を決め, 協同して調査, 取りまとめを行うことができる。 5. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。 6. 学習成果を発表する際に, 研究倫理に関する規範に則った方法を取ることができる。 1~6の到達目標は共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」「21世紀社会の諸課題に対応する探求能力」に対応する。			
成績評価の方法と基準 毎回提出するミニレポート30%、レポート40%、プレゼンテーション20%、最終レポート(概要版)10%で評価を行う。これらの総合評価により60%以上を合格とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 前半は、創造工学部共通コンテンツ(7コース全体で授業)および全学共通コンテンツ(コース別に授業)を中心に授業を行う。なお、初回を除くコース別の授業は、情報通信コースと合同で行う。後半は、20名程度のCAグループに分かれて、課題探求授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う。			
【授業計画】 第01週 ガイダンスー授業の目的・計画ー(コース) 第02週 被害者や加害者にならないための心構え(全体) 第03週 キャンパスライフの心得(全体) 第04週 図書館を上手に利用する(全体) 第05週 アイスブレイキングと自己紹介、学科で学ぶこと(コース) 第06週 情報整理の方法(コース) 第07週 日本語技法その1(コース) 第08週 日本語技法その2(コース) 第09週 レポートの書き方(コース) 第10週 eメールの書き方・実践(コース) 第11週 プレゼンテーションの方法(コース) 第12週 グループワーク(グループ) 第13週 グループワーク(グループ) 第14週 プレゼンテーション実践(グループ) 第15週 まとめ(コース) ※授業の順番が入れ替わる可能性もある。その都度、学内掲示等するので注意すること。			
【自学自習に関するアドバイス】 第01週 講義を受けるために必要なツールやテクニックについて調べる。 第02~04週 講義内容に関するレポートを作成する。 第05~11週 講義時に出された課題に関するレポートを作成する。 第12~13週 課題に関する資料を作成する。 第14週 発表に関する自己評価を文章にまとめる。			

第15週 今後の勉学の仕方や目標について計画を立てる。

【その他】

なお状況によっては授業形態を変更する可能性があります。

教科書・参考書等

テーマごとにプリントを配布する。

オフィスアワー 水曜日 12:20～12:50、林町キャンパス1号館10階 研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

- ・情報システム・セキュリティコースの学生は、担当CAに応じて、大学入門ゼミ T(7)かT(8)を履修すること
- ・毎回授業終了時に提出されたミニレポートで出席を確認する。積極的に自主的に行動するように習慣づけること。相談はeメールでも受け付ける。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081509) 大学入門ゼミ T(9) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ (情報通信コース) Startup Seminar on Academic Literacy	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期水2	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 :大教センター DPコード :acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 丹治 裕一, 北島 博之	関連授業科目 履修推奨科目 情報リテラシー		
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、効果的なプレゼンテーションを実施するための知識を講義形式で講義する。学内外の講師が講義を担当し、講義形態は内容に応じて、講義形式や少人数グループワークの形式とする。			
授業の目的 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、自らの考えを相手に的確に伝えるためのプレゼンテーションの手法、研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法など、大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識を学習する。さらに、実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し、学習した知識を実践的に深める。			
到達目標			
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. 課題について検討するための情報を収集し、整理することができる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って、レポートを作成することができる。(共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 4. 課題について役割分担を決め、協同して調査、取りまとめを行うことができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 5. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 6. 学習成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法を取ることができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 毎回提出するミニレポート30%、レポート40%、プレゼンテーション20%、最終レポート(概要版)10%で評価を行う。これらの総合評価により60%以上を合格とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 前半は、創造工学部共通コンテンツ(7コース全体で授業)および全学共通コンテンツ(コース別に授業)を中心に授業を行う。なお、初回を除くコース別の授業は、情報システム・セキュリティコースと合同で行う。後半は、20名程度のCAグループに分かれて、課題探求授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う。			
【授業計画】 第1週 ガイダンスー授業の目的・計画ー(コース) 第2週 被害者や加害者にならないための心構え(全体) 第3週 キャンパスライフの心得(全体) 第4週 図書館を上手に利用する(全体) 第5週 アイスブレイキングと自己紹介、学科で学ぶこと(新入生合宿)(コース) 第6週 情報整理の方法(コース) 第7週 日本語技法その1(コース) 第8週 日本語技法その2(コース) 第9週 レポートの書き方(コース) 第10週 eメールの書き方・実践(コース) 第11週 プレゼンテーションの方法(コース) 第12週 グループワーク(グループ) 第13週 グループワーク(グループ) 第14週 プレゼンテーション実践(グループ) 第15週 まとめ(コース) ※授業の順番が入れ替わる可能性もある。その都度、学内掲示等するので注意すること。			

【自学自習に関するアドバイス】

第1週 講義を受けるために必要なツールやテクニックについて調べる。

第2～4週 講義内容に関するレポートを作成する。

第5～11週 講義時に出された課題に関するレポートを作成する。

第12～13週 課題に関する資料を作成する。

第14週 発表に関する自己評価を文章にまとめる。

第15週 今後の勉学の仕方や目標について計画を立てる。

対面授業を行うか遠隔授業を行うかは現状では決定出来ない。学期開始時まで連絡する。

教科書・参考書等

テーマごとにプリントを配布する。

オフィスアワー 丹治 水曜日12:00～13:00、創造工学部1号館7階 研究室

北島 水曜日12:00～13:00、創造工学部1号館7階 研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

情報通信コースの学生は、担当CAに応じて、大学入門ゼミ T(9)かT(10)を履修すること。

毎回授業終了時に提出されたミニレポートで出席を確認する。積極的に自主的に行動するように習慣づけること。相談はeメールでも受け付ける。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081510) 大学入門ゼミ T(10) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ (情報通信コース) Startup Seminar on Academic Literacy	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期水2	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 :大教センター DPコード :acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 北島 博之, 丹治 裕一	関連授業科目 履修推奨科目 情報リテラシー		
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、効果的なプレゼンテーションを実施するための知識を講義形式で講義する。学内外の講師が講義を担当し、講義形態は内容に応じて、講義形式や少人数グループワークの形式とする。			
授業の目的 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、自らの考えを相手に的確に伝えるためのプレゼンテーションの手法、研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法など、大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識を学習する。さらに、実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し、学習した知識を実践的に深める。			
到達目標			
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. 課題について検討するための情報を収集し、整理することができる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って、レポートを作成することができる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 4. 課題について役割分担を決め、協同して調査、取りまとめを行うことができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 5. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 6. 学習成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法を取ることができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 毎回提出するミニレポート30%、レポート40%、プレゼンテーション20%、最終レポート(概要版)10%で評価を行う。これらの総合評価により60%以上を合格とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 前半は、創造工学部共通コンテンツ(7コース全体で授業)および全学共通コンテンツ(コース別に授業)を中心に授業を行う。なお、初回を除くコース別の授業は、情報システム・セキュリティコースと合同で行う。後半は、20名程度のCAグループに分かれて、課題探求授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う。			
【授業計画】 第1週 ガイダンスー授業の目的・計画ー(コース) 第2週 被害者や加害者にならないための心構え(全体) 第3週 キャンパスライフの心得(全体) 第4週 図書館を上手に利用する(全体) 第5週 アイスブレイキングと自己紹介、学科で学ぶこと(新入生合宿)(コース) 第6週 情報整理の方法(コース) 第7週 日本語技法その1(コース) 第8週 日本語技法その2(コース) 第9週 レポートの書き方(コース) 第10週 eメールの書き方・実践(コース) 第11週 プレゼンテーションの方法(コース) 第12週 グループワーク(グループ) 第13週 グループワーク(グループ) 第14週 プレゼンテーション実践(グループ) 第15週 まとめ(コース) ※授業の順番が入れ替わる可能性もある。その都度、学内掲示等するので注意すること。			

【自学自習に関するアドバイス】

- 第1週 講義を受けるために必要なツールやテクニックについて調べる。
- 第2～4週 講義内容に関するレポートを作成する。
- 第5～11週 講義時に出された課題に関するレポートを作成する。
- 第12～13週 課題に関する資料を作成する。
- 第14週 発表に関する自己評価を文章にまとめる。
- 第15週 今後の勉学の仕方や目標について計画を立てる。

対面授業を行うか遠隔授業を行うかは現状では決定出来ない。学期開始時まで連絡する。

教科書・参考書等

テーマごとにプリントを配布する。

オフィスアワー 北島 水曜日12:00～13:00、創造工学部1号館7階 研究室
丹治 水曜日12:00～13:00、創造工学部1号館7階 研究室

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

情報通信コースの学生は、担当CAに応じて、大学入門ゼミ T(9)かT(10)を履修すること。
毎回授業終了時に提出されたミニレポートで出席を確認する。積極的に自主的に行動するように習慣づけること。相談はeメールでも受け付ける。

ナンバリングコード BIACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081511) 大学入門ゼミ T(11) Startup Seminar on Academic Literacy Startup Seminar on Academic Literacy	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期水3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 高尾 英邦, 佐々木 大輔, 井上 恒	関連授業科目 情報リテラシー 履修推奨科目 情報リテラシー		
学習時間 講義90分×15回+自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、効果的なプレゼンテーションを実施するための知識、研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法について解説する。担当教員ばかりでなく、学内外から講師による講演・指導も行う。後半では、前半講義で学習した知識を活かしてノートを取り、レポート作成やプレゼンテーションを実施するという形の授業を、内容に応じ、講義形式や少人数グループワーク形式にて行う。			
授業の目的 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、自らの考えを相手に的確に伝えるためのプレゼンテーションの手法、研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法など、大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識を学習する。さらに、実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し、学習した知識を実践的に深める。			
到達目標			
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。 2. 課題について検討するための情報を収集し、整理することができる。 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って、レポートを作成することができる。 4. 課題について役割分担を決め、協同して調査、取りまとめを行うことができる。 5. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。 6. 学習成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法を取ることができる。 1～6の到達目標は、共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」、「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応する。			
成績評価の方法と基準 毎回提出するミニレポート20%、レポート40%、プレゼンテーション40%として総合的に評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 前半は、創造工学部共通コンテンツ（7コース全体での授業）と全学共通コンテンツ（コース別の授業）を中心に講義授業を行う。 後半は、担当教員のクラス（20名程度）ごとに分かれ、課題探究授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う。 この科目は全て対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
【授業計画】 第1週 ガイダンスー授業の目的・計画ー（コース） 第2週 被害者や加害者にならないための心構え（全体） 第3週 キャンパスライフの心得（全体） 第4週 図書館を上手に利用する（全体） 第5週 情報整理の方法（コース） 第6週 レポートの書き方（コース） 第7週 日本語技法その1（コース） 第8週 日本語技法その2（コース） 第9週 プレゼンテーションの方法（コース） 第10週 グループワーク実習（コース） 第11週 グループワーク実習（コース） 第12週 グループワーク実習（コース） 第13週 プレゼンテーション実践（コース） 第14週 プレゼンテーション実践（コース） 第15週 まとめ（学科） （※授業の順番が入れ替わる可能性もある。その都度、学内掲示で連絡をするので注意すること。）			

【自学自習に関するアドバイス】

- 第1週 講義を受けるために必要なツールやテクニックについて調べる。
第2～4週 講義内容に関するレポートを作成する。
第5～6週 各自のノートを整理する。
第7～9週 講義時に出された課題に関するレポートを作成する。
第10～14週 課題に関する資料を作成する。
第15週 発表に関する自己評価を文章にまとめる。

教科書・参考書等

特定のテキストは指定せず、テーマごとに必要に応じ資料プリントを配布する。

オフィスアワー 高尾英邦 水曜日12:00～13:00(創造工学部1号館3階1311室)

※事前にメール等でアポイントメントをとる様をお願いします。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回授業終了時に提出するミニレポートで出席を確認する。本授業は大学生活を有意義におくるための基礎事項を教えるものであるが、受け身で授業に臨むのではなく、本授業を通して積極的・自主的に行動することを習慣づけることが大切である。

毎回の授業で出欠を確認する。病気などで欠席の場合には、担当の教員に必ず連絡すること。連絡は電子メールでも構わない。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081512) 大学入門ゼミ T(12) Startup Seminar on Academic Literacy Startup Seminar on Academic Literacy	科目区分 大学入門ゼミ 水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ 授業形態 講義 グループワーク	時間割 2022年度 前期水3 提供部局:大教センター DPコード:acx 単位数 2	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 佐々木 大輔, 井上 恒, 高尾 英邦	関連授業科目 情報リテラシー 履修推奨科目 情報リテラシー		
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、効果的なプレゼンテーションを実施するための知識、研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法について解説する。担当教員ばかりでなく、学内外から講師による講演・指導も行う。後半では、前半講義で学習した知識を活かしてノートを取り、レポート作成やプレゼンテーションを実施するという形の授業を、内容に応じ、講義形式や少人数グループワーク形式にて行う。			
授業の目的 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、自らの考えを相手に的確に伝えるためのプレゼンテーションの手法、研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法など、大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識を学習する。さらに、実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し、学習した知識を実践的に深める。			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。 2. 課題について検討するための情報を収集し、整理することができる。 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って、レポートを作成することができる。 4. 課題について役割分担を決め、協同して調査、取りまとめを行うことができる。 5. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。 6. 学習成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法を取ることができる。 1~6の到達目標は、共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」、「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応する。			
成績評価の方法と基準 毎回提出するミニレポート20%、レポート40%、プレゼンテーション40%として総合的に評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 前半は、創造工学部共通コンテンツ（7コース全体での授業）と全学共通コンテンツ（コース別の授業）を中心に講義授業を行う。 後半は、担当教員のクラス（20名程度）ごとに分かれ、課題探究授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う。 この科目は全て対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
【授業計画】 第1週 ガイダンスー授業の目的・計画ー（コース） 第2週 被害者や加害者にならないための心構え（全体） 第3週 キャンパスライフの心得（全体） 第4週 図書館を上手に利用する（全体） 第5週 情報整理の方法（コース） 第6週 レポートの書き方（コース） 第7週 日本語技法その1（コース） 第8週 日本語技法その2（コース） 第9週 プレゼンテーションの方法（コース） 第10週 グループワーク実習（コース） 第11週 グループワーク実習（コース） 第12週 グループワーク実習（コース） 第13週 プレゼンテーション実践（コース） 第14週 プレゼンテーション実践（コース） 第15週 まとめ（学科） （※授業の順番が入れ替わる可能性もある。その都度、学内掲示で連絡をするので注意すること。）			
【自学自習に関するアドバイス】			

第1週 講義を受けるために必要なツールやテクニックについて調べる。
第2～4週 講義内容に関するレポートを作成する。
第5～6週 各自のノートを整理する。
第7～9週 講義時に出された課題に関するレポートを作成する。
第10～14週 課題に関する資料を作成する。
第15週 発表に関する自己評価を文章にまとめる。

教科書・参考書等

特定のテキストは指定せず、テーマごとに必要に応じ資料プリントを配布する。

オフィスアワー 水曜日12:00～13:00(創造工学部1号館4階1418室)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回授業終了時に提出するミニレポートで出席を確認する。本授業は大学生活を有意義におくるための基礎事項を教えるものであるが、受け身で授業に臨むのではなく、本授業を通して積極的・自主的に行動することを習慣づけることが大切である。

毎回の授業で出欠を確認する。病気などで欠席の場合には、担当の教員に必ず連絡すること。連絡は電子メールでも構わない。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081513) 大学入門ゼミ T(13) Startup Seminar on Academic Literacy Startup Seminar on Academic Literacy	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期水3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局:大教センター DPコード:acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 井上 恒, 佐々木 大輔, 高尾 英邦	関連授業科目 情報リテラシー		
	履修推奨科目 情報リテラシー		
学習時間 講義90分×15回+自学自習 (準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要			
講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、効果的なプレゼンテーションを実施するための知識、研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法について解説する。担当教員ばかりでなく、学内外から講師による講演・指導も行う。後半では、前半講義で学習した知識を活かしてノートを取り、レポート作成やプレゼンテーションを実施するという形の授業を、内容に応じ、講義形式や少人数グループワーク形式にて行う。			
授業の目的			
講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方、学術的文章を書くための基本的な技法、自らの考えを相手に的確に伝えるためのプレゼンテーションの手法、研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法など、大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識を学習する。さらに、実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し、学習した知識を実践的に深める。			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる。 2. 課題について検討するための情報を収集し、整理することができる。 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って、レポートを作成することができる。 4. 課題について役割分担を決め、協同して調査、取りまとめを行うことができる。 5. 効果的なプレゼンテーションを行う基本を身につけることができる。 6. 学習成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法を取ることができる。 1～6の到達目標は、共通教育スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」、「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応する。			
成績評価の方法と基準			
毎回提出するミニレポート20%、レポート40%、プレゼンテーション40%として総合的に評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】			
前半は、創造工学部共通コンテンツ（7コース全体での授業）と全学共通コンテンツ（コース別の授業）を中心に講義授業を行う。 後半は、担当教員のクラス（20名程度）ごとに分かれ、課題探究授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う。			
この科目は全て対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
【授業計画】			
第1週	ガイダンスー授業の目的・計画ー（コース）		
第2週	被害者や加害者にならないための心構え（全体）		
第3週	キャンパスライフの心得（全体）		
第4週	図書館を上手に利用する（全体）		
第5週	情報整理の方法（コース）		
第6週	レポートの書き方（コース）		
第7週	日本語技法その1（コース）		
第8週	日本語技法その2（コース）		
第9週	プレゼンテーションの方法（コース）		
第10週	グループワーク実習（コース）		
第11週	グループワーク実習（コース）		
第12週	グループワーク実習（コース）		
第13週	プレゼンテーション実践（コース）		
第14週	プレゼンテーション実践（コース）		
第15週	まとめ（学科）		
（※授業の順番が入れ替わる可能性もある。その都度、学内掲示で連絡をするので注意すること。）			

【自学自習に関するアドバイス】

- 第1週 講義を受けるために必要なツールやテクニックについて調べる。
- 第2～4週 講義内容に関するレポートを作成する。
- 第5～6週 各自のノートを整理する。
- 第7～9週 講義時に出された課題に関するレポートを作成する。
- 第10～14週 課題に関する資料を作成する。
- 第15週 発表に関する自己評価を文章にまとめる。

教科書・参考書等

特定のテキストは指定せず、テーマごとに必要に応じ資料プリントを配布する。

オフィスアワー 水曜日12:00～13:00(創造工学部1号館4階1406室)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回授業終了時に提出するミニレポートで出席を確認する。本授業は大学生活を有意義におくるための基礎事項を教えるものであるが、受け身で授業に臨むのではなく、本授業を通して積極的・自主的に行動することを習慣づけることが大切である。

毎回の授業で出欠を確認する。病気などで欠席の場合には、担当の教員に必ず連絡すること。連絡は電子メールでも構わない。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード: 081514) 大学入門ゼミ T(14) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期水3	対象年次 1～
	水準 学士: 入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局: 大教センター DPコード: acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 小柴 俊, 須崎 嘉文, 舟橋 正浩	関連授業科目 情報リテラシー 履修推奨科目 情報リテラシー		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要 講義内容を効率的に理解するためのノートの取り方, 学術的文章を書くための基本的な技法, 効果的なプレゼンテーションを実施するための知識, 研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法について解説する. 担当教員ばかりでなく, 学内外から講師による講演・指導も行う. 後半では前半講義で学習した知識を活かしてノートを取り, レポート作成やプレゼンテーションを実施するという形の授業を, 内容に応じ, 講義形式や少人数グループワーク形式にて行う.			
授業の目的 講義内容を効率的に理解するためのノートのとり方, 学術的文章を書くための基本的な技法, 自らの考えを相手に的確に伝えるためのプレゼンテーションの手法, 研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法など, 大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識を学習する. さらに, 実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し, 学習した知識を実践的に深める.			
到達目標			
1. 講義内容を効率的に理解するためのノートのとり方ができる (共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 2. 課題について検討するための情報を収集し, 整理することができる (共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って, レポートを作成することができる (共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 4. 課題について役割分担を決め, 協同して調査し, 結果を取りまとめることができる (共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 5. 効果的なプレゼンテーションのキホンを身につけ, それを実行することができる (共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 6. 学習成果を発表する際に, 研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる (共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 			
成績評価の方法と基準 毎回提出するミニレポートの評点とレポートの評点総計を60点に, プレゼンテーションの内容の評点総計を40点に換算し, それらの合計点から100点を満点として成績を評価する.			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
毎回提出するミニレポートの評点とレポートの評点総計を60点に, プレゼンテーションの内容の評点総計を40点に換算し, それらの合計点から100点を満点として成績を評価する.			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業の方法】 前半は, 創造工学部共通コンテンツ(コース全体での授業)と全学共通コンテンツ(コース別の授業)を中心に講義授業を行う. 後半は, 担当教員のクラス(20名程度)ごとに分かれ, 課題探求授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う.			
【授業形態】 本講義は全回対面で実施します. なお状況によっては, 一部の講義を遠隔へ変更する可能性があります. その場合は学内掲示もしくはメール(DreamCampusなど)で連絡をするので, こまめに確認すること.			
【授業計画】 第1週 ガイダンス—授業の目的・計画—(コース毎) 第2週 被害者や加害者にならないための心構え(全コース全体) 第3週 キャンパスライフの心得(全コース全体) 第4週 図書館を上手に利用する(全コース全体) 第5週 情報整理の方法(コース毎) 第6週 レポートの書き方(研究倫理に関する規範についての学習を含む)(コース毎) 第7週 日本語技法その1(コース毎) 第8週 日本語技法その2(コース毎) 第9週 プレゼンテーションの方法(コース毎)			

- 第10週 グループワーク実習(グループ)
第11週 グループワーク実習(グループ)
第12週 グループワーク実習(グループ)
第13週 プレゼンテーション実践(グループ)
第14週 プレゼンテーション実践(グループ)
第15週 まとめ(コース毎)

*授業の順番が入れ替わる可能性もある。その都度、学内掲示もしくはメール（DreamCampusなど）で連絡をするので、確認を怠らないこと。

【自主学習に関するアドバイス】

- 第1週 講義を受けるために必要なツールやテクニックについて調べる（5時間）
第2~4週 講義の内容に関するレポートを作成する（15時間）
第5~6週 各自のノートを整理する（10時間）
第7~9週 講義に出された課題に関するレポートを作成する（10時間）
第10~14週 課題に関する資料を作成する（15時間）
第15週 発表に関する自己評価を文章にまとめる（5時間）

教科書・参考書等

特定のテキストは指定せず、テーマごとに必要に応じ資料プリントを配布する。

オフィスアワー 小柴:水曜 18時~19時(研究室の場所:2号館8階教授室)
須崎:水曜 18時~19時(研究室の場所:2号館5階教授室)
舟橋:水曜 18時~19時(研究室の場所:2号館5階教授室)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回授業終了後に提出するミニレポートで出席を確認する。本授業は大学生活を有意義に送るための基礎事項を教えるものであるが、受け身で授業に臨むのではなく、本授業を通し、積極的・自主的に行動することを習慣づけることが大切である。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081515) 大学入門ゼミ T(15) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期水3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局: 大教センター DPコード: acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 須崎 嘉文, 小柴 俊, 舟橋 正浩	関連授業科目 情報リテラシー 履修推奨科目 情報リテラシー		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要 講義内容を効率的に理解するためのノートの取り方, 学術的文章を書くための基本的な技法, 効果的なプレゼンテーションを実施するための知識, 研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法について解説する. 担当教員ばかりでなく, 学内外から講師による講演・指導も行う. 後半では前半講義で学習した知識を活かしてノートを取り, レポート作成やプレゼンテーションを実施するという形の授業を, 内容に応じ, 講義形式や少人数グループワーク形式にて行う.			
授業の目的 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方, 学術的文章を書くための基本的な技法, 自らの考えを相手に的確に伝えるためのプレゼンテーションの手法, 研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法など, 大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識を学習する. さらに, 実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し, 学習した知識を実践的に深める.			
到達目標			
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる (共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 2. 課題について検討するための情報を収集し, 整理することができる (共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って, レポートを作成することができる (共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 4. 課題について役割分担を決め, 協同して調査し, 結果を取りまとめることができる (共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 5. 効果的なプレゼンテーションのキホンを身につけ, それを実行することができる (共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 6. 学習成果を発表する際に, 研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる (共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 			
成績評価の方法と基準 毎回提出するミニレポートの評点とレポートの評点総計を60点に, プレゼンテーションの内容の評点総計を40点に換算し, それらの合計点から100点を満点として成績を評価する.			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
毎回提出するミニレポートの評点とレポートの評点総計を60点に, プレゼンテーションの内容の評点総計を40点に換算し, それらの合計点から100点を満点として成績を評価する.			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス 【授業の方法】 前半は, 創造工学部共通コンテンツ(コース全体での授業)と全学共通コンテンツ(コース別の授業)を中心に講義授業を行う. 後半は, 担当教員のクラス(20名程度)ごとに分かれ, 課題探求授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う.			
【授業形態】 本講義は全回対面で実施します. なお状況によっては, 一部の講義を遠隔へ変更する可能性があります. その場合は学内掲示もしくはメール(DreamCampusなど)で連絡をするので, こまめに確認すること.			
【授業計画】 第1週 ガイダンス—授業の目的・計画—(コース毎) 第2週 被害者や加害者にならないための心構え(全コース全体) 第3週 キャンパスライフの心得(全コース全体) 第4週 図書館を上手に利用する(全コース全体) 第5週 情報整理の方法(コース毎) 第6週 レポートの書き方(研究倫理に関する規範についての学習を含む)(コース毎) 第7週 日本語技法その1(コース毎) 第8週 日本語技法その2(コース毎) 第9週 プレゼンテーションの方法(コース毎)			

第10週 グループワーク実習(グループ)
第11週 グループワーク実習(グループ)
第12週 グループワーク実習(グループ)
第13週 プレゼンテーション実践(グループ)
第14週 プレゼンテーション実践(グループ)
第15週 まとめ(コース毎)

*授業の順番が入れ替わる可能性もある。その都度、学内掲示もしくはメール（DreamCampusなど）で連絡をするので、確認を怠らないこと。

【自主学習に関するアドバイス】

第1週 講義を受けるために必要なツールやテクニックについて調べる（5時間）
第2~4週 講義の内容に関するレポートを作成する（15時間）
第5~6週 各自のノートを整理する（10時間）
第7~9週 講義に出された課題に関するレポートを作成する（10時間）
第10~14週 課題に関する資料を作成する（15時間）
第15週 発表に関する自己評価を文章にまとめる（5時間）

教科書・参考書等

特定のテキストは指定せず、テーマごとに必要に応じ資料プリントを配布する。

オフィスアワー 小柴:水曜 18時~19時(研究室の場所:2号館8階教授室)
須崎:水曜 18時~19時(研究室の場所:2号館5階教授室)
舟橋:水曜 18時~19時(研究室の場所:2号館5階教授室)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回授業終了後に提出するミニレポートで出席を確認する。本授業は大学生活を有意義に送るための基礎事項を教えるものであるが、受け身で授業に臨むのではなく、本授業を通し、積極的・自主的に行動することを習慣づけることが大切である。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081516) 大学入門ゼミ T(16) Startup Seminar on Academic Literacy 大学入門ゼミ	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期水3	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局:大教センター DPコード:acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 舟橋 正浩, 須崎 嘉文, 小柴 俊	関連授業科目 情報リテラシー		
	履修推奨科目 情報リテラシー		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習30時間 + 事後学習30時間)			
授業の概要			
講義内容を効率的に理解するためのノートの取り方, 学術的文章を書くための基本的な技法, 効果的なプレゼンテーションを実施するための知識, 研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法について解説する. 担当教員ばかりでなく, 学内外から講師による講演・指導も行う. 後半では前半講義で学習した知識を活かしてノートを取り, レポート作成やプレゼンテーションを実施するという形の授業を, 内容に応じ, 講義形式や少人数グループワーク形式にて行う.			
授業の目的			
講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方, 学術的文章を書くための基本的な技法, 自らの考えを相手に的確に伝えるためのプレゼンテーションの手法, 研究倫理に関する規範に則った成果公表の方法など, 大学高学年次に受講する専門科目での学習を円滑に進めるための基礎知識を学習する. さらに, 実際にレポート作成やプレゼンテーションなどを実施し, 学習した知識を実践的に深める.			
到達目標			
1. 講義内容を効果的に理解するためのノートのとり方ができる (共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 2. 課題について検討するための情報を収集し, 整理することができる (共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 学術的文章を書くための基本的な技法を使って, レポートを作成することができる (共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 4. 課題について役割分担を決め, 協同して調査し, 結果を取りまとめることができる (共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 5. 効果的なプレゼンテーションのキホンを身につけ, それを実行することができる (共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 6. 学習成果を発表する際に, 研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる (共通スタンダード「課題解決のための汎用的スキル」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準			
毎回提出するミニレポートの評点とレポートの評点総計を60点に, プレゼンテーションの内容の評点総計を40点に換算し, それらの合計点から100点を満点として成績を評価する.			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
毎回提出するミニレポートの評点とレポートの評点総計を60点に, プレゼンテーションの内容の評点総計を40点に換算し, それらの合計点から100点を満点として成績を評価する.			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】			
前半は, 創造工学部共通コンテンツ(コース全体での授業)と全学共通コンテンツ(コース別の授業)を中心に講義授業を行う. 後半は, 担当教員のクラス(20名程度)ごとに分かれ, 課題探求授業としてプレゼンテーションとレポート作成の練習を行う.			
【授業形態】			
本講義は全回対面で実施します. なお状況によっては, 一部の講義を遠隔へ変更する可能性があります. その場合は学内掲示もしくはメール(DreamCampusなど)で連絡をするので, こまめに確認すること.			
【授業計画】			
第1週 ガイダンス—授業の目的・計画—(コース毎)			
第2週 被害者や加害者にならないための心構え(全コース全体)			
第3週 キャンパスライフの心得(全コース全体)			
第4週 図書館を上手に利用する(全コース全体)			
第5週 情報整理の方法(コース毎)			
第6週 レポートの書き方(研究倫理に関する規範についての学習を含む)(コース毎)			
第7週 日本語技法その1(コース毎)			
第8週 日本語技法その2(コース毎)			
第9週 プレゼンテーションの方法(コース毎)			

- 第10週 グループワーク実習(グループ)
第11週 グループワーク実習(グループ)
第12週 グループワーク実習(グループ)
第13週 プレゼンテーション実践(グループ)
第14週 プレゼンテーション実践(グループ)
第15週 まとめ(コース毎)

*授業の順番が入れ替わる可能性もある. その都度, 学内掲示もしくはメール (DreamCampusなど) で連絡をするので, 確認を怠らないこと.

【自主学習に関するアドバイス】

- 第1週 講義を受けるために必要なツールやテクニックについて調べる (5時間)
第2~4週 講義の内容に関するレポートを作成する (15時間)
第5~6週 各自のノートを整理する (10時間)
第7~9週 講義に出された課題に関するレポートを作成する (10時間)
第10~14週 課題に関する資料を作成する (15時間)
第15週 発表に関する自己評価を文章にまとめる (5時間)

教科書・参考書等

特定のテキストは指定せず, テーマごとに必要に応じ資料プリントを配布する.

オフィスアワー 小柴:水曜 18時~19時(研究室の場所:2号館8階教授室)
須崎:水曜 18時~19時(研究室の場所:2号館5階教授室)
舟橋:水曜 18時~19時(研究室の場所:2号館5階教授室)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

毎回授業終了後に提出するミニレポートで出席を確認する. 本授業は大学生活を有意義に送るための基礎事項を教えるものであるが, 受け身で授業に臨むのではなく, 本授業を通し, 積極的・自主的に行動することを習慣づけることが大切である.

ナンバリングコード BIACL-acxG-10-Eg2 授業科目名 (時間割コード:081601) 大学入門ゼミ A(1) Startup Seminar on Academic Literacy 微生物を知る Understanding Microorganisms	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期水4	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 演習 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 木村 義雄	関連授業科目 生物学B、基礎生物化学、微生物学、応用微生物学 I、II		
	履修推奨科目 生物学B、微生物学		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 微生物は目で見るができないため、我々は認識しづらいが、人間の体内や皮膚に非常に多く存在しており、疾病や免疫などに重要な関わりを持つことが報告されている。一方、微生物は食品や医療品など様々な有用物質を生産する発酵工業に利用され、生活に利益をもたらしている。また、自然界では物質循環や環境浄化において重要な役割を果たしている。 前半で「ノートの取り方や情報整理」、「レポートの書き方」、「日本語技法」、「プレゼンテーション技法」などを学習し、後半では、前半に修得したスキルを使って、実際に各受講生が興味を持った微生物に関する事柄を自ら調べて発表を行うことで、微生物に対する理解を深めるとともに、プレゼンテーション能力を高める。			
授業の目的 前半では、「ノートの取り方」、「レポートの書き方」、「日本語技法」および「プレゼンテーションの方法」などを学修することで大学の講義、実験実習、研究室でのセミナーにおいて必要となる基礎的な手法を習得する。後半では微生物に関する事柄を各自で調べ、パワーポイント及び発表原稿を作成することで、課題探求能力を身に付けること、さらに質疑に積極的に参加することにより、能動的に講義に参加する姿勢を身につけることを目的とする。			
到達目標			
(1) 与えられた課題について自ら様々な方法で情報を収集し、それらを整理し、まとめることができる。(課題解決のための汎用的スキル) (2) 得られた知識を他の人にわかりやすくプレゼンテーションすることができる。(21世紀社会の諸課題に対する探求能力) (3) 学習成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる。 (4) 微生物について、その多様性、性質、役割、利用などに関して情報を有し、それらを適切に説明できる。			
成績評価の方法と基準 おおよその目安として、発表内容(40%)、討論への参加状況(20%)、レポート(40%)とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業および学習のアドバイス】 初回に、本ゼミで取り上げる課題について、学生の希望を聞き、教員からの提案も加えて課題案をリストアップする。2回目に、各受講生が取り組む課題とそれぞれの担当者(グループ)を決定する。また、発表の準備の仕方やプレゼンテーション法などについて説明する。全学共通コンテンツとして数回講義するが、その間に各自で担当する課題について自身で学習し、プレゼンテーションの準備をする。受講する学生全員に発表してもらうので、履修者の数により以下の授業計画は多少変更する可能性もある。			
【授業計画】 第1回 大学入門ゼミの説明、課題の説明、取り組み方・発表・アンケートについて 第2回 課題の決定、グループ分けに関するトピックス 第3回 全学共通コンテンツ-1. 情報整理の方法 第4回 全学共通コンテンツ-2. レポートの書き方 第5回 全学共通コンテンツ-3. 日本語技法① 農学部図書館訪問 第6回 全学共通コンテンツ-4. 日本語技法② 第7回 全学共通コンテンツ-5. プレゼンテーションの方法 第8回 発表の準備と質問対策 第9回 受講者による発表と討論-1. 第1グループ 第10回 受講者による発表と討論-2. 第2グループ 第11回 受講者による発表と討論-3. 第3グループ 第12回 受講者による発表と討論-4. 第4グループ 第13回 まとめ 第14回 新入生合宿の振替(休講) 第15回 新入生合宿の振替(休講)			
【自学自習のためのアドバイス】 第1回、2回 農学部で学ぶにあたって身につけるべきことの準備をする。(10時間)			

第3回～7回 大学で身につけるべきことを学習するための準備及び課題に取り組む。(20時間)
第2回～13回 自身又はグループの課題を見つけ出し、課題を解決するための学習を行う。また、グループで
討論を行い、最終発表の準備及び事後学習を行う。(30時間)

【授業形態】

農学部における大学入門ゼミは、演習に位置づけられている為、基本的に対面授業で行います。なお、コ
ロナウィルス等の感染症拡大抑制への対応が求められる状況によっては、授業形態の一部を遠隔授業へ変更す
る可能性もあります。遠隔講義が実施される際には、当該科目のMoodleやドリームキャンパスを介した情報
配信に注意してください。

教科書・参考書等

教科書は使用せず、必要に応じてプリント類を配布する。
参考書は適宜指示する。

オフィスアワー 水曜日10時から17時(会議などで不在になることがあるので、事前にメールにて連絡す
ること)

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

責任を持って自分の課題に取り組むと同時に、他の人の発表についても積極的に討論に参加すること。

教員の実務経験との関連

製薬企業で勤務後、農学部で長年、微生物、特に細菌に関連する研究・教育に携わってきた実務経験をもと
に、講義を行います。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081602) 大学入門ゼミ A(2) Startup Seminar on Academic Literacy 海洋生態系の科学	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期水4	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局:大教センター DPコード:acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 山口 一岩	関連授業科目	水産環境学, 海洋科学, 沿岸生産環境学	
	履修推奨科目	水産環境学, 海洋科学, 沿岸生産環境学	
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要			
<p>本授業は、2つの内容に大別できる。前半の授業では主に、「情報整理の方法」、「レポートの書き方」、「日本語技法」、「プレゼンテーションの方法」等について学ぶ(全学共通コンテンツに基づく学習)。後半を主とする授業では、「海洋環境と生物」という主題に関する導入講義を受けた後、自分自身で探究する課題を設定する。そのうえで、前半授業での学びを踏まえつつ、課題に関する情報を収集・整理し、取りまとめた結果を他の受講生に向けて発表する。前半、後半授業共に、少人数での共同学習を取り入れる。</p>			
授業の目的			
<p>大学では、受動的学習に加えて、自ら課題および解決策を発見することが求められるような学習(能動的学習)が展開される。本授業の目的は、参加型・能動的学習に慣れること、能動的学習の前提となる技能を育成すること、またその態度を養うことである。</p>			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1 課題について、情報を収集、整理し、取りまとめることができる。(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2 発表に際して、他者に正確かつ判りやすく内容を説明することができる。 3 発表に際して、研究倫理に関する規範に則った行動をとることができる。 4 生物と環境の相互作用の下に、生態系が成立していることを認識できる。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) 			
成績評価の方法と基準			
<p>授業時のレポート提出、学習目標到達度、討論への参加、発表の状況を総合的に評価する。評点60点以上で合格とする。</p>			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業計画】			
<p>今後の状況によるが、授業は原則として全て対面形式で行う。</p> <p>第1回 教員紹介, 班分け, 自己紹介, 大学入門ゼミ説明, シラバスの確認 第2回 「海洋環境と生物」の導入講義, 課題の設定, 取り組み方・発表法・事例紹介 第3回 全学共通コンテンツ:日本語技法①手順説明文, 推敲の技法。農学部図書分館訪問 第4回 全学共通コンテンツ:日本語技法②比較・対照, 箇条書き, 要約の技法 第5回 全学共通コンテンツ:情報整理の方法(ノートの取り方) 第6回 全学共通コンテンツ:レポートの書き方, 文献検索, 文献の引用, 研究倫理 第7回 全学共通コンテンツ:レポートの書き方補足(実験), プレゼンテーションの方法 第8回 全学共通コンテンツ:プレゼンテーションの方法 第9回 アドバイザーミーティング, 個人作業による口頭発表資料の仕上げ (第10回目迄に各自の設定課題について自学自習し, 口頭発表の準備を終えること) 第10回 グループ内発表, 質疑応答対策, 意見交換を踏まえた発表資料の修正と更新 第11回 全体発表(5名前後), 質疑応答, 討論 第12回 全体発表(5名前後), 質疑応答, 討論 第13回 全体発表(5名前後), 質疑応答, 討論 (上記の計画とは別に, 新入生研修に相当する2回分の授業が実施される) *第2～13回目の授業には, ノートパソコンを持参すること。 授業は, 原則として全て対面で行う。ただし, 状況次第で授業の一部を遠隔に変更することがある。連絡(MoodleやDream Campus経由)や, 掲示等に注意すること。</p>			
【授業および学習の方法】			
<p>第2回授業で「海洋環境と生物」に関する導入講義を行う。この際、いくつかの課題を具体的に提案するので、この提案を参考にしつつ、自分自身で探究する課題を設定する。その後、課題に取り組むうえで必要な基礎知識を含む全学共通コンテンツを主とする授業を実施している間に、各自の課題についての発表準備を進める。発表は、全ての受講生が行う。発表には、Microsoft社のPowerPointを用いる予定である。</p>			
【準備および事後学習のためのアドバイス】			
<p>第2～10回:各回当たり6時間程度を充てる。毎回の授業内容について復習する(3時間)。自身で設定した課題に関する自学自習を行い、全体発表に備える(3時間)。</p>			

第11～13回：各回当り2時間程度を充てる。他の受講生の発表について、情報整理する（1時間）。全体発表にむけて、発表練習を行う（1時間）。

教科書・参考書等

教科書は、特に指定しない（必要に応じて、プリント類を配付する）。

オフィスアワー 水曜日の授業終了後から18時頃まで（農学部BW406室）。これ以外の場合は、予めメール等で訪問の意思を連絡すること（日時調整を行った後に対応する）。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

班員等と協同で学習を進める際には、意見交換や議論への積極的な参加を心掛けること。自学自習に際しては、図書館の利用をすすめる。

<p>ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081603)</p> <p>大学入門ゼミ A(3) Startup Seminar on Academic Literacy</p> <p>天然物リテラシー (B班) Natural Products Literacy (Group B)</p>	<p>科目区分 大学入門ゼミ</p> <p>水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ</p> <p>授業形態 講義 グループワーク</p>	<p>時間割 2022年度 前期水4</p> <p>提供部局: 大教センター DPコード: acx</p> <p>単位数 2</p>	<p>対象年次 1~</p> <p>対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし</p>
<p>担当教員名 松本 由樹, 花木 祐輔</p>	<p>関連授業科目 畜産学、動物栄養学、応用生物学領域の倫理、遺伝学、分子生物学、生物生産科学実験I、生物生産科学実験II、生物生産科学コース科目群</p> <p>履修推奨科目 畜産学、動物栄養学、応用生物学領域の倫理、遺伝学、分子生物学</p>		
<p>学習時間 講義90分×15回+自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)</p>			
<p>授業の概要</p> <p>前半は、全学共通コンテンツとして「ノートの取り方」、「情報整理法」、「レポートの書き方」、「日本語技法」、「プレゼンテーションの方法」などを解説する。後半は、有機化学と生命科学の関わりや天然有機化合物の利用について理解することを目的として、文献調査やプレゼンテーションを実施する。生物は多種多様な二次代謝産物(天然物)を生産している。生産者は天然物が引き起こす生命現象を巧みに利用することで、天敵から身を守ったり、仲間とのコミュニケーションを成立させたりすると考えられている。また、人間はこうした天然物を応用して医薬品を開発し、生活を豊かにしてきた。従って、化学的視点から生命現象を捉えることは農学領域における重要テーマの一つとなっている。さらに近年、「天然由来成分」を売り文句にした健康食品、サプリメントなどが市場に溢れており、それらを選択する消費者には高度な天然物リテラシーが求められるようになった。本ゼミでは、天然物の応用について講義を行った後、興味を持った内容についてグループごとに調査、発表、討論を行い、化学と生物の境界領域についての理解を深める。</p>			
<p>授業の目的</p> <p>大学では受動的に講義を聴くだけでなく、学生自身が興味・関心に基づいて能動的に学習し、研究を進めていく姿勢が求められる。本ゼミの前半では大学での研究活動に対応すべく、情報収集法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーション法を身につける。後半では複数のグループに分かれ、身近な天然物の利用例やその問題点について各自が調べて発表することで、前半で身につけた学習法を実践する。</p>			
<p style="text-align: center;">到達目標</p>			
<p>(1) 自分で取り組む課題を考え、その関連資料を探索し分析・理解することができる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。</p> <p>(2) 研究倫理に配慮し、集めた資料を参加者に理解できるようにまとめることができる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。</p> <p>(3) まとめた内容、主張を参加者に理解できるようにプレゼンテーションすることができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。</p> <p>(4) 発表に対する質疑応答を通じて意見交換、論理的思考、表現力に関する能力を身に付けることができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。</p>			
<p>成績評価の方法と基準</p>			
<p>出席状況、発表内容・授業態度、討論での積極的な発言を総合して評価し、60%以上で合格とする。</p>			
<p style="text-align: center;">授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</p>			
<p>【授業の方法】</p> <p>受講者は、興味のある天然物やそれに関連した生命現象を選び、それについての資料を収集してまとめる。まとめた情報は他の受講者にも理解できるように整理する。また、本講義内においてプレゼンテーションを行い、発表内容について討論する。発表にはMicrosoft社のプレゼンテーション作製ソフトPowerPointを用いる。</p> <p>なお、進捗状況によって計画を変更することがある。アドバイザーミーティングには必ず出席すること。</p>			
<p>【授業計画】</p> <p>第1回 本ゼミに関するガイダンス、グループ分け、課題に関する講義など</p> <p>第2回 学部共通コンテンツ-農学部分館訪問</p> <p>第3回 課題の説明、取り組み方・発表方法についての説明</p> <p>第4回 全学共通コンテンツ-1 コンプライアンスと研究倫理</p> <p>第5回 全学共通コンテンツ-2 ノートの取り方、メールの書き方</p> <p>第6回 全学共通コンテンツ-3 レポートの書き方、文献の調べ方</p> <p>第7回 全学共通コンテンツ-4 文章の作成と要約の方法</p> <p>第8回 全学共通コンテンツ-5 プレゼンテーションの方法</p> <p>第9回 アドバイザーミーティング①</p> <p>(第3回から第8回までの間に、各自の課題に関して自学自習し、発表の準備をする。教員の都合により各回の内容は前後することがある。)</p> <p>第10回 発表準備</p>			

- 第11回 発表準備2
- 第12回 グループによる発表-1回目
- 第13回 グループによる発表-2回目
- 第14回 アドバイザーミーティング②
- 第15回 受講者による発表と討論、まとめ

【自学学習に関するアドバイス】

主に配布するテキストを毎回予習復習し、日常生活や他の講義で実践してみる。この間に各課題や各グループのテーマに関して自学自習し、発表の準備をする。

【授業形態】

農学部における大学入門ゼミは、演習に位置づけられている為、基本的に対面授業で行います。なお、コロナウイルス等の感染症拡大抑制への対応が求められる状況によっては、授業形態の一部を遠隔授業へ変更する可能性もあります。遠隔講義が実施される際には、当該科目のMoodleやドリームキャンパスを介した情報配信に注意してください。

教科書・参考書等

必要に応じて授業中に適宜指示をする。

オフィスアワー 質問や相談は随時受付ける（農学部CW201-b）が、水曜5限（毎回の講義の終了後）が良い。

それ以外は事前にメール等でコンタクトのあることが望ましい。

E-mail: matsumoto.yoshiki@kagawa-u.ac.jp

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

自分の発表だけでなく、他の受講生の発表に対する討論にも積極的に取り組むこと。また、積極的に図書館を利用すること。

教員の実務経験との関連

近年、「培養肉」「代替肉」「昆虫食・昆虫飼料化」は、フードテックとして新しい産業をもたらす可能性が高まっている。特に、動物性たんぱく質の利用という観点からみると、「天然物リテラシー」の理解増進が必要な時代になった。そこで、昆虫ビジネス研究開発プラットフォーム幹事として次世代の食料生産に資する「昆虫生産のガイドライン作成」に寄与し、本国の新しい昆虫生産ガイドライン立ち上げに積極的に関わっている。本講義では、担当教員のこれまでの経験を活かし、授業の中では、「採取した農水産物（昆虫・動物・水産物）」「養殖した農水産物（昆虫・動物・水産物）」の安全性について議論する予定である。その中で、共通コンテンツの重要性として「事実」と「意見」をどのように配信すればよいかを学修し、よりよい大学生活の一助になればと考えている。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081604) 大学入門ゼミ A(4) Startup Seminar on Academic Literacy 天然物リテラシー (A班) Natural Products Literacy (Group A)	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期水4	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 花木 祐輔, 松本 由樹	関連授業科目 天然物化学、生物資源機能化学コース科目群 履修推奨科目 天然物化学、生物資源機能化学コース科目群		
学習時間 講義90分×15回+自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 前半は、全学共通コンテンツとして「ノートの取り方」、「情報整理法」、「レポートの書き方」、「日本語技法」、「プレゼンテーションの方法」などを解説する。後半は、有機化学と生命科学の関わりや天然有機化合物の利用について理解することを目的として、文献調査やプレゼンテーションを実施する。生物は多種多様な二次代謝産物(天然物)を生産している。生産者は天然物が引き起こす生命現象を巧みに利用することで、天敵から身を守ったり、仲間とのコミュニケーションを成立させたりすると考えられている。また、人間はこうした天然物を応用して医薬品を開発し、生活を豊かにしてきた。従って、化学的視点から生命現象を捉えることは農学領域における重要テーマの一つとなっている。さらに近年、「天然由来成分」を売り文句にした健康食品、サプリメントなどが市場に溢れており、それらを選択する消費者には高度な天然物リテラシーが求められるようになった。本ゼミでは、天然物の応用について講義を行った後、興味を持った内容についてグループごとに調査、発表、討論を行い、化学と生物の境界領域についての理解を深める。			
授業の目的 大学では受動的に講義を聴くだけでなく、学生自身が興味・関心に基づいて能動的に学習し、研究を進めていく姿勢が求められる。本ゼミの前半では大学での研究活動に対応すべく、情報収集法、レポートの書き方、日本語技法、プレゼンテーション法を身につける。後半では複数のグループに分かれ、身近な天然物の利用例やその問題点について各自が調べて発表することで、前半で身につけた学習法を実践する。			
到達目標			
(1) 自分で取り組む課題を考え、その関連資料を探索し分析・理解することができる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 (2) 研究倫理に配慮し、集めた資料を参加者に理解できるようにまとめることができる(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 (3) まとめた内容、主張を参加者に理解できるようにプレゼンテーションすることができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 (4) 発表に対する質疑応答を通じて意見交換、論理的思考、表現力に関する能力を身に付けることができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。			
成績評価の方法と基準 出席状況、発表内容・授業態度、討論での積極的な発言を総合して評価し、60%以上で合格とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 受講者は、興味のある天然物やそれに関連した生命現象を選び、それについての資料を収集してまとめる。まとめた情報は他の受講者にも理解できるように整理する。また、本講義内においてプレゼンテーションを行い、発表内容について討論する。発表にはMicrosoft社のプレゼンテーション作製ソフトPowerPointを用いる。 なお、進捗状況によって計画を変更することがある。アドバイザーミーティングには必ず出席すること。			
【授業計画】 第1回 本ゼミに関するガイダンス、グループ分け、課題に関する講義など 第2回 学部共通コンテンツ-農学部分館訪問 第3回 課題の説明、取り組み方・発表方法についての説明 第4回 全学共通コンテンツ-1 コンプライアンスと研究倫理 第5回 全学共通コンテンツ-2 ノートの取り方、メールの書き方 第6回 全学共通コンテンツ-3 レポートの書き方、文献の調べ方 第7回 全学共通コンテンツ-4 文章の作成と要約の方法 第8回 全学共通コンテンツ-5 プレゼンテーションの方法 第9回 アドバイザーミーティング① (第3回から第8回までの間に、各自の課題に関して自学自習し、発表の準備をする。教員の都合により各回の内容は前後することがある。) 第10回 発表準備 第11回 発表準備2 第12回 グループによる発表-1回目 第13回 グループによる発表-2回目			

第14回 アドバイザーミーティング②
第15回 受講者による発表と討論、まとめ

【自学学習に関するアドバイス】

主に配布するテキストを毎回予習復習し、日常生活や他の講義で実践してみる。この間に各課題や各グループのテーマに関して自学自習し、発表の準備をする。

【授業形態】

農学部における大学入門ゼミは、演習に位置づけられている為、基本的に対面授業で行います。なお、コロナウイルス等の感染症拡大抑制への対応が求められる状況によっては、授業形態の一部を遠隔授業へ変更する可能性もあります。遠隔講義が実施される際には、当該科目のMoodleやドリームキャンパスを介した情報配信に注意してください。

教科書・参考書等

必要に応じて授業中に適宜指示をする。

オフィスアワー 質問や相談は随時受付ける（農学部BE-302-1）が、水曜5限（毎回の講義の終了後）が良い。

それ以外は事前にメール等でコンタクトのあることが望ましい。

E-mail: hanaki.yusuke@kagawa-u.ac.jp

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

自分の発表だけでなく、他の受講生の発表に対する討論にも積極的に取り組むこと。また、積極的に図書館を利用すること。

教員の実務経験との関連

これまでに、抗がん剤候補となる有機化合物の合成や作用メカニズム解析などに取り組んできました。研究室のHPなどを参照のこと (<https://www.ag.kagawa-u.ac.jp/hanaki/>)。

ナンバリングコード B1ACL-acbG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081605) 大学入門ゼミ A(5) Startup Seminar on Academic Literacy 地球温暖化が農業・環境に及ぼす影響 (A班) The influences of global warming on agriculture and environment	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期水4	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局:大教センター DPコード:acb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 安井 行雄, 武藤 幸雄	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備・事後学習30時間)			
授業の概要			
本講義は、情報を正確に読み取り表現するための基本的技法について解説し、学生諸君がそれらの技法を習得して使いこなせるようになることを目指す。本講義ではさらに、受講生がそれらの基本的技法を応用しながら地球温暖化が農業や環境に与える影響について科学的理解を深め、それらについて自分の意見を的確に表現できるようにすることも目指す。			
授業の目的			
本講義の前半では、全学共通コンテンツとして「情報整理の方法」「レポートの書き方」「日本語技法」「プレゼンテーション技法」などを学習する。これらは、情報を正確に読み取り、自分の意見を的確に表現するために必要な基本的技法であり、香川大学での学びを支える上でぜひ習得すべきものとして位置づけられる。受講生がこれらを確実に習得できるようになるため、本講義ではこれらの基本的技法について詳しく解説する。 本講義の後半では、地球温暖化が農業に与える影響について取り扱う。地球温暖化は化石燃料由来の二酸化炭素など温室効果ガスの増加により引き起こされる。大気が大きな熱エネルギーを保持することで不安定となり、近年では、毎年のように豪雨災害や熱中症被害が生じている。50年以上前から二酸化炭素が温暖化をもたらすと警告していた真鍋淑郎博士に対して2021年のノーベル物理学賞が与えられたことは記憶に新しいが、温暖化問題は農学や環境科学とも深くかかわっている。例えば、温暖化は砂漠化を引き起こし農地面積を減少させ農作物の栽培適地を移動させる。また、農業害虫や衛生害虫の高緯度地域への分布拡大による農業や健康への被害、外来生物の生態系への侵入も懸念されている。こうした多様な問題への対応に関心を持つ人材の養成が今日求められており、本講義はその理解へのイントロダクションの場を提供しようとする。			
到達目標			
1. 情報を正確に読み取り、自分の意見を的確に表現するために求められる基礎的手法を習得する。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. 学習成果を発表する際に研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる。 3. 地球温暖化と農業生産および環境問題との関係について科学的知見を有し合理的な意見を表明できる。 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準			
授業への出席状況、プレゼンへの取り組み状況、レポート提出状況を総合的に評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 本ゼミナールに関するガイダンス 第2回 学部共通コンテンツ-1 第3回 学部共通コンテンツ-2 第4回 全学共通コンテンツ-1. 情報整理 第5回 全学共通コンテンツ-2. レポートの書き方 第6回 全学共通コンテンツ-3. 日本語技法(その1) 第7回 全学共通コンテンツ-3. 日本語技法(その2) 第8回 全学共通コンテンツ-4. プレゼンテーションの方法 第9回 地球温暖化が国内外の農業生産に与える影響の概観 第10回 農業部門別にみた影響 第11回 農業病害虫・生物多様性への影響 第12回 地球温暖化に対応するための取り組み 第13回 プレゼンに向けたグループ学習(その1) 第14回 プレゼンに向けたグループ学習(その2) 第15回 グループごとのプレゼン			
教科書・参考書等			
教科書:『地球温暖化と日本の農業—気温上昇によって私たちの食べ物が変わる!?!』、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構編著、成山堂書店、2020年、¥2420(税込) 参考書:『終わりなき侵略者との闘い 増え続ける外来生物』、五箇公一著、「THE PAGE」編集部編、小学館、2017年、¥1540(税込)			
オフィスアワー 水曜日3限目(安井研究室:農学部CE403、武藤研究室:農学部A508)			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

気候変動・地球温暖化が農業や環境に与える影響を論じた記事が各種メディアで頻繁に報じられています。時間の余裕があるときはそうした記事にも目を通してもらいたい。

ナンバリングコード B1ACL-acbG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081606) 大学入門ゼミ A(6) Startup Seminar on Academic Literacy 地球温暖化が農業・環境に及ぼす影響 (B班) The influences of global warming on agriculture and environment	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期水4	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acb	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 武藤 幸雄, 安井 行雄	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回+自学自習(準備・事後学習30時間)			
授業の概要 本講義は、情報を正確に読み取り表現するための基本的技法について解説し、学生諸君がそれらの技法を習得して使いこなせるようになることを目指す。本講義ではさらに、受講生がそれらの基本的技法を応用しながら地球温暖化が農業や環境に与える影響について科学的理解を深め、それらについて自分の意見を的確に表現できるようにすることも目指す。			
授業の目的 本講義の前半では、全学共通コンテンツとして「情報整理の方法」「レポートの書き方」「日本語技法」「プレゼンテーション技法」などを学習する。これらは、情報を正確に読み取り、自分の意見を的確に表現するために必要な基本的技法であり、香川大学での学びを支える上でぜひ習得すべきものとして位置づけられる。受講生がこれらを確実に習得できるようになるため、本講義ではこれらの基本的技法について詳しく解説する。 本講義の後半では、地球温暖化が農業に与える影響について取り扱う。地球温暖化は化石燃料由来の二酸化炭素など温室効果ガスの増加により引き起こされる。大気が大きな熱エネルギーを保持することで不安定となり、近年では、毎年のように豪雨災害や熱中症被害が生じている。50年以上前から二酸化炭素が温暖化をもたらすと警告していた真鍋淑郎博士に対して2021年のノーベル物理学賞が与えられたことは記憶に新しいが、温暖化問題は農学や環境科学とも深くかかわっている。例えば、温暖化は砂漠化を引き起こし農地面積を減少させ農作物の栽培適地を移動させる。また、農業害虫や衛生害虫の高緯度地域への分布拡大による農業や健康への被害、外来生物の生態系への侵入も懸念されている。こうした多様な問題への対応に関心を持つ人材の養成が今日求められており、本講義はその理解へのイントロダクションの場を提供しようとする。			
到達目標			
1. 情報を正確に読み取り、自分の意見を的確に表現するために求められる基礎的手法を習得する。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応) 2. 学習成果を発表する際に研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる。 3. 地球温暖化と農業生産および環境問題との関係について科学的知見を有し合理的な意見を表明できる。 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
成績評価の方法と基準 授業への出席状況、プレゼンへの取り組み状況、レポート提出状況を総合的に評価する。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
第1回 本ゼミナールに関するガイダンス 第2回 学部共通コンテンツ-1 第3回 学部共通コンテンツ-2 第4回 全学共通コンテンツ-1. 情報整理 第5回 全学共通コンテンツ-2. レポートの書き方 第6回 全学共通コンテンツ-3. 日本語技法(その1) 第7回 全学共通コンテンツ-3. 日本語技法(その2) 第8回 全学共通コンテンツ-4. プレゼンテーションの方法 第9回 地球温暖化が国内外の農業生産に与える影響の概観 第10回 農業部門別にみた影響 第11回 農業病害虫・生物多様性への影響 第12回 地球温暖化に対応するための取り組み 第13回 プレゼンに向けたグループ学習(その1) 第14回 プレゼンに向けたグループ学習(その2) 第15回 グループごとのプレゼン			
教科書・参考書等 教科書:『地球温暖化と日本の農業—気温上昇によって私たちの食べ物が変わる!?!』、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構編著、成山堂書店、2020年、¥2420(税込) 参考書:『終わりなき侵略者との闘い 増え続ける外来生物』、五箇公一著、「THE PAGE」編集部編、小学館、2017年、¥1540(税込)			
オフィスアワー 水曜日3限目(安井研究室:農学部CE403、武藤研究室:農学部A508)			

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

気候変動・地球温暖化が農業や環境に与える影響を論じた記事が各種メディアで頻繁に報じられています。時間の余裕があるときはそうした記事にも目を通してもらいたい。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081607) 大学入門ゼミ A(7) Startup Seminar on Academic Literacy 農業における植物科学(Plant Science in Agriculture)	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期水4	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局:大教センター DPコード:acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 五味 剣二	関連授業科目 分子生物学、植物病理学		
	履修推奨科目 分子生物学、植物病理学		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)			
授業の概要			
<p>我々人類の様々な活動はすべて農業に依存しており、その農業の根幹を支えているのは植物科学研究である。</p> <p>本ゼミナールでは、前半に全学共通コンテンツ(ノート・レポートの書き方、日本語技能、プレゼンテーション技法等)を学習し、後半では各受講生が興味を持った農業と植物科学に関する課題を自ら調べて発表を行うことで、植物科学研究の重要性についての理解を深める。</p>			
授業の目的			
前半では、「ノートの取り方」、「レポートの書き方」、「日本語技法」および「プレゼンテーションの方法」などを学習する。後半では、農業と植物科学に関する課題を題材にして各自がまとめ、個人またはグループ単位でプレゼンテーションすることによって課題探求能力を身につけることを目的とする。			
到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題に対して情報を収集して整理し、まとめることができる(課題解決のための汎用的スキル) 2. 得られた知識を他の人にわかりやすくプレゼンテーションすることができる(プレゼンテーション技法) 3. 学習成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる 4. 農業における植物科学研究の重要性について認識し、その重要性を適切に説明できる(21世紀社会の諸課題に対する探求能力) 			
成績評価の方法と基準			
出席状況、発表内容・授業態度、討論での積極性などを総合評価し、60%以上で合格とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
<p>【授業の方法】初回の講義で受講者に対してアンケート等を取り、興味の方向性を把握する。それを踏まえていくつかの課題の中から、取り組むテーマを決定する。テーマに関して情報を収集して整理し、まとめたものを発表してもらい、質疑応答や意見交換を行う。</p>			
<p>[授業計画]</p> <p>第1回 ガイダンス、課題説明、アンケート</p> <p>第2回 課題決定、グループ分け、発表方法紹介</p> <p>第3回 学部共通コンテンツー情報整理1</p> <p>第4回 学部共通コンテンツー情報整理2</p> <p>第5回 全学共通コンテンツーレポートの書き方・文献の調べ方1</p> <p>第6回 全学共通コンテンツーレポートの書き方・文献の調べ方2、農学部分館利用案内</p> <p>第7回 全学共通コンテンツープレゼンテーションの方法1</p> <p>第8回 全学共通コンテンツープレゼンテーションの方法2</p> <p>第9回 アドバイザーミーティング①</p>			
<p>(第3回から第8回までの間に各自のテーマに関して自学自習し、発表の準備をする。各回は教員の都合により、内容が前後することがある。)</p>			
<p>第10回 受講者による発表と討論1</p> <p>第11回 受講者による発表と討論2</p> <p>第12回 受講者による発表と討論3</p> <p>第13回 受講者による発表と討論4とまとめの講義</p> <p>第14回 アドバイザーミーティング②(新入生合宿時)</p> <p>第15回 アドバイザーミーティング③(新入生合宿時)</p>			
<p>【自学学習に関するアドバイス】</p> <p>第1回, 2回 農学部で学ぶにあたって身につけるべきことに協同で取り組むための準備をする。(10時間)</p> <p>第3回-8回 大学で身につけるべきことを学習するための準備及び課題に取り組む。(20時間)</p> <p>第10回-13回 課題を見つけ出し、これを解決するための学習を行う。また、討論を行い、最終発表の準備及び事後学習を行う。(30時間)</p> <p>第9回, 14回, 15回はアドバイザーミーティングを実施し、修学上の問題点について話し合う。</p>			

【授業形態】

農学部における大学入門ゼミは、演習に位置づけられている為、基本的に対面授業で行います。なお、コロナウイルス等の感染症拡大抑制への対応が求められる状況によっては、授業形態の一部を遠隔授業へ変更する可能性もあります。遠隔講義が実施される際には、当該科目のMoodleやドリームキャンパスを介した情報配信に注意してください。

教科書・参考書等

教科書は使用せず、必要に応じてプリント類を配布する。

オフィスアワー 授業終了後に行う。それ以外の場合は、事前に連絡を取り訪問日時を決定し行う。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

自分の発表だけでなく、他の受講生の発表に対する討論にも積極的に取り組むこと。また、積極的に図書館を利用すること。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081608) 大学入門ゼミ A(8) Startup Seminar on Academic Literacy 農作物の安定供給について考える	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期水4	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局:大教センター DPコード:acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 別府 賢治	関連授業科目 農学入門、食用作物学、果樹学、蔬菜学、植物品種 開発学、農業経済学		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 近年、食糧自給率の低下や世界的な食糧不足、地球温暖化の進行などの状況下で、農作物の安定供給は非常に重要な課題となっている。本ゼミナールの前半では、「ノートの取り方」、「レポートの書き方」、「日本語技法」、「プレゼンテーション技法」などを学習する。後半では、農作物の安定供給に関するテーマを各自設定し、農作物の供給の状況について詳しく調べるとともに、今後の安定的な供給のための方策を考える。前半で学んだ技術を活用して、各自プレゼンを準備し発表する。			
授業の目的 前半では、「ノートの取り方」、「レポートの書き方」、「日本語技法」および「プレゼンテーションの方法」などを学修する。後半では、「農作物の安定供給」に関する課題を題材にして各自がまとめ、プレゼンテーションすることによって課題探求能力を身に着けることを目的とする。			
到達目標			
1. 課題に対して、情報を収集して整理し、まとめることができる。(課題解決のための汎用的スキル) 2. 得られた知識を他の人にわかりやすくプレゼンテーションすることができる。(プレゼンテーション技法) 3. 学修成果を発表する際に、研究倫理に関する規範に則った方法をとることができる。 4. 農作物の安定供給について現状と課題を認識し、それらを適切に説明できる。(21世紀社会の諸課題に対する探求能力)			
成績評価の方法と基準 出席状況、発表内容・授業態度、討論での積極的な発言を総合して評価し、60%以上で合格とする。			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】受講者は各自またはグループで、農作物の安定供給に関して興味のある項目を選び、それについての資料を収集しまとめる。まとめた内容は他の受講者にも理解できるように整理する。また、選んだ項目についてプレゼンテーションを行い、発表内容について討論する。発表にはMicrosoft社のプレゼンテーション作製ソフトPowerPointを用いる。			
[授業計画] 第1回 ガイダンス、課題説明、アンケート 第2回 課題決定、グループ分け、発表方法紹介 第3回 学部共通コンテンツ-情報整理1 第4回 学部共通コンテンツ-情報整理2 第5回 全学共通コンテンツ-レポートの書き方・文献の調べ方1 第6回 全学共通コンテンツ-レポートの書き方・文献の調べ方2、農学部分館利用案内 第7回 全学共通コンテンツ-プレゼンテーションの方法1 第8回 全学共通コンテンツ-プレゼンテーションの方法2 第9回 アドバイザーミーティング (第3回から第9回までの間に各自のテーマに関して自学自習し、発表の準備をする。各回は教員の都合により、内容が前後することがある。) 第10回 受講者による発表と討論1 第11回 受講者による発表と討論2 第12回 受講者による発表と討論3 第13回 まとめ (合宿で2回分の授業を行う)			
【自学学習に関するアドバイス】 第1回、2回 農学部で学ぶにあたって身につけるべきことに協同で取り組むための準備をする。(10時間) 第3回-9回 大学で身につけるべきことを学習するための準備および課題に取り組む。(20時間) 第10回-13回 課題を見つけ出し、これを解決するための学習を行う。また、討論を行い、最終発表の準備および事後学習を行う。(30時間)			
【授業形態】 農学部における大学入門ゼミは、演習に位置づけられている為、基本的に対面授業で行います。なお、コロナウイルス等の感染症拡大抑制への対応が求められる状況によっては、授業形態の一部を遠隔授業へ変更す			

る可能性もあります。遠隔講義が実施される際には、当該科目のMoodleやドリームキャンパスを介した情報配信に注意してください。

教科書・参考書等

教科書は使用せず、必要に応じてプリント類を配布する。

オフィスアワー 授業終了後30分程度

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

自分の発表だけでなく、他の受講生の発表に対する討論にも積極的に取り組むこと。また、積極的に図書館を利用すること。

ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081609) 大学入門ゼミ A(9) Startup Seminar on Academic Literacy 酵素とヒトの暮らし (A班) Enzymes and human life (group A)	科目区分 大学入門ゼミ	時間割 2022年度 前期水4	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ	提供部局 : 大教センター DPコード : acx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 2	
担当教員名 米倉 リナ, 加藤 志郎	関連授業科目 基礎生物化学、希少糖学 履修推奨科目		
学習時間 講義90分×15回+自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)			
授業の概要 前半では、全学共通コンテンツとして「ノートの取り方や情報整理」、「レポートの書き方」、「日本語技法」、「プレゼンテーションの方法」などを解説する。後半では、酵素とは何か、酵素活性を調整することがどのようなことにつながるのかについて学ぶ。酵素は生命に欠かせない存在であり、生体のあらゆる機能を維持する役割がある。生体の不調には必ずと言っても良いぐらい、いくつかの酵素活性に変化がみられる。また、酵素活性を調整できる物質は医薬品や食品に存在し、様々な疾病の治療に役立つことについて理解を深める。その後、各自が興味をもった酵素を対象とした課題を設定し、自ら情報収集し、まとめた内容についてプレゼンテーションおよび全員参加での討論を行うことで総合的な能力を身につける。			
授業の目的 大学では、興味を持った事柄について能動的に調べ、学ぶ姿勢が求められています。本ゼミの前半では、全学共通コンテンツとして「研究倫理」、「ノートの取り方」、「レポートの書き方」、「文章の作成方法」、「プレゼンテーションの方法」などを学習する。後半では、各自が設定した課題について自ら調べ、まとめた内容をプレゼンテーションすることによって課題探求能力を身につけることを目的とする。			
到達目標			
(1) 自ら設定した課題を、適切な方法で情報を収集して整理し、まとめることができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 (2) 得られた知識を、他者にわかりやすく説明することができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 (3) 学習成果の発表を、研究倫理に関する規範に則った方法で行うことができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 (4) 酵素について、その重要性や多様性、役割、利用などに関して認識し、それらを適切に説明できる (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。			
成績評価の方法と基準 課題発表40%、課題発表に対する討論への参加状況20%、その他のコンテンツへの参加状況40%			
授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス			
【授業の方法】 受講者は各自またはグループで興味のある酵素を対象とした課題を選び、それについての資料を収集しまとめる。まとめた内容は他の受講者にも理解できるように整理する。また、本講義内においてその課題についてプレゼンテーションを行い、発表内容について討論する。発表にはMicrosoft社のプレゼンテーション作製ソフトPowerPointを用いる。 なお、進捗状況によって計画を変更することがある。			
【授業計画】 第1回 オリエンテーション、グループ分け、ガイダンス 第2回 学部共通コンテンツ-図書館農学部分館訪問 第3回 課題の説明、取り組み方と発表方法についての説明 第4回 全学共通コンテンツ-1 コンプライアンスと研究倫理 第5回 全学共通コンテンツ-2 ノートの取り方、メールの書き方 第6回 全学共通コンテンツ-3 レポートの書き方、文献の調べ方 第7回 全学共通コンテンツ-4 文章の作成と要約の方法 第8回 全学共通コンテンツ-5 プレゼンテーションの方法 第9回 アドバイザーミーティング 第10回 発表準備-1 第11回 発表準備-2 第12回 受講者による発表と討論-1 第13回 受講者による発表と討論-2 第14回 受講者による発表と討論-3 第15回 受講者による発表と討論-4、およびまとめ			
【自学自習に関するアドバイス】 第4-1 1回: 各回あたり計7～8時間程度をあてる			

主に配布するテキストを毎回予習復習し、日常生活や他の講義で実践してみる。この間に各課題や各グループのテーマに関して自学自習し、発表の準備をする。

【授業形態】

農学部における大学入門ゼミは、演習に位置づけられている為、基本的に対面授業で行います。なお、コロナウイルス等の感染症拡大抑制への対応が求められる状況によっては、授業形態の一部を遠隔授業へ変更する可能性もあります。遠隔講義が実施される際には、当該科目のMoodleやドリームキャンパスを介した情報配信に注意してください。

教科書・参考書等

特に指定しない。必要に応じてプリント等の配布を行う。

オフィスアワー 質問や相談は随時受け付ける（農学部CW301-3）が、事前にメール等でコンタクトのあることが望ましい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

自分の発表だけでなく、他の受講生の発表に対する討論にも積極的に参加すること。また、図書館等を積極的に利用すること。

<p>ナンバリングコード B1ACL-acxG-10-Lg2 授業科目名 (時間割コード:081610) 大学入門ゼミ A(10) Startup Seminar on Academic Literacy 酵素とヒトの暮らし (B班) Enzymes and human life (Group B)</p>	<p>科目区分 大学入門ゼミ 水準 学士:入門科目 分野 大学入門ゼミ 授業形態 講義 グループワーク</p>	<p>時間割 2022年度 前期水4 提供部局: 大教センター DPコード: acx 単位数 2</p>	<p>対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし</p>
<p>担当教員名 加藤 志郎, 米倉 リナ</p>	<p>関連授業科目 基礎生物化学、希少糖学 履修推奨科目</p>		
<p>学習時間 講義90分×15回+自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)</p>			
<p>授業の概要 前半では、全学共通コンテンツとして「ノートを取り方や情報整理」、「レポートの書き方」、「日本語技法」、「プレゼンテーションの方法」などを解説する。後半では、酵素とは何か、酵素活性を調整することがどのようなことにつながるのかについて学ぶ。酵素は生命に欠かせない存在であり、生体のあらゆる機能を維持する役割がある。生体の不調には必ずと言っても良いぐらい、いくつかの酵素活性に変化がみられる。また、酵素活性を調整できる物質は医薬品や食品に存在し、様々な疾病の治療に役立つことについて理解を深める。その後、各自が興味をもった酵素を対象とした課題を設定し、自ら情報収集し、まとめた内容についてプレゼンテーションおよび全員参加での討論を行うことで総合的な能力を身につける。</p>			
<p>授業の目的 大学では、興味を持った事柄について能動的に調べ、学ぶ姿勢が求められています。本ゼミの前半では、全学共通コンテンツとして「研究倫理」、「ノートを取り方」、「レポートの書き方」、「文章の作成方法」、「プレゼンテーションの方法」などを学習する。後半では、各自が設定した課題について自ら調べ、まとめた内容をプレゼンテーションすることによって課題探求能力を身につけることを目的とする。</p>			
<p>到達目標</p>			
<p>(1) 自ら設定した課題を、適切な方法で情報を収集して整理し、まとめることができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 (2) 得られた知識を、他者にわかりやすく説明することができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 (3) 学習成果の発表を、研究倫理に関する規範に則った方法で行うことができる (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)。 (4) 酵素について、その重要性や多様性、役割、利用などに関して認識し、それらを適切に説明できる (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。</p>			
<p>成績評価の方法と基準</p>			
<p>課題発表40%、課題発表に対する討論への参加状況20%、その他のコンテンツへの参加状況40%</p>			
<p>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</p>			
<p>【授業の方法】 受講者は各自またはグループで興味のある酵素を対象とした課題を選び、それについての資料を収集しまとめる。まとめた内容は他の受講者にも理解できるように整理する。また、本講義内においてその課題についてプレゼンテーションを行い、発表内容について討論する。発表にはMicrosoft社のプレゼンテーション作製ソフトPowerPointを用いる。 なお、進捗状況によって計画を変更することがある。</p> <p>【授業計画】 第1回 オリエンテーション、グループ分け、ガイダンス 第2回 学部共通コンテンツ-図書館農学部分館訪問 第3回 課題の説明、取り組み方と発表方法についての説明 第4回 全学共通コンテンツ-1 コンプライアンスと研究倫理 第5回 全学共通コンテンツ-2 ノートを取り方、メールの書き方 第6回 全学共通コンテンツ-3 レポートの書き方、文献の調べ方 第7回 全学共通コンテンツ-4 文章の作成と要約の方法 第8回 全学共通コンテンツ-5 プレゼンテーションの方法 第9回 アドバイザーミーティング 第10回 発表準備-1 第11回 発表準備-2 第12回 受講者による発表と討論-1 第13回 受講者による発表と討論-2 第14回 受講者による発表と討論-3 第15回 受講者による発表と討論-4、およびまとめ</p> <p>【自学自習に関するアドバイス】 第4-11回: 各回あたり計7~8時間程度をあてる</p>			

主に配布するテキストを毎回予習復習し、日常生活や他の講義で実践してみる。この間に各課題や各グループのテーマに関して自学自習し、発表の準備をする。

【授業形態】

農学部における大学入門ゼミは、演習に位置づけられている為、基本的に対面授業で行います。なお、コロナウイルス等の感染症拡大抑制への対応が求められる状況によっては、授業形態の一部を遠隔授業へ変更する可能性もあります。遠隔講義が実施される際には、当該科目のMoodleやドリームキャンパスを介した情報配信に注意してください。

教科書・参考書等

特に指定しない。必要に応じてプリント等の配布を行う。

オフィスアワー 質問や相談は随時受け付ける（農学部CE102-2）が、事前にメール等でコンタクトのあることが望ましい。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

自分の発表だけでなく、他の受講生の発表に対する討論にも積極的に参加すること。また、図書館等を積極的に利用すること。